

FIELD MEMORY RECORDER

Model **FR-2LE**

取扱説明書



安全上のご注意

ここでは、本機をご使用になる上での安全に関する項目を記載してあります。あなたや他の人々へ与える危害や、財産などへの損害を未然に防止するため、ここに記載されている事項をお守りいただくものです。本機をご使用前には必ずお読みください。



この表示の欄に記載されている事項を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示の欄に記載されている事項を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示について

本書、および製品の表示には、あなたや他の人々へ与える危害や財産の損害を未然に防ぎ、本機を安全にご使用いただくために、警告または注意を促す絵表示を使用しています。これらの絵表示の意味をよく理解してから本書をお読みください。

絵表示の例

記号は、注意しなければならない内容（警告も含みます）を示しています。具体的な注意事項は の中や近くに絵や文章で示しています（上図の例は「感電注意」を示しています）。

記号は、禁止内容（してはいけないこと）を示しています。具体的な禁止事項は の中や近くに絵や文章で示しています（上図の例は「分解禁止」を示しています）。

記号は、強制内容（必ずすること）を示しています。具体的な強制事項は の中や近くに絵や文章で示しています（上図の例は「電源プラグをコンセントから抜く」を示しています）。

警告

異常が発生した場合	
<p>万一、煙りが出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。すぐに機器本体の電源を切り、必ずACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。異常がなくなったことを確認して販売店または当社営業窓口へ修理の依頼をしてください。お客様ご自身の修理は大変危険ですので、絶対にお止めください。</p>	<p>万一、機器を落としたり、カバーを破損した場合には、すぐに機器本体の電源を切り、必ずACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いて販売店または当社営業窓口へ修理を依頼してください。そのまま使用すると火災・感電の原因になります。</p>
設置する場合	
<p>万一、機器内部に水や異物が入った場合には、すぐに機器本体の電源を切り、必ずACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いて販売店または当社営業窓口へ修理の依頼をしてください。そのまま使用すると火災・感電の原因になります。</p>	<p>機器本体に直接水のかかる場所には置かないでください。火災・感電の原因になります。特に屋外での使用（雨天、降雪時、海岸、水辺）にはご注意ください。</p>
<p>ACアダプタの電源コードの断線、芯線の露出など、コードが傷んだ場合には、販売店または当社営業窓口へ修理を依頼してください。そのまま使用すると火災・感電の原因になります。</p>	<p>製品本体の上に花瓶、コップや水などの入った容器、または小さな金属物類を置かないでください。何らかの理由で水がこぼれたり、中に金属物が入ったりした場合、火災・感電の原因になります。</p>

使用する場合			
	本機の分解・修理・改造は絶対にしないでください。また、本体カバーは絶対に外したりしないでください。火災・感電の原因になります。		ACアダプタの電源コードを傷つけたり、加工したり、ねじったり、引っ張ったり、あるいは加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因になります。
	雷が鳴り出したら、ACアダプタの電源プラグには絶対手を触れないでください。感電の原因になります。		機器本体または取扱説明書に記載されている電源電圧以外の電圧では使用しないでください。なお、ACアダプタの電源プラグは電源コンセントに確実に差し込んでご使用ください。火災・感電の原因になります。
	ACアダプタの電源コードの上に重いものを載せたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。コードが傷付いて火災・感電の原因になります。		また、内蔵バッテリーを使用するときも、ご使用前に確実にセットされていることを確認してください。
	ディスク・トレイを開けると、可視または不可視レーザー光が出ます。ビームを直接見たり、触れたりしないでください。		

注意

設置する場合			
	油煙や湯気の当たるような場所、あるいは湿気やホコリの多いところに置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。		本機を長期間（一ヶ月以上）使用しない場合には、安全のため必ずACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください（およびバッテリーを外す）。接続（あるいはバッテリーを内蔵したまま）したままにしておくと、火災・感電の原因となることがあります。
	ACアダプタの電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。		濡れた手でACアダプタの電源プラグの抜き差しはしないでください。感電の原因となることがあります。
	本機をぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがの原因となることがあります。		電源が入った状態で、本機を布やふとんなどで被ったりしないでください。熱がこもり、火災の原因となることがあります。
	窓を閉め切った車の中や、直射日光が長時間当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。		大きなモニター音を長時間ヘッドフォンでモニターするのはお止め下さい。聴力障害の原因となることがあります。
	この製品は精密な部品でできています。製品を運ぶときなどは、必ず二人以上で慎重に行ってください。	製品をお手入れする場合	
	本機を移動する場合には、電源スイッチを切り、必ずACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いて、接続されている外部機器の接続ケーブルを外してから行ってください。コードが傷付き、火災・感電の原因となることがあります。		本機をお手入れする場合には、安全のためACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。電源プラグを差し込んだまま行くと、感電の原因となることがあります。
使用する場合			5年に一度位は、機器内部の清掃が必要です。販売店または当社営業窓口へご相談ください。長期間掃除しないと内部にホコリがたまり、そのまま使用すると火災・感電の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨時期の前に行くと、より効果的です。
	本機に他のオーディオ機器を接続する場合には、必ず本機および接続する機器の電源を切り、接続する機器の説明書をよく読んで、説明に従って正しく接続してください。また、接続に使用するケーブルなどは指定されたケーブルを使用してください。	その他のご注意	
	本機の電源を入れる前には音量（ボリュームなど）を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害の原因となることがあります。	本機の近くで携帯電話を使用すると、機器にノイズが入ることがあります。携帯電話のご使用は、本機から離れた場所で行ってください。	
		この製品をラジオやテレビの近くで使用すると、ノイズや雑音が生じることがあります。このような場合には、本機をラジオやテレビから離してご使用ください。	

目次

はじめに.....	9
ご使用になる前の注意.....	9
MP3 (MPEG Layer-3) について.....	10
設置上のご注意.....	10
アフターサービスについて.....	10
取扱説明書のご使用にあたって.....	11
本書の目的.....	11
本書の構成.....	11
本書の記述方法について.....	14

第1章 製品の概要.....15

製品の主な概要.....	16
製品の主な特長 / 機能.....	16
付属品について.....	17
ソフトウェアのバージョンアップについて.....	18

第2章 ご使用になる前に.....19

電源について.....	20
ACアダプタで駆動する.....	20
アダプタの接続.....	20
電池で駆動する.....	21
単三電池(4本)のセット.....	21
電池を収納したバッテリー・ケース(またはタミヤバッテリー)のセット.....	22
パワー・オン.....	25
バッテリーの電圧表示について.....	26
メモリー・カードの初期フォーマット.....	27
ディスプレイのバックライトと、コントラスト調整.....	29
バックライトの点灯 / 消灯.....	29
ディスプレイのコントラスト調整.....	30
リアルタイム・クロック(内蔵時計)について.....	31
メモリー・カードについて.....	32
カードの出し入れ.....	32
カードの取り出し.....	33
カードの挿入.....	34

ショルダーの取付け.....	36
第 3 章 各部の名称と機能.....	37
フロント・パネル部.....	38
トップ・パネル部.....	39
左サイド・パネル部.....	41
右サイド・パネル部.....	42
バック・パネル部.....	42
ボトム・パネル部.....	43
ディスプレイ部の詳細.....	44
電源投入後のディスプレイ.....	44
メモリー・カードがスロットにセットされていないとき.....	44
フォーマット済みで未記録のメモリー・カードがセットされているとき.....	44
本機で記録済みのメモリー・カードがセットされているとき.....	44
MENUモードのディスプレイ.....	46
ワーニング・ディスプレイ.....	46
第 4 章 基本接続.....	49
オーディオ信号の接続.....	50
外部マイクロホンの接続.....	50
外部オーディオ機器のライン出力を接続.....	50
モニター出力の接続.....	51
ヘッドホンの接続.....	51
その他の接続例.....	52
PCとの接続.....	52
リモート・コントローラの接続.....	52
第 5 章 記録 / 再生.....	53
記録方式について.....	54
記録開始前の設定について.....	55
クイックセットアップ・モードでの設定.....	55
クイックセットアップ・モードの設定手順.....	56
ALC (Auto Level Control) 機能の設定(必要に応じて設定).....	57
HPF (High Pass Filter) 機能の設定(必要に応じて設定).....	57

ファンタム電源の供給(必要に応じて設定).....	57
記録ソースの設定(記録時に必ず設定).....	57
MENUモードでの設定.....	58
デフォルト・ファイル・ネーム(必要に応じて設定).....	58
プリ・レコーディング機能(必要に応じて設定).....	58
ファイルの最大記録容量(必要に応じて設定).....	59
モニターの出力モード(必要に応じて設定).....	59
エラー・トーンの出力モード(必要に応じて設定).....	59
ディスプレイの表示モード(必要に応じて設定).....	59
オーディオ信号の記録.....	60
入力ゲインの調整.....	60
録音レベルの調整.....	60
外部入力(マイクまたはライン入力)での記録時.....	60
内蔵マイクでの記録時.....	61
記録の開始.....	62
CUEポイントの記録.....	63
任意の位置にCUEポイントを記録.....	63
記録したCUEの確認.....	64
リアルタイムに不要なCUEを削除.....	64
オーディオ・ファイルの再生.....	65
通常の再生.....	65
キューイング・モードによる再生.....	66
ロケット機能.....	66
ファイル単位のロケット.....	66
CUEポイントのロケット.....	66
ファイル先頭(ABS 0)へのロケット.....	67
ファイルの最終記録位置(REC END)へのロケット.....	67

第6章 PCへのインポート.....69

PCとの接続.....	70
USB Modeの接続手順.....	71
ハードディスクへのコピー.....	72
メモリー・カードへのコピー.....	72
コンピュータ・ソフトへのインポート.....	73
カード・プロテクトの設定 / 解除.....	76

第7章 MENUモード	77
MENUモードの操作方法	78
サブ・メニューの詳細.....	79
Fileメニュー	80
選択したオーディオ・ファイルの先頭にロケート.....	80
ファイル・ネームをリネームして再登録.....	81
任意のオーディオ・ファイルをADLから外す.....	83
ADLから外したフリー・ファイルを再度ADLに組み込む.....	84
Diskメニュー	85
メモリー・カードのフォーマット.....	86
メモリー・カードのReel Numberをリネームして再登録.....	89
レジューム機能のON/OFF設定.....	90
Setupメニュー	91
Auto Level Control、Limiter機能のON/OFF設定.....	91
HPF (High Pass Filter) 機能のON/OFF設定.....	92
デフォルト記録フォーマットの設定.....	93
入力ソースの設定.....	94
ファンタム電源のON/OFF設定.....	95
モニターの出力モード設定.....	96
内蔵スピーカのON/OFF設定.....	97
記録時作成されるファイルの、ファイル・ネーム・モードを設定.....	98
デフォルト・ファイルネームを設定.....	99
Take Numberを設定.....	100
オリジナルのシーン・ネームを設定.....	100
編集したファイル・ネームを使用可能にする.....	101
デフォルト・ファイル・ネームを初期設定に戻す.....	101
Pre RecモードのON/OFF設定.....	102
タイム表示の表示モードを設定.....	103
リメインの表示モードを設定.....	104
ファイルの最大記録容量を設定.....	105
本機を駆動するバッテリー・タイプを設定.....	106
エラー・トーン出力の設定 / 解除.....	107
リアルタイム・クロックの設定.....	108
本体ROMのバージョン確認.....	109
Setupメニューのイニシャライズ.....	110
ソフトウェアのバージョンアップ.....	111

第 8 章 製品の主な仕様.....113

入出力.....114
記録 / 再生.....114
一 般.....115
外観寸法図.....116

はじめに

この取扱説明書は、フォステクス Field Memory Recorder Model FR-2LEをご使用いただくためのガイド・ブックです。

本書の記載内容は、業務用デジタル・レコーダの使用経験と基礎知識がおりになる方々を対象に書かれています。したがって、本書の「第1章 製品の概要」および「第3章 各部の名称と機能」をお読みいただければ、FR-2LEのおおよその使用方法がお分かりいただけるよう、簡潔にまとめてあります。

特に、「第2章 ご使用になる前に」では、FR-2LEを初めてご使用になるために重要な「電源の取り扱い方法」および「メモリー・カードの取り扱い方法」など、基本的な取り扱い方法や注意事項について記載しています。本機をはじめにご使用いただくには、是非「第2章 ご使用になる前に」を十分にお読みくださるようお願い致します。

ご使用になる前の注意（冒頭記載の「安全上のご注意」と、併せてお読みください）

本機の電源をACコンセントから供給する場合には、必ず付属のACアダプタをご使用ください。指定以外のアダプタをご使用になった場合、FR-2LEの性能が得られないばかりか、本機を壊す恐れがありますのでご注意ください。

付属のACアダプタは、日本国内（AC100V電源仕様）でのみ使用できます。電源電圧の異なる地域でご使用いただく場合は、当社サービス部門（042-546-3151、FAX. 042-546-3198）へご相談ください。なお、ACアダプタは電源周波数50Hz、60Hzいずれの地域でもご使用になれます。

本機には、定格以外の電源電圧を供給しないでください。

電池は、ニッカド電池、ニッケル水素電池、アルカリ電池またはタミヤ・バッテリー（7.2V）を使用し、充電電池はフル充電されている物をご使用ください。

電池の交換や、ACアダプタの電源プラグの抜き差しは、必ず本機の主電源をオフにしてから行ってください。電源がオンの状態では、常にデータのやり取りを行っているため、メモリ内容を壊す恐れがあります。

記録中などメモリー・カードのアクセス中は、絶対に電源を切らないでください。電源をオフするときは、カードのアクセスが完全に停止していることを確認してください。記録したデータを失うことはもとより、メモリー・カードの故障の原因となります。なお、本機を使用中に生じるあらゆるデータの消失に関しては、当社では一切の責任を負いませんのでご注意ください。

本機を使用して生じる「直接的損害」・「間接的損害」については、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご承知置きください。

本機の内部（特にカード・スロット内部）に水などの液体や可燃物、あるいはピンなどの金属類を入れないでください。万一、水などが入った場合にはすぐに電源を切り、ACアダプタを使用している場合はアダプタの電源コードを抜いて、当社サービス部門へご相談ください。

本機を落としたり、強い衝撃を与えないでください。内部回路やディスプレイ/パネルなどが破損することがあります。本機は主に屋外での使用を考慮して設計されていますが、精密機器のため取り扱いには充分ご注意ください。

本機外装カバーを取り外したり、本機の内部に手を触れないでください。故障の原因となります。

付属のショルダーをご使用になる際は、ショルダーをFR-2LE本体に正しく取り付けてください。思わぬ事故の原因となります。

LCDディスプレイには強い衝撃を与えないでください。LCD内部の液体は有害物質です。万一、破損流失した液晶は、なめたり吸い込んだりしないでください。手など他の皮膚に液晶が付着した場合には、速やかに水などで完全に洗い流してください。

< 重要 >

本機の機種名、電気定格、およびシリアル・ナンバーなどは、製品の底部に表示されています。



MP3 (MPEG Layer-3) について

本製品の供給は、収益を発生する放送システム（地上波、衛星放送、ケーブルおよび/もしくはその他の配信チャンネル）ストリーミングアプリケーション（インターネット、イントラネット、および/もしくはその他のネットワーク経由で）その他のコンテンツシステム（ペイオーディオまたはオーディオオンデマンドアプリケーションなど）または物理的媒体（コンパクトディスク、デジタル汎用ディスク、半導体チップ、ハードドライブ、メモリーカードなど）で、本製品で創作されたコンテンツを配信するライセンスを与えるものではありませんし、同コンテンツを配信する権利を暗示するものでもありません。当該使用には、独立したライセンスが必要です。詳細に関しては <http://mp3licensing.com> にアクセスしてください。

設置上のご注意

本機を下記のような条件下では、使用しないでください。

- * 極端に暑いところや寒いところなど、気温の変化の激しい場所。
- * 湿気の多い場所。
- * 激しく振動する場所。
- * ホコリの多い場所。
- * 強い磁気を発生する場所、あるいは磁気を発生させる機器の傍。
- * 長時間直射日光があたる場所。
- * 直接雨などの水が当たる場所。

結露について

極端に寒いところから急に暖かい部屋などへ本機を移動すると、結露が生じてディスプレイ/パネルなどに水滴が付くことがあります。このような場合には、移動した場所の温度になじむまで、本機をしばらく放置することをお勧めします。

アフターサービスについて

保証期間中は保証書の記載内容に基づき、当社サービス部門で修理致します。その他詳細については、保証書の裏をご覧ください。

保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理についてご不明な点は、お買い上げいただいた販売店、もしくは当社営業窓口（042-546-6355, FAX. 042-546-6067）へご相談ください。

保証期間経過後でも、修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料修理致します。修理費用 / 期間などについては、当社サービス部門(042-546-3151, FAX. 042-546-3198)へお問い合わせください。

この製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)の最低保有期間は、製造打ち切り後6年です。

取扱説明書のご使用にあたって

<本書の目的>

この取扱説明書は、フォステクス FIELD MEMORY RECORDER FR-2LE を有効にご使用いただくためのガイドブックとして構成されています。

製品の各部の名称と働きをはじめ、FR-2LE が搭載している各種機能の説明など、FR-2LE をご使用いただく上で理解していただきたい事項について、章ごとに分けて説明してあります。さらに、ご使用上の注意、安全上の注意、およびアフターサービスについても説明してありますので、常に本書を参考にさせていただけるよう、大切に保管してご利用ください。

<本書の構成>

目次をご覧くださいても、おおよその項目を知ることができますが、ここでは本書全体の構成と記載内容を把握していただくために、第1章をはじめ全章の概略について説明しています。

<第1章>：製品の概要

FR-2LE の概要をはじめ、製品の主な特徴について記載しています。

<第2章>：ご使用になる前に

初めてFR-2LE をご使用になる際に必要な、「電源の取り扱いと注意事項」と「メモリー・カードの取り扱い / 初期フォーマット」などについて記載しています。

<第3章>：各部の名称と働き

FR-2LE の機能が理解できるよう、フロント・パネル / トップ・パネル部のスイッチや操作キーの説明、およびサイド・パネル部の入出力端子の働きなどを説明しています。デジタル機器に使い慣れたユーザーであれば、この章をお読みいただくことでFR-2LE の機能がおおよそ理解できるようになっています。

<第4章>：基本接続

FR-2LE の入出力端子に接続する、外部機器の基本的な接続方法と使用方法について記載しています。アナログ・オーディオ信号、USB コネクタを使用した PC との接続や、ワイヤード・リモコンの接続などについて記載しています。

<第5章>：記録 / 再生

FR-2LE を使ったアナログ・オーディオ信号の記録 / 再生について記載しています。さらには、CUE の記録方法やロケート機能についてもこの章をお読みください。

< 第 6 章 > : PC への取り込み

本機と PC を接続して、記録したオーディオ・ファイルのデータ (BWF ファイル / MP3 ファイル) をコンピュータのハードディスクへコピーしたり、Digidesign Pro Tools などのコンピュータ・ソフトへインポートする方法について記載しています。

< 第 7 章 > : MENU モード

本機をご使用いただく上で必要な各種設定メニューについて記載しています。MENU モードは 4 つのメイン・メニューで構成され、それぞれのメイン・メニューには用途に応じた各種設定を行うサブ・メニューが用意されています (**注意: 製品のバージョンアップに伴い、メニューの項目は変更することがあります**)。

(1) File メニュー (詳細は 80 ページを参照)

オーディオ・ファイルに関連した設定や編集を行う、5 つのサブ・メニューで構成されています。

サブ・メニュー	詳細
Locate	選択した任意のファイル先頭へロケート。
Rename	任意のオーディオ・ファイル・ネームをリネームして再登録。
Remove	任意のオーディオ・ファイルを ADL (Audio Decision List) から外す。
Prev.Insert	ADL から外したフリー・ファイルを、再度 ADL に組み込む。
Next Insert	ADL から外したフリー・ファイルを、再度 ADL に組み込む。

(2) Disk メニュー (詳細は 86 ページを参照)

メモリー・カードに関連した設定や編集を行う、3 つのサブ・メニューで構成されています。

サブ・メニュー	詳細
Format	メモリー・カードのフォーマット。
Reel No	メモリー・カードの Reel Number を編集して再登録。
Resume	レジューム機能の ON/OFF を設定。

(3) Setup メニュー (詳細は 91 ページを参照)

FR-2LE の動作環境に関連した設定や編集を行う、19 のサブ・メニューで構成されています。

サブ・メニュー	詳細
ALC	Auto Level Control または Limiter の ON/OFF 設定。
HPF	ハイパスフィルター機能の ON/OFF 設定。
Def. FS/BIT	メモリー・カードの記録フォーマットを設定。
Source Sel.	記録ソース (外部入力または内蔵マイク) の設定。

サブ・メニュー	詳細
Phantom	ファンタム電源のON/OFF設定。
Monitor Mode	モニターの出力モード（ステレオ/モノ）を設定。
Speaker Out	内蔵スピーカー機能のON/OFFを設定。
File Name Mode	記録時のファイル・ネーム・モードを設定。
Default File Name	File Name Mode を Take 設定時の、Scene name/Take No を設定。
Pre Rec	Pre Record 機能のON/OFFを設定。
Time Display	タイム表示部の表示モードを設定。
Remain Display	リメイン表示部の表示モードを設定。
Max. File Size	ファイルの最大記録容量を設定。
Battery Type	本機を駆動する、電池の種類を設定。
Error Tone	エラー・トーン出力機能のON/OFFを設定。
AdjustRealTimeClock	内蔵時計の設定。
Version	搭載ROMのバージョン確認。
Initial Setup	Setupメニューのイニシャライズ。
Version Up	ソフトウェアのバージョンアップ。

(4) USB Mode メニュー（詳細は69ページを参照）

PCとの接続を実行する際に必要なUSBモードの設定に関連した、2つのサブ・メニューで構成されています。

サブ・メニュー	詳細
Card Protect	メモリー・カードのプロテクトON/OFF設定。
USB Device Mode	PCとのUSB接続/解除を設定。

< 第8章 > : 製品の主な仕様

本機の機械特性、電気特性や外観寸法図など、製品規格の詳細を記載してあります。

<本書の記述方法について>

本書説明においては、下記のような記述がされています。

- 1) 本文中に多く出てくる言葉は、以下のように「略語」で表記しています。

<表記例>

コンパクトフラッシュ™・カード	CFC (CompactFlash™ Card)
サンプリング周波数	FS (Sampling Frequency)
リアルタイム・クロック	RTC (Real Time Clock)
パーソナル・コンピュータ	PC (Personal Computer)

- 2) 各操作キー、スイッチ、コネクタなどは、原則として本体パネルの表記文字を使い、[]で囲って記載してあります。

<表記例>

プレイ・キー	[PLAY] キー
電源スイッチ	[POWER] スイッチ
アナログ入力コネクタ	[ANALOG IN] コネクタ

- 3) “ ”で囲まれた文字は、スイッチのポジション名、あるいはディスプレイに表示されるメッセージなどを表しています。
- 4) インジケータだけでなく、ディスプレイ上に現れるメッセージなども含め、「点灯」または「点滅」と表現しています。
- 5) 通常アナログ・レコーダーでは「録音」と表記しますが、本機のようなデジタル・レコーダでは、オーディオ信号以外にCUEポイントなども扱うため、「記録」と表現しています。ただし、オーディオ信号の解説で一部「録音」と記載している箇所もあります。
- 6) <注意>は、本機を正しくご使用いただくための注意事項、およびアドバイスとして記載してあります。

第1章 製品の概要

FR-2LEの主な特長 / 機能、および付属品やソフトウェアのバージョンアップなどについて記載しています。

製品の主な概要

Model FR-2LEは、TYPE IIのコンパクトフラッシュ・カード™をメディアに採用した、ポータブル・タイプの業務用メモリー・レコーダで、高音質のステレオ録音が可能です。主に屋外での音声収録に性能を発揮させるため、小型/軽量設計のボディを採用、電池またはACアダプタの2電源方式で駆動することができます。

また、パソコンとの接続を可能にする専用USBポートを装備し、FR-2LEで記録したオーディオ・ファイル・データをパソコンに取り込んで編集などが可能です。

製品の主な特長 / 機能

TYPE IIのCFカード用スロットを装備し、記録メディアにコンパクトフラッシュ・カード™が使用可能です。

電源は2電源方式を採用し、付属のACアダプタまたは単三電池(アルカリ/ニッカド/ニッケル水素)で駆動することが可能です。さらには、世界標準のタミヤバッテリー(7.2V)が内蔵でき、長時間の録音にも対応します。

ファイル・システムはFAT32に対応し、記録ファイルのフォーマットはBWFのインターリーブ1ファイル仕様を採用しています。Pro Tools等のDAWにインポートすることが可能です。

44.1kHz / 48kHz / 88.2kHz / 96kHz 24Bitおよび44.1kHz / 48kHz 16Bitでの記録をサポートし、さらにはMP3ファイルのダイレクト記録も可能です。

屋外での収録時に威力を発揮する“Pre Record”機能を搭載。記録開始前2秒間のオーディオ・データをバッファに蓄えることで、記録開始時の録音ミスを防ぐことが可能です。(“Pre Record”機能は、MENUモードのSetupメニューで設定します)。

外部マイク入力には、L、R独立したトリムによる入力レベルの調整、さらには電源を必要とするコンデンサ・マイクへのファンタム電源(+48V)の供給も可能です(ファンタム電源の供給は、MENUモードのSetupメニューで設定します)。

132 x 64ドット・マトリクス、バックライト機能付きLCDをディスプレイに採用し、多彩な情報を表示するとともに小型/省電力化を実現しました。

パソコンとの接続専用USBポートを装備し、ダイレクトにPCとの接続が可能です。これにより、FR-2LEとPC間でオーディオ・ファイル(BWFファイル/MP3ファイル)のやり取りが行なえます。

記録中にマーカを付加するCUE機能を搭載しています(ファイルごとに最大99記録可能です)。

ワイヤード・リモコンを標準装備し、簡易リモート・コントロールが可能です。

電源電圧に異常が発生したとき、およびメモリー・カードの記録残領域が少なくなってきたときに、エラー・トーンを発して警告する機能を搭載しています(MENUモードの設定が必要です)。

付属品について

本製品の梱包には、FR-2LE 本体に加え以下の付属品が同梱されています。開梱後、全ての品が揃っているかご確認ください。万一、欠品や損傷があった場合には、お手数でもお買い求めの取扱代理店へご連絡ください。



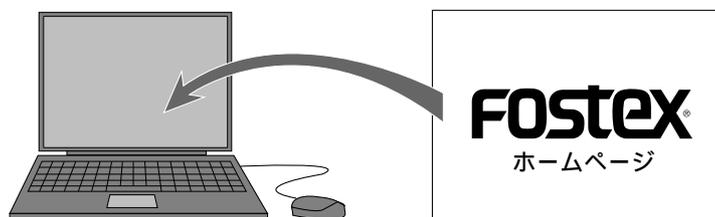
ソフトウェアのバージョンアップについて

本製品のソフトウェアは、仕様変更に伴いバージョンアップされます。
最新ソフトウェアのバージョンは、弊社ホームページ (<http://www.fostex.jp>) へアクセスして確認するか、弊社サービス部門へお問い合わせください。

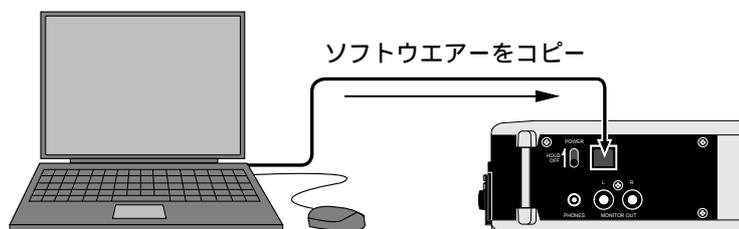
また、バージョンアップされたソフトウェアは、弊社ホームページからダウンロードして、下記手順でバージョンアップすることが可能です (具体的な操作方法については参照ページをお読みください)。

<ご注意> :弊社ホームページからダウンロードできないお客様は、お手数でも弊社サービス部門 (Tel: 042-546-3151、Fax: 042-546-3198) へご相談ください。

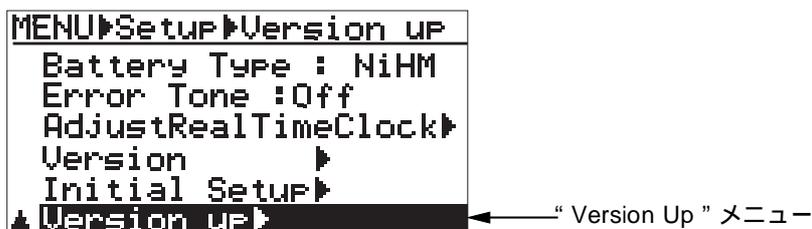
- (1) 弊社ホームページ (<http://www.fostex.jp>) にアクセスして、FR-2LE バージョンアップ用のソフトウェアをパソコンへダウンロードします。



- (2) パソコンとFR-2LEをUSBケーブルで接続し、ダウンロードしたソフトウェアを、FR-2LEのメモリー・カードにコピーします。
接続に関する詳細は70ページと71ページ、コピーの詳細は72ページをお読みください。



- (3) パソコンとFR-2LEの接続を解除した後、MENUモードの“Setup”メニューにある“Version Up”メニューを使って、バージョンアップを実行します。
“Version Up”メニューの操作方法は111ページをお読みください。



MENUモードの“Setup”メニュー選択画面

第2章 ご使用になる前に (必ずお読みください!)

ここでは、具体的な操作に入る前に、本機を駆動する「電源」と記録を行うための「メモリー・カード」について解説しています。安定した電源を供給し、スムーズな記録が行なえるよう、最初に必ずお読みください。特に「メモリー・カード」の項には、カードのフォーマットに関する事項が記載されていますので、必ずお読みくださるようお願いいたします。

<目次>

電源について.....	20
ACアダプタで駆動する.....	20
アダプタの接続.....	20
電池で駆動する.....	21
単三電池(4本)のセット.....	21
電池を収納したバッテリー・ケース(またはタミヤバッテリー)のセット.....	22
パワー・オン.....	25
バッテリーの電圧表示について.....	26
メモリー・カードの初期フォーマット.....	27
ディスプレイのバックライトとコントラスト調整.....	29
バックライトの点灯/消灯.....	29
ディスプレイのコントラスト調整.....	30
リアルタイム・クロック(内蔵時計)について.....	31
メモリー・カードについて.....	32
カードの出し入れ.....	32
カードの取り出し.....	33
カードの挿入.....	34
ショルダーの取付け.....	36

電源について

本機を駆動するには、付属の専用 AC アダプタを使用するか、市販の単三電池（アルカリ電池、ニッケル水素電池、またはニッカド電池）を 4 本使用するか、あるいはタミヤバッテリーを使用します。

<注意>：電池の挿入 / 交換や、AC アダプタのプラグを抜き差しするときは、必ず本機の電源スイッチを “OFF” にしてから行ってください。電源が “ON” の状態ではデータのやり取りを行っているため、突然電源が切られると、メモリー内容がリセットされてしまうことがあります。

<注意>

規格以上の過電圧が加えられると、本機が壊れる恐れがあります。絶対に規格以上の電圧を供給しないでください。

電池を使い切ったときや、過電流で電源に異常が発生すると、保護回路により電源は遮断されます。このような場合には一旦電源を切り、新しい電池と交換して再度電源を入れ直してください。なお、これらの操作を行っても本機が正常に復帰しないときは、回路内部の故障も考えられますので、当社サービス部門へご相談ください。

AC アダプタで駆動する

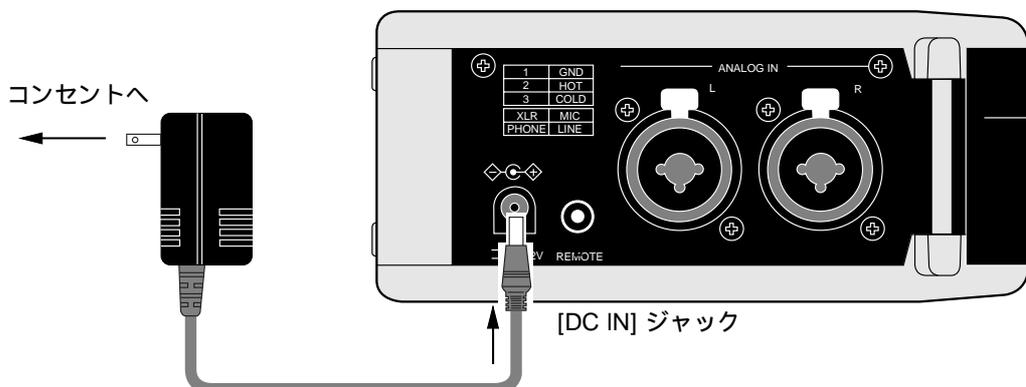
本機を AC アダプタで駆動するときは、付属の AC アダプタを使用します。

< AC アダプタを使用する場合のご注意 >

AC アダプタは、当社指定の専用 AC アダプタをご使用ください。
指定以外の AC アダプタを使用した場合、電圧の違いや DC 出力の違いなどによって、本機が破損することがあり危険です。また、AC アダプタのコネクタを抜き差しするときは、事前に本機の電源を OFF にしてください。

アダプタの接続

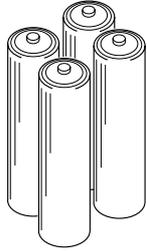
本機の [POWER] スイッチを OFF にした状態で、AC アダプタの二次側プラグを本機に接続し、その後一次側のプラグをコンセントに接続します。



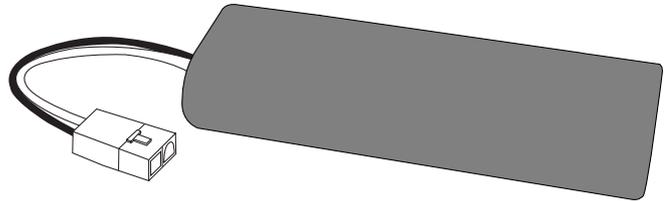
<注意>：記録中や再生中など、メモリー・カードのアクセス中は、AC アダプタのプラグを抜かないでください。強制的に電源を切ると、記録したデータを失うことはもとより、故障の原因となります。

電池で駆動する

本機を電池で駆動するには、付属のバッテリー・ケースに市販の単三電池（アルカリ/ニッカド/ニッケル水素）4本を収納して使用するか、またはタミヤバッテリーを使用します。



アルカリ電池、ニッカド電池
またはニッケル水素電池



タミヤバッテリー

< 電池を使用する場合のご注意 >

- * 市販の電池をご使用になるときは、**アルカリ電池、ニッカド電池またはニッケル水素電池**をお求めください。**マンガン電池は使用しないでください。**
- * 電池は必ず**新品の電池（あるいはフルに充電された電池）**をご用意ください。
- * 新品の電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- * **液漏れなどしている電池**は使用しないでください。

< 充電式のニッケル水素電池、ニッカド電池、またはタミヤバッテリーを使用する場合のご注意 >

本機には、電池を充電する機能は搭載されておりません。

充電式のニッケル水素電池、ニッカド電池、またはタミヤバッテリーをお使いになるときは、お買い求めになった電池専用の充電器を使い、取扱説明書に基づいてフル充電を実施してください（詳細については充電器の説明書をお読みください）。

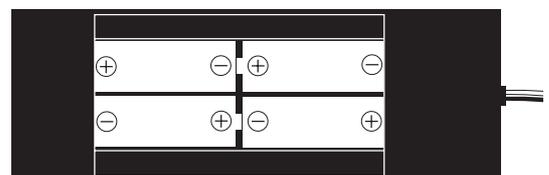
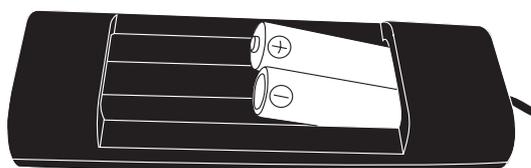
< 重要！（必ず実行してください） >

電池をセット（または入れ替え）して電源を投入した後、MENUモードのSetupメニューにある“Battery Type”の設定で、使用するバッテリー・タイプ（ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池またはタミヤバッテリー）を設定してください。実際に使用する電池とバッテリー・タイプが異なっていると、電圧の違いにより、エラー・トーン出力機能などが正常に機能しないことがあります。設定の詳細は、後述の107ページをお読みください。

< 注意 >：タミヤバッテリーを使用したときは、自動的にMENUモードのSetupメニューにある“Battery Type”が“RC7.2V”に設定されるようになっています。そのため、タミヤバッテリーを使った後Ni-CdやNi-MHなどの単三電池を使用するときは、必ず手動で“Battery Type”を設定し直してご使用ください。なお、“Battery Type”が“RC7.2V”に設定されたまま単三電池を使用すると、アラーム音を発して警告します。これはバッテリーのダメージを最小限に抑えるための措置で、“Battery Type”を正しく設定することでアラーム音は出なくなります。

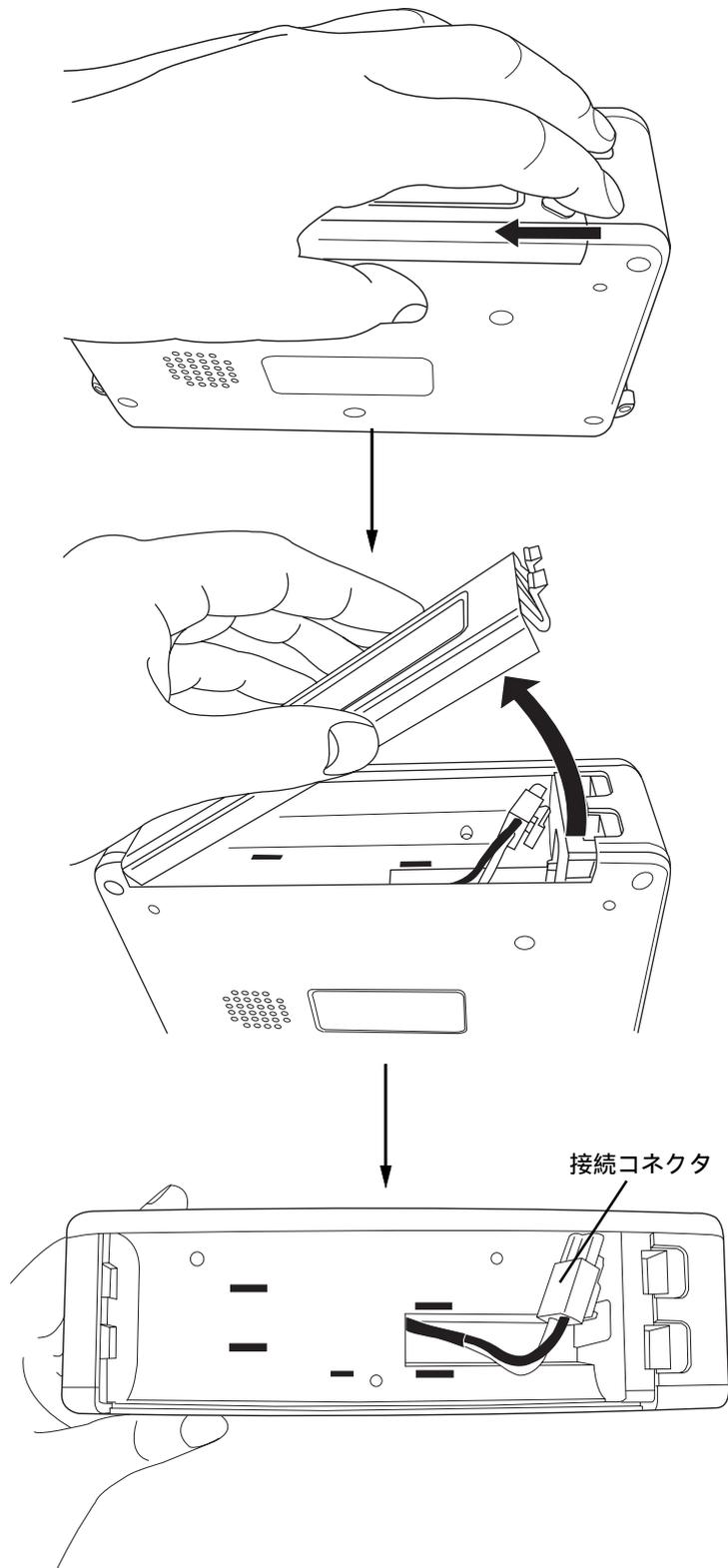
単三電池（4本）のセット

単三電池（4本）は、付属のバッテリー・ケースに下図の要領で収納します。極性など間違えないよう、正しい向きで収納してください。

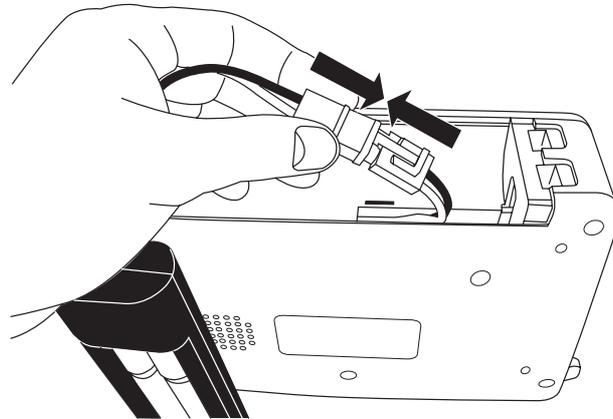


電池を収納したバッテリー・ケース（またはタミヤバッテリー）のセット

- 1) FR-2LE 本体の底部にある、収納蓋を取り外します。
収納蓋のツメを矢印方向へ引っ張りながら持ち上げてください。

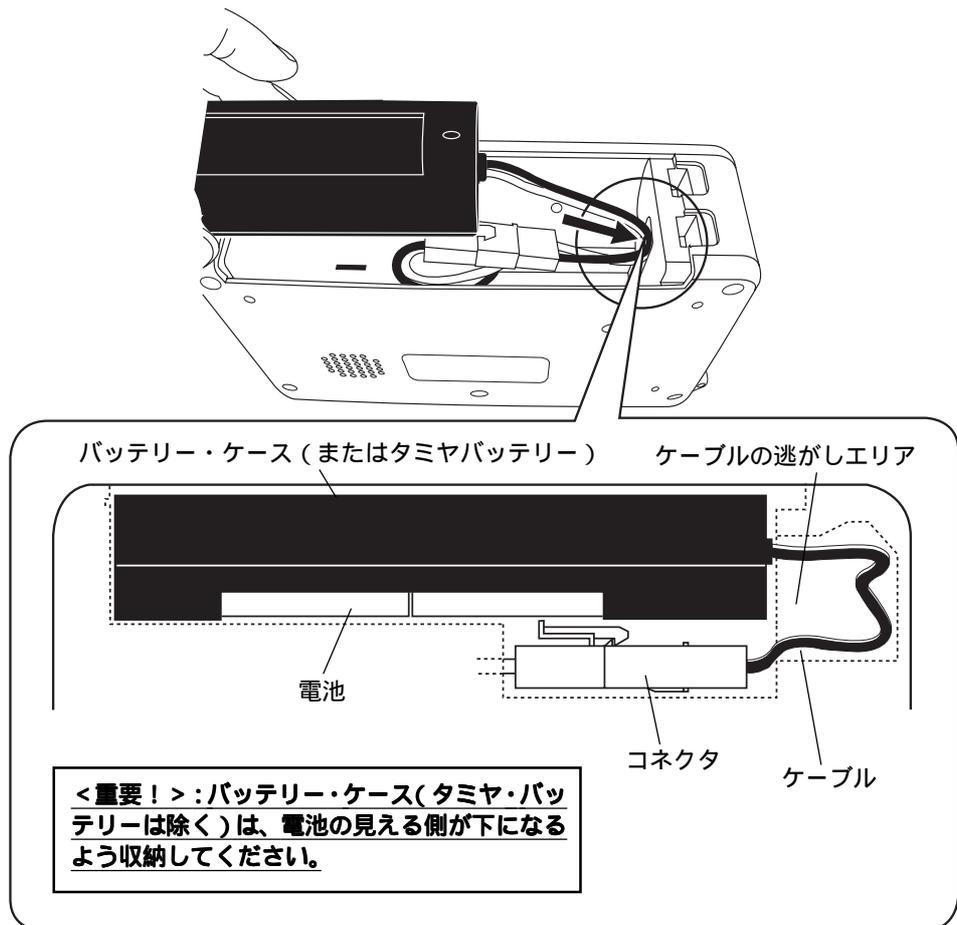


- 2) バッテリー・ケース(またはタミヤバッテリー)のケーブルを、FR-2LE本体の接続コネクタに接続します。



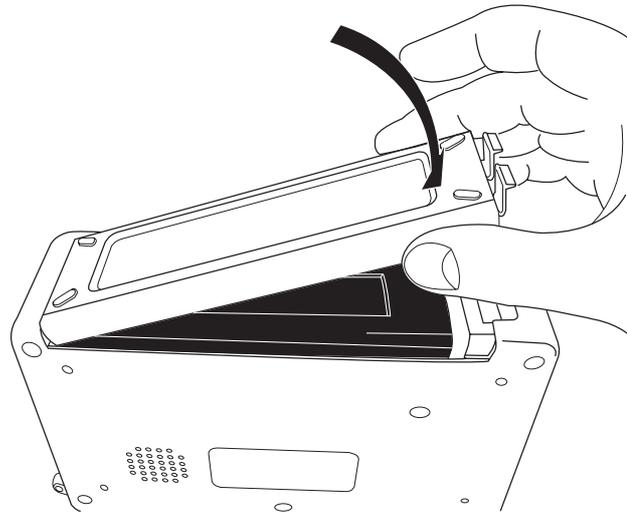
- 3) ケーブルの接続後、バッテリー・ケース(またはタミヤバッテリー)を収納部へセットします。

収納部にはケーブルを逃がすエリア(下図の矢印部分)が用意されています。ケーブルが邪魔にならないよう、逃がしエリアにケーブルを押し込みながらバッテリー・ケース(またはタミヤバッテリー)を収納してください(下記収納図を参照し、正しく収納します)。



<注意> : ケーブルがバッテリー・ケースとコネクタの間に挟まらないよう、正しく収納してください。

4) バッテリー・ケース (またはタミヤバッテリー) を収納後、収納蓋を閉めます。



<注意> : バッテリー・ケース内の端子や電池の端子は、時々乾いた布で拭いてください。ケース内の端子や電池の端子が汚れていると、正常な電圧が供給されないことがあります。

<注意> : 使用済み電池を廃棄するときは、環境汚染に悪影響を与えないよう、定められた方法で処分してください。

下記表は、使用する電池のタイプによって連続使用可能な、おおよその時間です。ご使用になる環境 (気温 / 湿度 / 録音の回数など) や、メーカーによって異なる場合がありますが、おおよその目安としてご利用ください。
 なお、本機にはバッテリーの残量を表示する機能や、電源電圧異常時のエラー・トーン出力機能を搭載しています。残量表示についてはこの後26ページ記載の「バッテリーの電圧表示について」を参照し、エラー・トーンの出力については107ページを参照してください。

ニッケル水素電池 (4.8V)	アルカリ電池 (6V)	タミヤバッテリー (7.2V)
約 4 時間 (2150mAh 使用時)	約 4 時間 (2300mAh 使用時)	約 8 時間 (3600mAh 使用時)

<覚えておきましょう!> : 電池の消耗を抑えるために

本機では電池の消耗を抑えるため、下記事項を実施することで、省電力の効果が期待できますのでご利用ください。

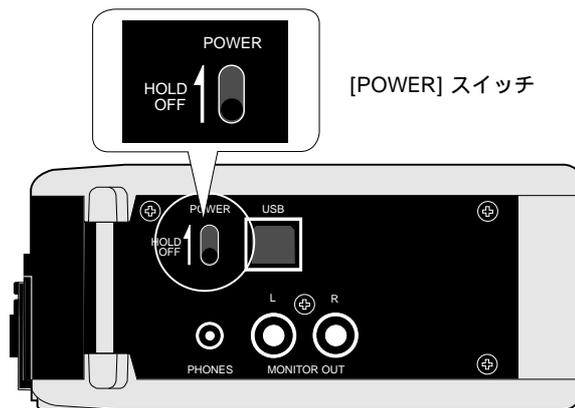
- * 出力コネクタ (MONITOR OUT) には、できるだけ小さい負荷の機器を接続する。
- * モニターの音量は、なるべく少量に抑える。
- * 長時間本機を使用しないときは、電池を取り出しておく ([POWER] スイッチがOFFでも微小電力を消費しています)。

パワー・オン

電池を収納またはACアダプタを接続した後、本機の [POWER] スイッチを ON にして本機が正常に立ち上がることを確認してください。下記操作は、工場出荷時カード・スロットにコンパクトフラッシュ・カードがセットされていることを前提にしています。

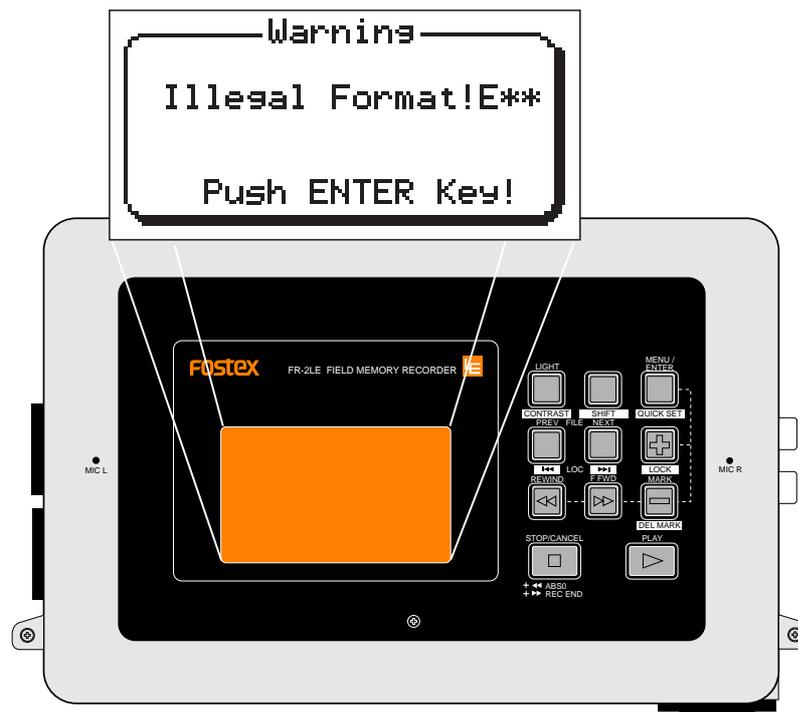
<電源オン/オフ時のご注意>

本機の [POWER] スイッチは「モーメンタリー式」になっており、電源をオフするときはオンするときと同様、同じ方向へ操作する構造になっています。また、電源をオフするときは、2 秒間 [POWER] スイッチを押さえてください。



本機には、工場出荷時あらかじめコンパクトフラッシュ・カード (128MB) がカード・スロットに挿入されているため、その状態で電源を入れると下記ディスプレイが表示されて立ち上がります。

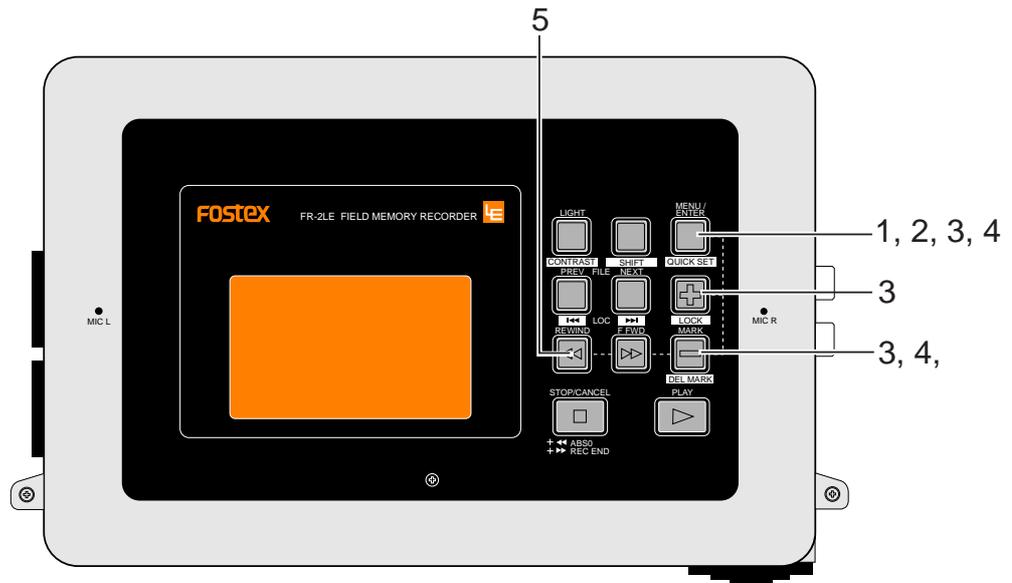
この表示は、工場出荷時にセットされているカードが未フォーマットであることを表しています。この後 27 ページ記載の「メモリー・カードの初期フォーマット」を参照して、付属のカードをフォーマットしてからご使用ください。



メモリー・カードの初期フォーマット

本機で使用するメモリー・カードのファイル・システムは、FAT32を採用しています。未フォーマットのメモリー・カード、またはFAT32以外のメモリー・カードを使用する場合は、下記操作でメモリー・カードを初期フォーマットします。

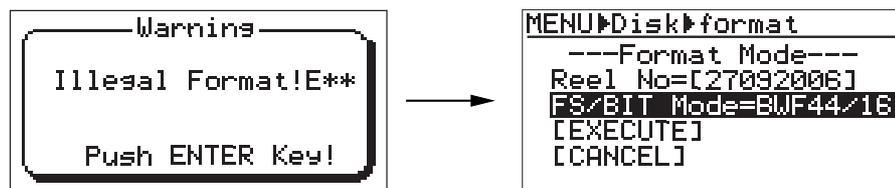
下記の操作手順は、電源を入れた後本機が立ち上がり、ディスプレイには“Illegal Format!”が表示されていることを前提にしています。



- 1) **ワーニング・メッセージが表示されている状態で、[MENU/ENTER] キーを押します。**

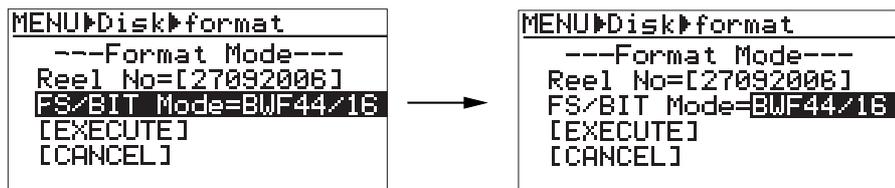
自動的に MENU モードの Format メニューへ進み、下記例の画面に変わります。

この画面では、フォーマットするメモリー・カードのリール・ナンバーと記録フォーマット (FS/BIT Mode) を設定することができます。ここでは、リール・ナンバーはそのまま、記録フォーマットのみ設定してフォーマットの作業を進めます (リール・ナンバーはフォーマット後でも設定可能ですので、詳細は 97 ページを参照してください)。



- 2) **“FS/BIT Mode = ****/* ”が反転している状態で、[MENU/ENTER] キーを押します。**

初期設定の記録フォーマットが点滅し、任意に設定可能になります (初期設定 : “ BWF44/16 ” が点滅)。



現在の設定が点滅している状態で [+] キーまたは [-] キーを押すと、希望の記録フォーマットが選択できます。選択可能な FS/BIT モードは、次表を参照してください。

BWF44/16	44.1kHz/16BitのBWFファイル・モード。
BWF44/24	44.1kHz/24BitのBWFファイル・モード。
BWF48/16	48kHz/16BitのBWFファイル・モード。
BWF48/24	48kHz/24BitのBWFファイル・モード。
BWF88/24	88.2kHz/24BitのBWFファイル・モード。
BWF96/24	96kHz/24BitのBWFファイル・モード。
MP3-192	MP3-192kbpsの圧縮ファイル・モード。

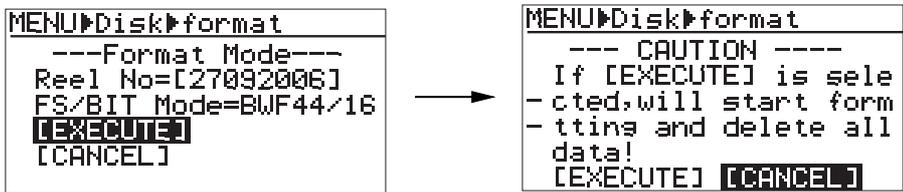
<覚えておきましょう>

BWF：“Broadcast Wave Format”の略称で、EBU（ヨーロッパ放送連合）が判定したオーディオ・データの交換用標準ファイル・フォーマットです。コンピュータなど相互間でオーディオ・データの交換ができます。

MP3：“MPEG-1 Audio Layer3”の略称で、音声圧縮フォーマットをいいます。MP3はオーディオデータの圧縮率が高いことが最大の利点で、例えば、BWFファイルで記録すると500MBの容量が必要なオーディオ・データでも、MP3で記録すると70MBに圧縮され、記録容量が縮小できます。

* 記録可能な時間は、記録フォーマットによって異なります。詳細は54ページを参照してください。

- [+] キー / [-] キーで希望の記録フォーマットを選択して [MENU/ENTER] キーを押します。**
選択した記録フォーマットに設定され、一つ前の画面に戻ります。
- [-] キーを押してカーソルを “ [EXECUTE] ” に移動して [MENU/ENTER] キーを押します。**
下記例の警告画面に戻ります。フォーマットしないときは “ [CANCEL] ” を選択して [MENU/ENTER] キーを押します。



- [REWIND] キーを押してカーソルを “ [EXECUTE] ” に移動して、 [MENU/ENTER] キーを押します。**
フォーマットを開始して、終了すると “ Success. ” が点灯してカードのアクセスが停止します。



- 画面の指示に従って、いずれかの操作キーを押します。**
フォーマット後のHome画面に戻ります。下記例は記録フォーマット “ BWF48/16 ” でフォーマットした場合のHome画面です。



フォーマット直後のディスプレイは、「<<No Audio Files>>」が点灯します。これは、カード上に何もオーディオ・ファイルが作成されていないことを示しています。

また、フォーマットしたカードのリメイン（記録可能な領域）も表示され、初期設定では「時間値（00h 28m 56）」で表示します。リメインの値は、時間で表示する以外に「容量」でも表示できます。表示の変更は、MENUモードのSetupメニューにある「Remain Display」で行なえます（104ページ参照）。

このようにFAT32でフォーマットしたメモリー・カードは、本機で記録／再生が可能になります。53ページから記載の「第5章 記録／再生」をお読みください。

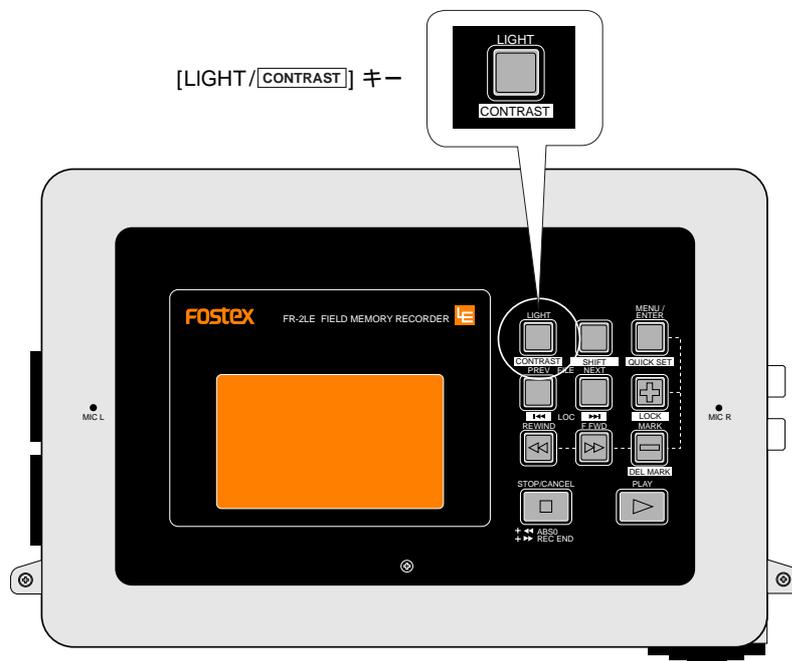
ディスプレイのバックライトとコントラスト調整

本機のディスプレイは、用途に合わせてバックライトを点灯させたりコントラストが調整できます。

バックライトの点灯／消灯

本機フロント・パネル部にある [LIGHT/CONTRAST] キーを押すと、ディスプレイのバックライトが3秒間点灯した後、自動的に消灯します。

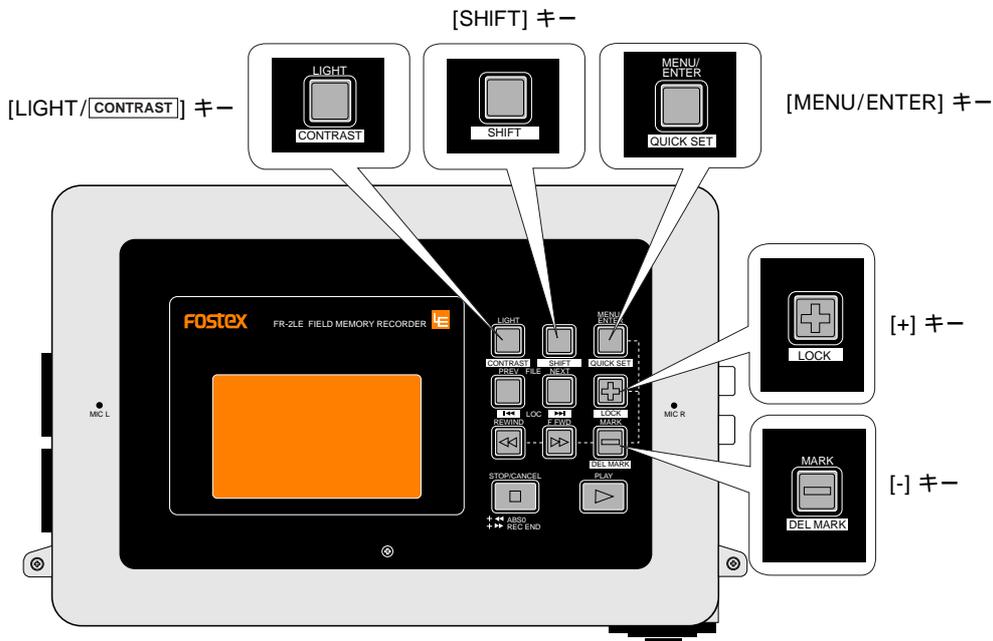
また、[LIGHT/CONTRAST] キーを2秒以上押し続けると連続点灯となり、再度 [LIGHT/CONTRAST] キーを押すとバックライトが消灯します。



<注意>：本機を電池で駆動しているときは、電池の消耗を抑えるためにバックライトの使用は極力控えてください。

ディスプレイのコントラスト調整

ディスプレイのコントラストは、本機が停止中にのみ下記操作方法で調整できます。
適度なコントラストで、本機をご使用ください。



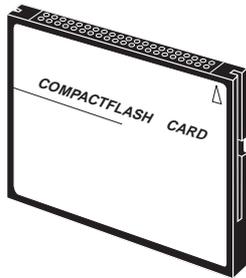
- 1) 停止中に、[SHIFT] キーを押しながら [LIGHT/CONTRAST] キーを押します。
ディスプレイ上に下記ポップアップ画面が表示されます。



- 2) [+] キー / [-] キーを押して、コントラスト・レベルを調整します。
[+] キーを押すとコントラストが強くなり、[-] キーを押すと弱くなります。
- 3) 好みのコントラストに調整した後、[MENU/ENTER] キーを押して決定します。
コントラスト調整に入る前の Home 画面に戻り、設定値は Flash ROM に保存されます。

メモリー・カードについて

本機にはTYPE IIのCFカード用スロットを搭載し、コンパクトフラッシュ・カード™が使用できます(本機には、工場出荷時 128MBのコンパクトフラッシュ・カード™が一枚標準で付属しており、スロットに挿入済みです)。

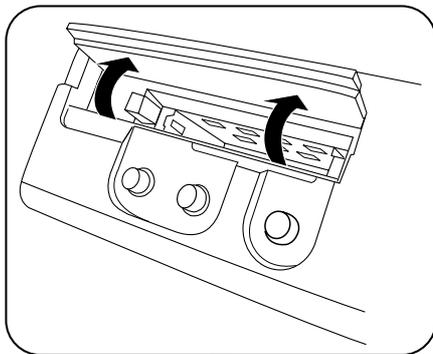


<注意>：新品で、かつFAT32でフォーマット済みのメモリー・カードであればすぐに使用できますが、ご使用前に本機のMENUモードにある“Disk”メニューの“Format”で、フォーマットすることをお勧めします。また、FAT32でフォーマット済みのメモリー・カードであっても、PCなどで使用済みのカードを使う場合は、同様に本機でフォーマットすることをお勧めします。“Disk”メニューの“Format”については86ページを参照してください。

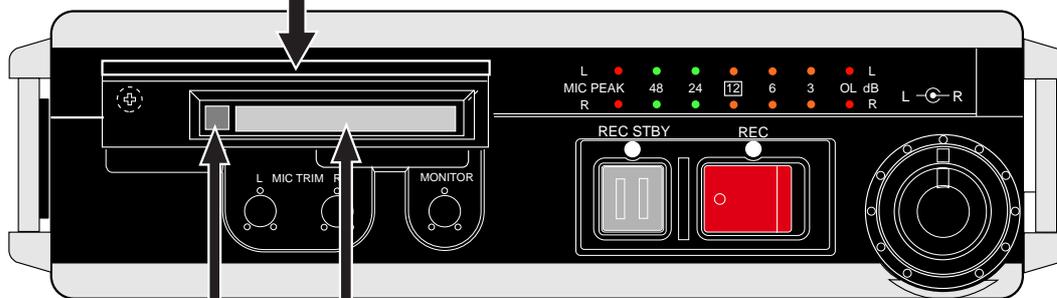
カードの出し入れ

メモリー・カードは、フロント・パネル部にあるカード・スロットにセットして使用します。保護カバーを開けると、奥にスロットとイジェクト・ボタンが装備されています。

<注意>：カードの出し入れは、必ず本機の電源をオフにした状態で行ってください。電源が入ったままカードを抜き差しすると、データが損失したりカードが破損する恐れがありますので、ご注意ください。また、カードを差し込むときは、方向や表裏を間違えないようご注意ください。誤った取り扱いでカードを破損させた場合、当社では一切の責任を負えませんので、呉々も取り扱いにはご注意ください。



フロント・パネル部のスロット保護カバーを開くと、奥にスロットとイジェクト・ボタンが見えます。

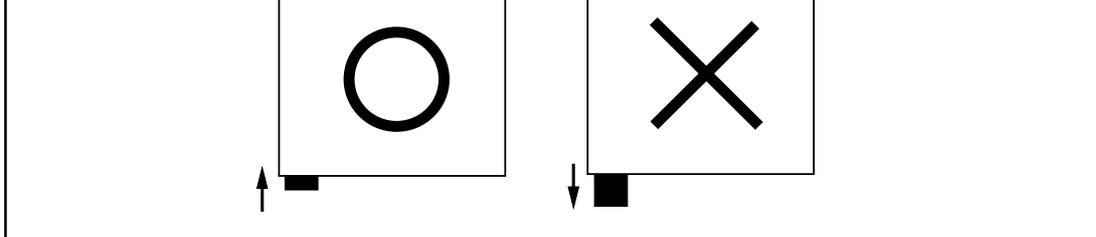


イジェクト・ボタン カード・スロット

カードの挿入

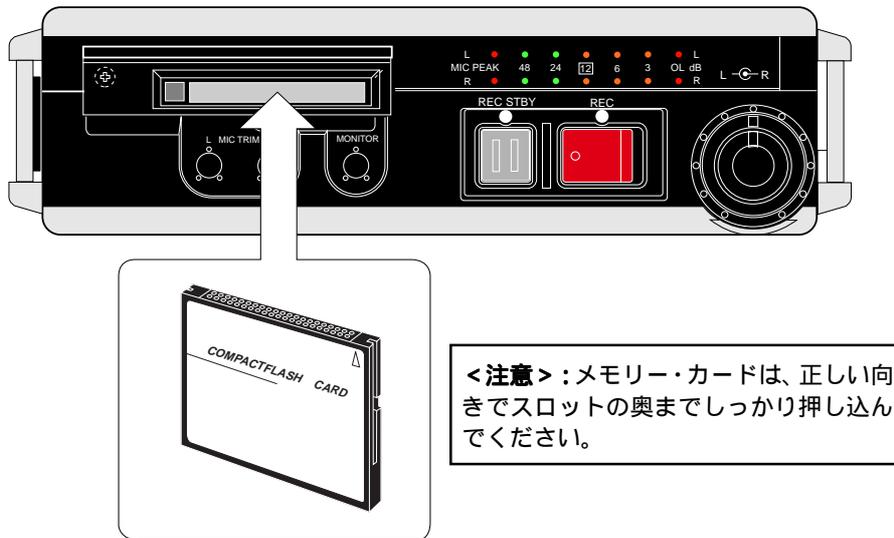
下記操作は、カードが未挿入で本機の電源がオフの状態を前提にしています。

<注意>：イジェクト・ボタンが手前に出たままカードをセットすると、保護カバーを閉めることができません。また、保護カバーが閉まらないからと言って、イジェクト・ボタンを押すとカードがイジェクトされてしまいます。メモリー・カードをスロットに挿入するときは、イジェクト・ボタンが奥に入っていることを確認してください。万一ボタンが手前に出ているときは、ボタンを奥に押し込んでからカードをスロットにセットしてください。



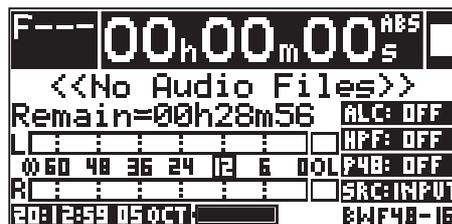
1) カード・スロットへ、メモリー・カードを押し込みます。

カードを挿入した後電源をオンにした場合、セットしたメモリー・カードによってつぎのような画面が表示されます。



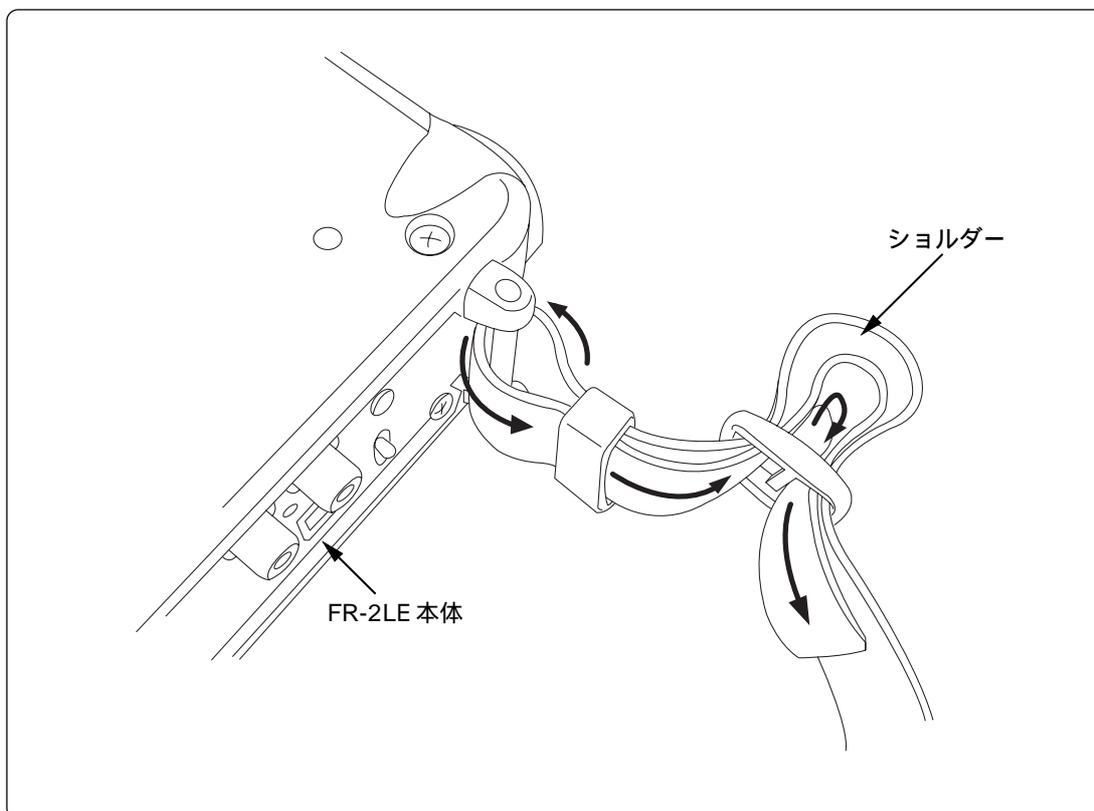
フォーマット済みで未記録のカードをセットした場合

下記例のような Home 画面で立ち上がり、“<<No Audio Files>>” が点灯します。これは、セットしたカードに一度も記録を行っていないことを示しています。



ショルダーの取付け

付属のショルダーは、下記図を参照してFR-2LE本体に取付けてご使用ください。
なお、使用中にショルダーが外れたりしないよう、正しく取付けてください。

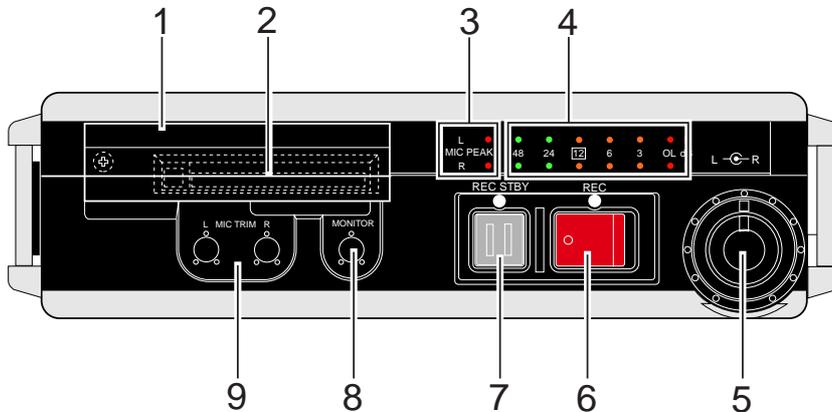


第3章 各部の名称と機能

<目次>

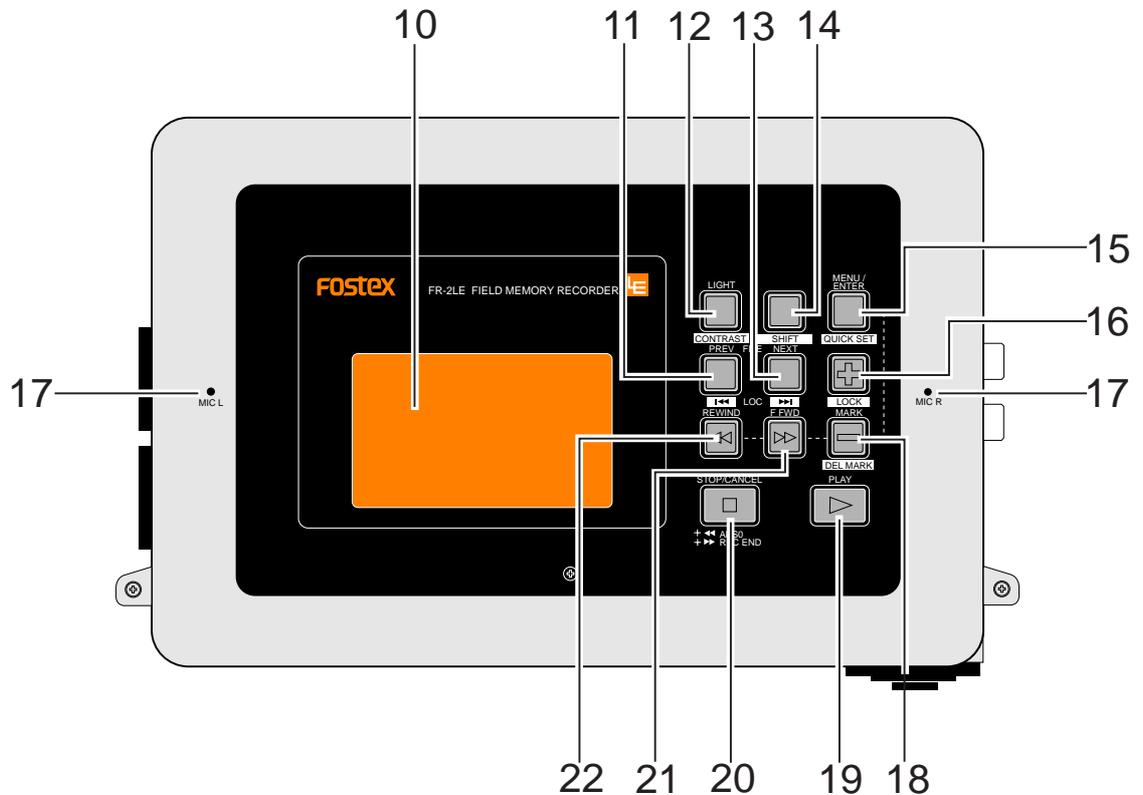
フロント・パネル部.....	38
トップ・パネル部.....	39
左サイド・パネル部.....	41
右サイド・パネル部.....	42
バック・パネル部.....	42
ボトム・パネル部.....	43
ディスプレイ部の詳細.....	44
電源投入後のディスプレイ.....	44
メモリー・カードがセットされていないとき.....	44
未使用のメモリー・カードがセットされているとき.....	44
記録済みのメモリー・カードがセットされているとき.....	44
MENUモードのディスプレイ.....	46
ワーニング・ディスプレイ.....	46

フロント・パネル部



- 1) **スロット保護カバー**
- 2) **カード・スロット/イジェクト・ボタン**
コンパクトフラッシュ・カード™を挿入します。
カードを取り出すときは、イジェクト・ボタンを押します。詳細は32ページ「メモリー・カードについて」を参照してください。
- 3) **[MIC PEAK] インジケータ**
外部マイク (XLR) 入力時の、マイク・アンプのピークを表示します。記録時は、このインジケータが点灯しないよう [MIC TRIM] を調整します。
- 4) **レベル・メーター**
録音 / 再生レベルを表示します。
- 5) **録音レベル調整つまみ**
外部マイク / ラインの録音レベル (L / R) を調整します (内蔵マイク使用時は機能しません)。
- 6) **[REC] (Record) キー**
録音を開始するときこのキーを押します。
本機では、記録を開始するごとに新たなオーディオ・ファイルが作成されます。
SetupメニューにあるPRE RECモードがONになっているときは、バッファに蓄えられているデータ (2秒間) も含めて記録していきます。
- 7) **[REC STBY] (Record Standby) キー**
記録を開始する前にこのキーを押すと、録音スタンバイ状態となりインプット・モニターになります。もう一度押すとインプットモニターが解除されます。また、記録を停止させるときはこのキーを押します ([STOP/CANCEL] キーでも停止できます)。
- 8) **[MONITOR] つまみ**
ヘッドホン、内蔵スピーカー、および [MONITOR OUT] からのモニター音量を調整します。
耳に悪い影響を与えないよう、長時間大音量でモニターしないでください。
- 9) **[MIC TRIM] つまみ**
外部マイク (XLR 入力) で記録する場合、-50dBu ~ -10dBu の範囲で “ MIC PEAK LED ” が点灯しないよう、マイクの入力レベルを調整します。
トリムは、内蔵マイク使用時およびライン入力 (PHONE) 時は機能しません。

トップ・パネル部



10) LCD ディスプレイ

オーディオ信号の入出力レベル、各種設定モードの内容など、多彩な情報を表示します。詳細は44ページの「ディスプレイ部の詳細」を参照してください。

11) [FILE PREV] / [LOC] キー

複数のオーディオ・ファイルが存在する状態でこのキーを押すと、現在立ち上がっているファイルの前にエントリされているファイルが選択できます。

また、現在立ち上がっているオーディオ・ファイルにCUEポイント(CUE01～99)が登録されている場合、[SHIFT]キーを押しながらこのキーを押すと現在位置より前に登録されているCUEポイントへロケートします。

12) [LIGHT / CONTRAST] キー

[LIGHT / CONTRAST] キーを一度押すと、ディスプレイのバックライトが3秒間点灯し、自動的に消灯します。また、キーを2秒以上押し続けるとバックライトが常時点灯になり、もう一度 [LIGHT / CONTRAST] キーを押すと消灯します。

<注意>：本機を電池で駆動しているときは、電池の消耗を抑えるため、バックライトの使用は極力控えてください。なお、常時点灯のまま電源を入れ直すとバックライトは常時点灯の状態です立ち上がります。

また、[SHIFT]キーを押しながら [LIGHT / CONTRAST] キーを押すと、ディスプレイのコントラストが調整できるようになります。詳細は30ページ「ディスプレイのコントラスト調整」を参照してください。

13) [FILE NEXT] / [LOC ▶▶] キー

複数のオーディオ・ファイルが存在する状態でこのキーを押すと、現在立ち上がっているファイルの後にエントリされているファイルが選択できます。

また、現在立ち上がっているオーディオ・ファイルにCUEポイント (CUE01 ~ 99) が登録されている場合、[SHIFT] キーを押しながらこのキーを押すと現在位置より後ろに登録されているCUEポイントへロケートします。

14) [SHIFT] キー

SHIFT 機能を持った各キーを機能させるとき、このキーを押しながらSHIFT機能を持ったキーを押します。SHIFT 機能を持ったキーは、該当するキーの下に四角枠で表記されています。

15) [MENU/ENTER] / [QUICK SET] キー

キーを押すとMENUモードへ入ります。MENUモードにおいては、メニューの確定や実行するときに押します。また、[SHIFT] キーを押しながらこのキーを押すと、クイックセットアップ・モードへ入り、Home画面上で一部のメニューが設定可能になります (55ページ参照)。

16) [+ / LOCK] キー

MENUモードなどの編集時、パラメータのアップ・キーとして機能します。

また、[SHIFT] キーを押しながらこのキーを押すとパネル・ロックのON/OFFができ、パネル・ロックがONになっているときは下記操作キーのみが有効で、その他のキーは受け付けません。

有効な操作キー: [REC] キー、[STANDBY] キー、[+ / LOCK] キー

17) 内蔵マイク (Lチャンネル / Rチャンネル)

内蔵マイクを使って記録するには、MENUモードのSetupメニューにある“Source Sel”を内蔵マイクに設定します (57ページ / 93ページを参照)。内蔵マイクは用途に応じて高感度または低感度が選択できます。

18) [MARK] / [-] / [DEL MARK] キー

記録 / 再生 / 停止中にこのキーを押すと、押したポイントにCUEが記録できます (注意: MP3のファイルでは、記録できません)。

CUEは、01 ~ 99の99個記録することができます。

再生 (または停止中) に、[SHIFT] キーを押しながらこのキーを押すと、押した位置より手前に記録されているCUEが削除できます。

19) [PLAY] キー

再生を開始します。

20) [STOP/CANCEL] キー

ドライブの動作を停止します。MENUモード時にこのキーを押すと、一気にMENUモードから抜け出すことができます。また、このキーを押しながら [F FWD] キー (または [REWIND] キー) を押すと、下記動作を実行します。

[STOP] + [REWIND]	先頭 (ABS 0) へ速やかにロケートします。 複数のオーディオ・ファイルが記録されている場合は、一番最初に記録されたオーディオ・ファイルの先頭 (ABS 0) へロケートします。
[STOP] + [F FWD]	最終記録位置 (REC END) へ速やかにロケートします。 複数のオーディオ・ファイルが記録されている場合は、一番最後に記録されたオーディオ・ファイルの最終記録位置へロケートします。

21) [F FWD] キー

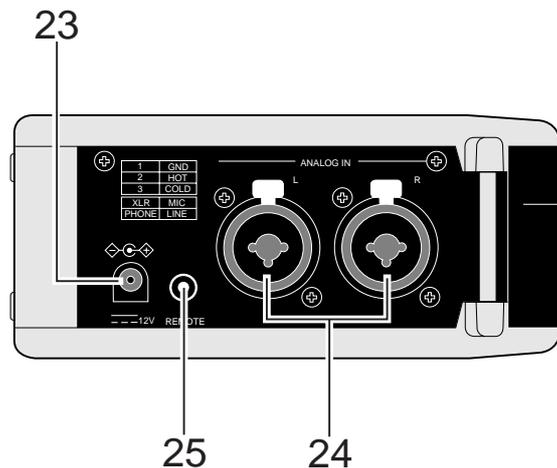
停止状態で押すとファースト・フォワード走行となり、再生中に押すと最大2倍速でフォワード方向へキューイングを実行します。また、[STOP/CANCEL] キーを押しながらこのキーを押すと、ファイルの最終記録位置 (REC END) へロケートします。

22) [REWIND] キー

停止状態で押すとリワインド走行となり、再生中に押すと最大1倍速でリワインド方向へキューイングを実行します。また、[STOP/CANCEL] キーを押しながらこのキーを押すと、ファイルの先頭 (ABS 0) へロケートします。

<注意> :MP3モードで記録したオーディオ・ファイルは、CUEモードによる再生(キューイング)は行なえません。

左サイド・パネル部

**23) DC IN ジャック**

付属の AC アダプタを接続します (20 ページ参照)。

24) [ANALOG IN (L, R)] コネクタ

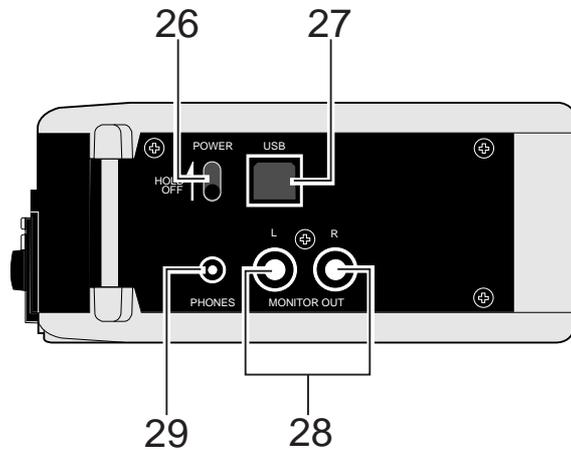
マイク・レベルまたはライン・レベルのアナログ・オーディオ信号を入力します。XLR-Phone のコンボ・タイプのコネクタを採用し、キャノンタイプのコネクタには外部マイクを接続し、TS フォーン・ジャックには外部ライン入力を接続します (同時接続は不可)。外部マイクの使用時は、TRIM つまみで L / R 独立した入力レベルが調整できます。

<注意> :[ANALOG IN] コネクタを使うときは、クイックセットアップまたはMENUモードのSetupメニューにある“Source Sel”を、“Input (外部入力)”に設定してください (55 ページ / 94 ページを参照)。“Source Sel”が内蔵マイクに設定されているときは内蔵マイクが優先となり、[ANALOG IN] コネクタは機能しません。

25) [REMOTE] ジャック (ステレオ・ミニジャック)

本機付属のリモート・コントローラを接続します (52 ページ参照)。録音、録音スタンバイおよび CUE ポイントの記録が、コントローラで操作できます。

右サイド・パネル部



26) [POWER] スイッチ

本機の主電源をON/OFFします。電源をOFFするときは、ONしたときと同じ方向へ約2秒間押し上げてください。

27) [USB] ポート (PC ONLY)

パソコン接続専用のUSBポートです。

このポートにホスト・コンピュータを接続することで、オーディオ・ファイルのやり取りが可能になります。詳細は、52ページ/72ページを参照してください。

28) [MONITOR OUT (L, R)] 端子 (RCA)

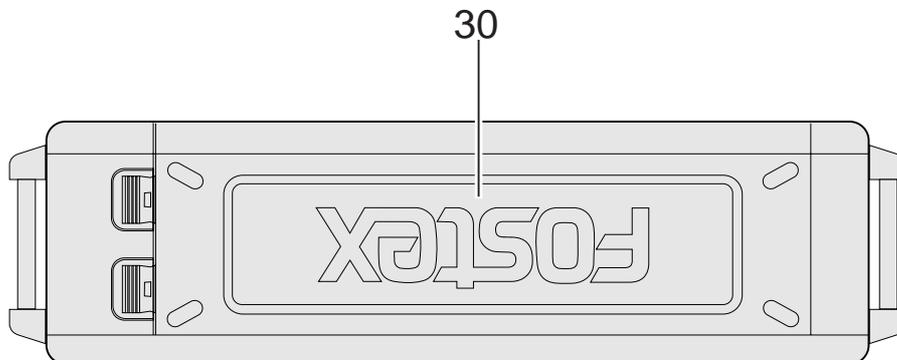
アナログ・オーディオ信号が出力されます。

29) [PHONES] ジャック (ステレオ・ミニジャック)

モニター用のヘッドホンを接続します。

PHONES ジャックにヘッドホンを差し込むと、内蔵スピーカはミュートされます。

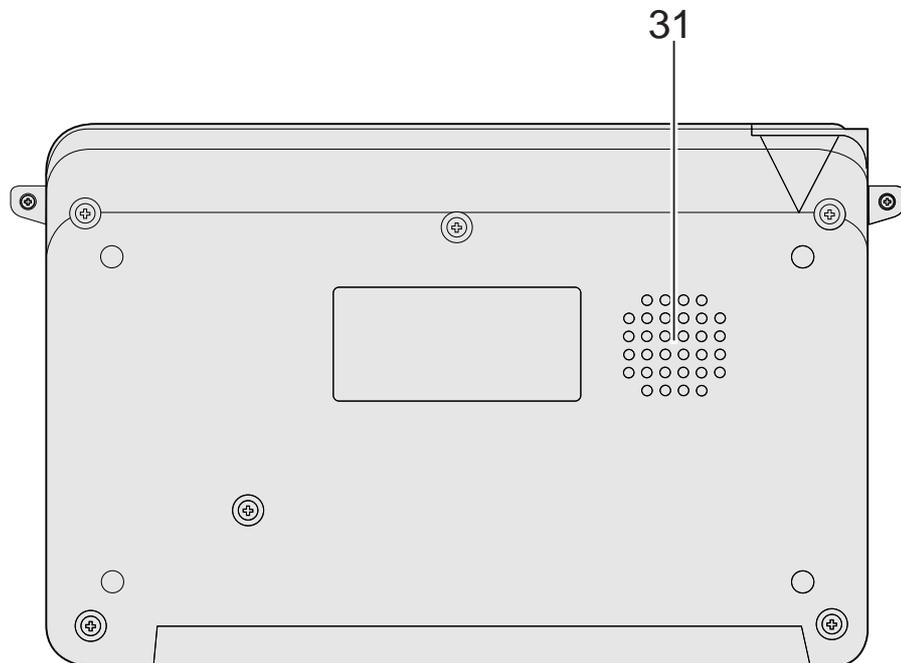
バック・パネル部



30) バッテリー収納部

本機を駆動する電池を収納します。詳細は20ページ「電源について」を参照してください。

ボトム・パネル部



31) 内蔵モニター・スピーカ

モニター用のスピーカが内蔵されています。
スピーカの音量は [MONITOR] つまみで調整します。

<注意> : [PHONES] ジャックにヘッドホンが接続されているとき、およびインプットモニターと記録中は、スピーカの出力はミュートされます

<注意> : MENU モードの “ Setup ” メニューにある “ Speaker Out ” で、内蔵スピーカの出力を ON/OFF が設定できます (初期設定は ON になっています)。詳細は 97 ページを参照してください。

ディスプレイ部の詳細

本機のディスプレイは、132 × 64ドットのLCDディスプレイを採用し、録音 / 再生レベル、ファイル情報、カードのリメイン、電池容量、設定情報や内蔵時計のタイム情報などを表示します。

電源投入後のディスプレイ

メモリー・カードがスロットにセットされていないとき

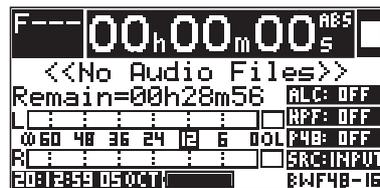
カードがセットされていない状態で本機の電源を投入したときは、右記表示例で本機が立ち上がります。ディスプレイには“<<No Disk>>”が表示され、スロットにメモリー・カードがセットされていないことを示しています。



フォーマット済みで未記録のメモリー・カードがセットされているとき

FAT32でフォーマットされている未使用のメモリー・カードがセットされている状態で電源を投入(または電源投入後カードを挿入)すると、右図のようにファイル・ネーム表示部には“<<No Audio Files>>”が点灯し、メモリー・カードの記録可能な容量 (Remain) が表示されます。

Remainの表示は、現在MENUモードの“Setup”メニューにある“Remain Display”の設定に基づいて表示され、初期設定の“Time”(時間表示)以外に“MByte”(容量表示)に設定することができます(104ページ参照)。



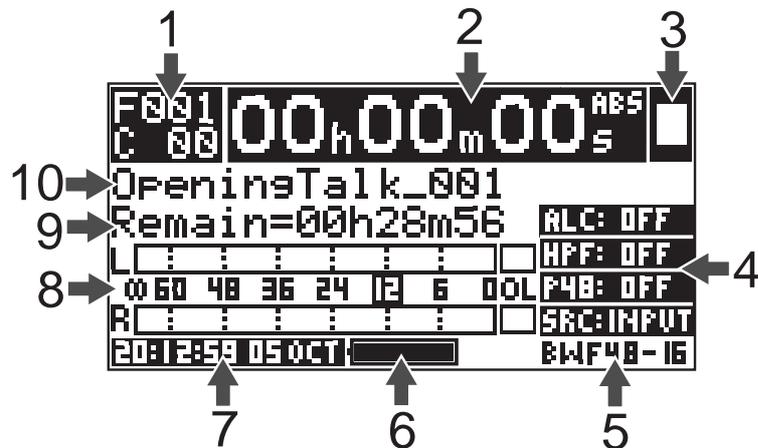
本機で記録済みのメモリー・カードがセットされているとき

既に本機で記録済みのメモリー・カードがセットされている状態で電源を投入(または電源投入後カードを挿入)すると、現在記録されているオーディオ・ファイル (File 001) の先頭を示す、Home画面が表示されます。



本機のディスプレイには、バックライト機能とコントラスト調整機能を搭載しており、ご使用になる環境に合わせてライトを点灯させたり、コントラストの調整が可能です。
詳しくは、29/30ページをお読みください。

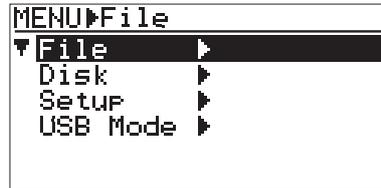
このように、電源投入後本機が立ち上がった後表示されるディスプレイを「Home画面」と呼び、次ページ記載の各情報を表示します。通常、録音 / 再生時などではこのHome画面を表示します。



1	ファイル・ナンバー /CUE 表示	現在立ち上がっているオーディオ・ファイルのファイル・ナンバーと、記録されている CUE ナンバーを表示します。
2	タイム表示	ファイルの現在位置を ABS、PRG または 24H (Time Stamp) で表示します。表示モードは、MENU モードの“ Setup ”メニューにある“ Time Display ”で変更できます (初期設定では ABS の表示モードになっています)。
3	動作状況の表示	停止中は“ ”、録音中は“ ”というように、現在の動作状況を示すアイコンが表示されます。
4	QUICK SETUP モードの設定表示	MENU モードの“ Setup ”メニューにある設定状況を表示します。ここに表示されている設定メニューは、[SHIFT] キーを押しながら [MENU/ENTER] キーを押すことで、MENU モードへ入ることなく Home 画面上で設定が可能になります。
5	記録フォーマットの表示	フォーマット時設定した記録フォーマットを表示します。
6	バッテリーの残量表示	本機をバッテリーで駆動しているとき、内蔵バッテリーの残量を表示します。バッテリーの交換が必要になったときは、バッテリー・アイコンが点滅して警告します。なお、AC アダプタ使用時はアイコンがフル点灯になります。
7	リアルタイム・クロック表示	本機に内蔵されている、リアルタイム・クロックの時刻・日付を表示します。正しい時刻・日付は、MENU モードの“ Setup ”メニューにある“ Adjust Real Time Clock ”で設定できます。
8	レベル・メータ	録音 / 再生時のレベルを表示します 本機のリファレンス・レベルは -12dB になっています。
9	メモリーカードのリメイン表示	メモリー・カードの記録可能な領域を、時間または容量で表示します。表示モードは、MENU モードの“ Setup ”メニューにある“ Remain Display ”で設定できます (初期設定は、時間表示になっています)。
10	ファイル・ネーム表示	現在立ち上がっているオーディオ・ファイルの、ファイル・ネームを最大 16 文字まで表示します。ファイル・ネームは、MENU モードの File Name Mode および Default File Name の設定に準じて記録時自動的に付加され、記録後でも MENU モードの“ File ”メニューにある“ Rename ”で変更することが可能です。

MENUモードのディスプレイ

停止状態で [MENU/ENTER] キーを押すとMENUモードに入り、Home画面から右図のMENUモード画面に変わります。MENUモードのメイン・メニューには、Fileメニュー、Diskメニュー、Setupメニュー、そしてUSB Modeメニューがあり、用途に応じた各種設定が行なえます。



メニュー・タイトルの右に表示されている“▶”は、複数の階層ページがあることを示しています。

MENUモードの詳細は、77ページからの説明をお読みください。

ワーニング・ディスプレイ

本機に対する操作の誤りがあったり、入力したデータに不具合があったり、あるいは各種エラー発生したとき、ディスプレイに「警告表示」を表示します。

ここでは、具体的な警告表示と意味、そして対策方法を記載してあります。万一このような警告表示が現れたときは、速やかに対処するようにしてください。

<p style="text-align: center;">Warning</p> <p style="text-align: center;">Battery Empty</p>	<p>本機を駆動しているバッテリーの交換を警告しています。このメッセージを表示した後、自動的にシャット・ダウンします。速やかに新しいバッテリーと交換してください。</p>
<p style="text-align: center;">Warning</p> <p style="text-align: center;">RTC Battery Empty</p> <p style="text-align: center;">Push ENTER Key</p>	<p>リアルタイム・クロックを駆動しているバッテリーの交換を警告しています。このメッセージは電投入時に表示されます。当社サービス部門へ電池交換を依頼してください。</p>
<p style="text-align: center;">Warning</p> <p style="text-align: center;">Memory Error</p> <p style="text-align: center;">Push ENTER Key</p>	<p>スロットに挿入したメモリー・カードの不良を警告しています。他のメモリー・カードと交換してください。</p>
<p style="text-align: center;">Warning</p> <p style="text-align: center;">Disk Full</p> <p style="text-align: center;">Push ENTER Key</p>	<p>現在使用しているメモリー・カードの空き容量不足を警告しています。十分な記録容量のあるメモリー・カードに取り替えてください。</p>
<p style="text-align: center;">File Over!</p>	<p>現在使用しているメモリー・カードには、オーディオ・ファイルが作成できないことを警告しています。不要なファイルを削除するか、別のカードに取り替えてください。</p>

<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>Rename error!</p> </div>	<p>オーディオ・ファイルのファイル・ネームを再登録しようとしたとき、既に同じネームのファイルが存在することを警告しています。別のネームを入力して登録してください。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>Warning Illegal Name Push ENTER Key</p> </div>	<p>オーディオ・ファイルのファイル・ネームを再登録しようとしたとき、入力したネームが不正であることを警告しています。正しいネームを入力して登録してください。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>Warning No Memory Cards Push ENTER Key</p> </div>	<p>カード・スロットに、メモリー・カードがセットされていないことを警告します。MENUモードの設定 (Setupメニュー除く) を実行しようとしたときに表示されます。メモリー・カードをセットしてから設定を行ってください。</p>

第4章 基本接続

ここでは、基本的な本機の接続について説明します。

<目次>

オーディオ信号の接続	50
外部マイクロホンの接続.....	50
外部オーディオ機器のライン出力を接続.....	50
モニター出力の接続.....	51
ヘッドホンの接続.....	51
その他の接続	52
PCとの接続.....	52
リモート・コントローラの接続.....	52

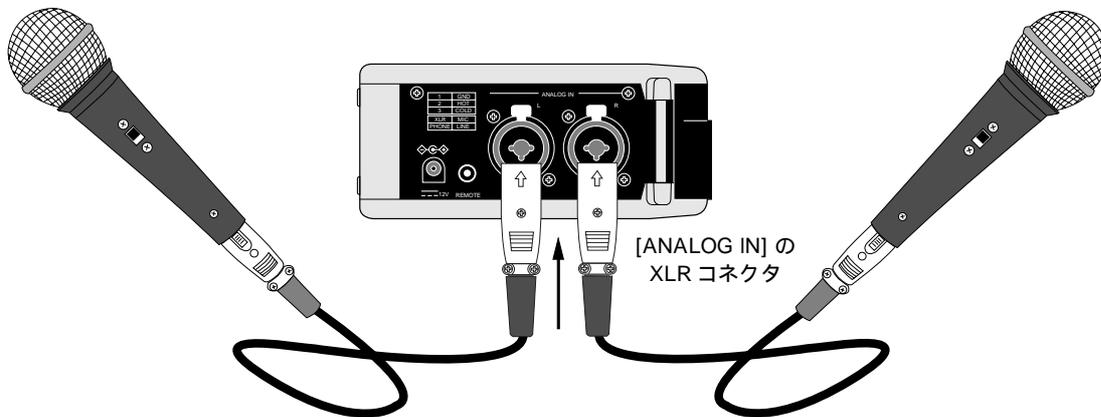
オーディオ信号の接続

本機の [ANALOG IN] は、バランス式のXLR-3-31タイプ(2番ホット)コネクタとTS PHONEジャックのコンボ・タイプを採用し、マイク・レベルまたはライン・レベルの音源が入力できます。

[ANALOG IN] に外部マイクロホン、または外部オーディオ機器のライン出力を接続して記録する場合は、MENUモードの“Setup”メニューにある“Source Sel”を、外部入力(Input)に設定します(内蔵マイクで記録するときは“Source Sel”を“I. MIC L”または“I. MIC H”に設定します)。詳細は57ページ/94ページを参照してください。

外部マイクロホンの接続

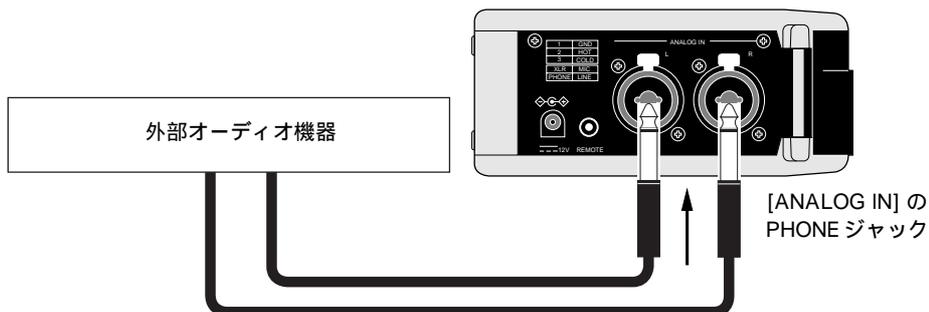
外部マイクロホンは、[ANALOG IN]のXLRコネクタに接続します。XLRコネクタを使用するときは、基準入力 $-50\text{dBu} \sim -10\text{dBu}$ のアナログ・オーディオ信号が入力でき、[TRIM]つまみでL/R独立した入力レベルを調整します。



外部マイクロホンでの記録時に有効なHPF(ハイパス・フィルター)機能や、リミッタ機能を搭載し、高音質での録音が可能です。さらにはコンデンサ・タイプのマイクに必要なファンタム電源(+48V)も供給できます。HPF機能/リミッタ機能のON/OFFについては55ページ/92ページ、ファンタム電源のON/OFFについては95ページを参照してください。

外部オーディオ機器のライン出力を接続

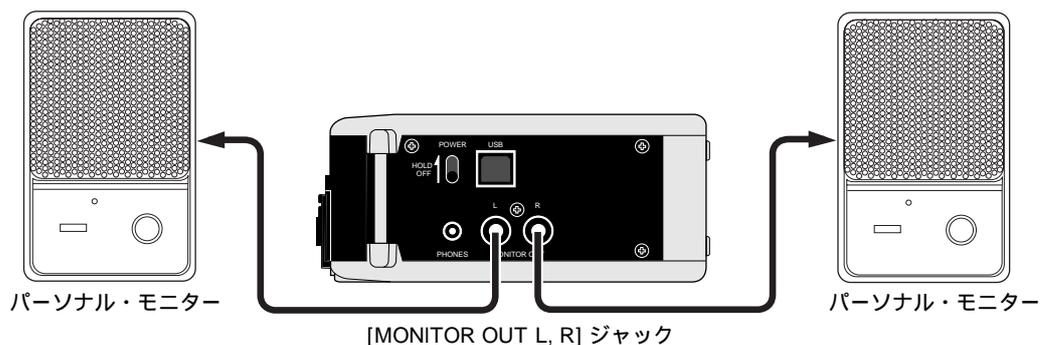
外部オーディオ機器のライン出力は、[ANALOG IN]のTS PHONEジャックに接続します。TS PHONEジャックを使用するときは、基準入力 -10dBV のアナログ・オーディオ信号が入力できます。



モニター出力の接続

外部モニター機器などは、右サイド・パネルの {MONITOR OUT} 端子 (RCA ピンジャック) に接続します。モニターの音量は [MONITOR] つまみで調整します。

<注意> : [PHONES] ジャックにヘッドホンを接続すると、内蔵モニター・スピーカからは出力されなくなります。



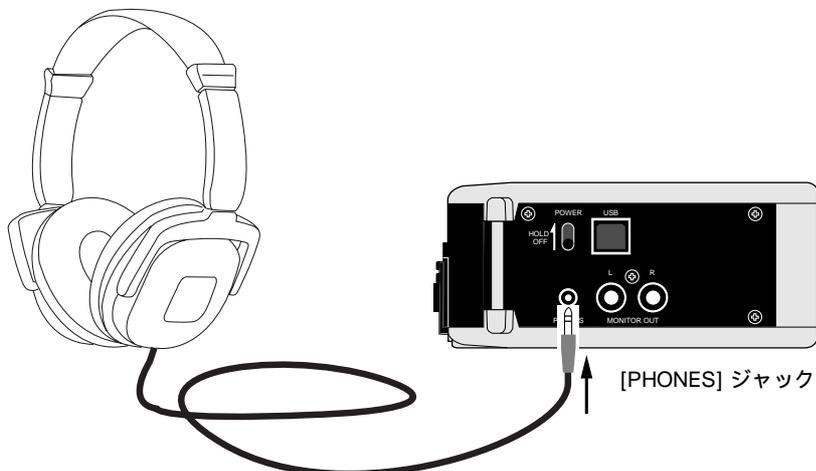
モニター信号は、MENUモードの“Setup”メニューにある“Monitor Mode”で、ステレオまたはモノラル信号の選択が可能です (初期設定はステレオ出力になっています)。また、[MONITOR OUT] 端子からは、オーディオ信号以外にエラー・トーンも出力されます。“Monitor Mode”の設定については96ページ、エラー・トーン出力については107ページを参照してください。

ヘッドホンの接続

モニター用のヘッドホンは、右サイド・パネルの [PHONES] 端子 (ミニPHONE) に接続します。ヘッドホンの音量は [MONITOR] つまみで調整できます。

<注意> : [PHONES] ジャックにヘッドホンを接続すると、内蔵モニター・スピーカからは出力されなくなります。

<注意> : 大音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。耳に悪い影響を与えることがあります。



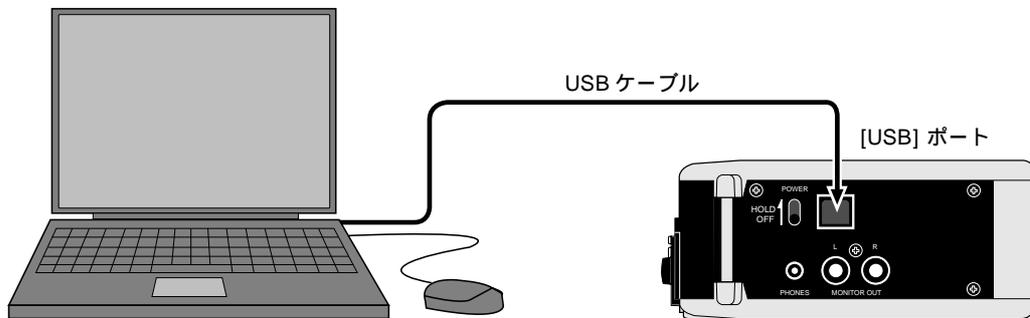
その他の接続

PC との接続

FR-2LE には、PC とダイレクトに接続可能な [USB] 端子を備えています。PC と本機の [USB] 端子を接続することで、PC 側から本機のメモリー・カードをコントロールして、オーディオ・ファイルの取り込みが可能になります。パソコンと接続してオーディオ・ファイルを取り込むには、後述 69 ページ「第6章 PC へのインポート」を参照してください。

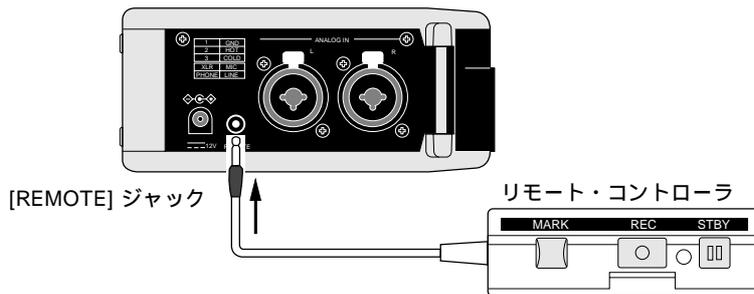
<注意> : PC と接続して使用するには、あらかじめ MENU モードの“ Setup ”メニューにある“ USB MODE ”メニューの USB Device Mode を設定します (詳細は 71 ページを参照してください)。

<注意> : 接続用の USB ケーブルは本機に付属されていません。本機 [USB] ポートの規格に適合した、市販の USB ケーブルをお買い求めください。



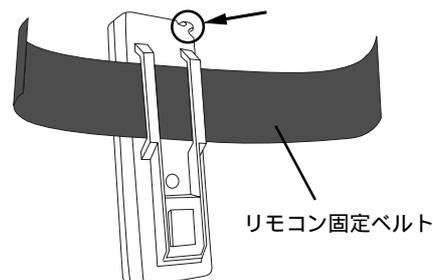
リモート・コントローラの接続

FR-2LE には、本機付属のリモート・コントローラ専用の [REMOTE] 端子を搭載しています。リモート・コントローラを接続することで、記録スタンバイ / オーディオ信号の記録 / CUE の記録をコントローラで操作できます。



<覚えておきましょう> : 本機付属の「リモコン固定ベルト」は、右図のようにリモコン本体裏へ取付け、ショルダーや外部マイクに固定してご使用いただけます。

また、右図矢印部分には、ストラップも取り付けが可能になっています。用途に合わせてご利用ください。



第5章 記録 / 再生

ここでは、FR-2LEの基本的なオーディオ信号の記録/再生、さらにはCUEポイントの記録、スキップ/ロケート機能などについて記載しています。

<目次>

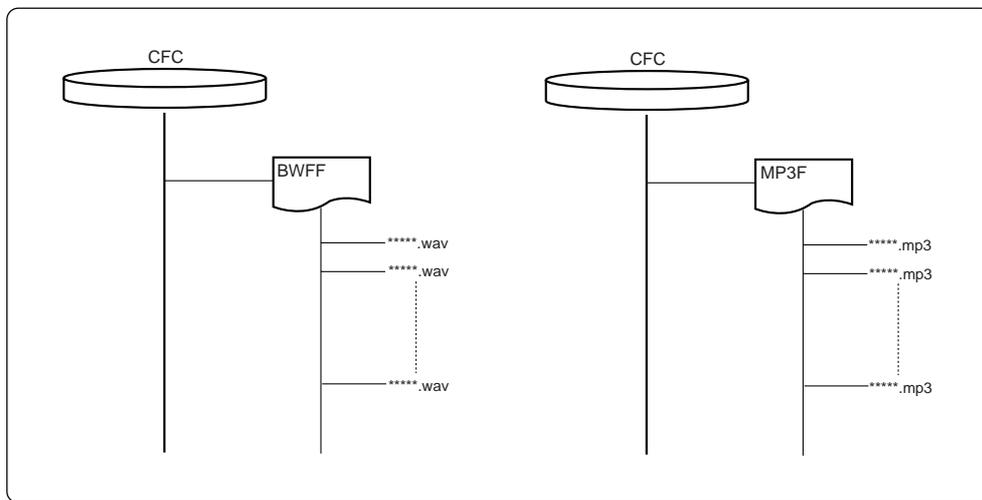
記録方式について.....	54
記録開始前の設定について.....	55
クイックセットアップ・モードでの設定.....	55
クイックセットアップ・モードの設定手順.....	56
ALC (Auto Level Control) 機能の設定(必要に応じて設定).....	57
HPF (High Pass Filter) 機能の設定(必要に応じて設定).....	57
ファンタム電源の供給(必要に応じて設定).....	57
記録ソースの設定(記録時は必ず設定).....	57
MENUモードでの設定.....	58
デフォルト・ファイル・ネーム(必要に応じて設定).....	58
プリ・レコーディング機能(必要に応じて設定).....	58
ファイルの最大記録容量(必要に応じて設定).....	59
モニターの出力モード(必要に応じて設定).....	59
エラー・トーンの出力モード(必要に応じて設定).....	59
ディスプレイの表示モード(必要に応じて設定).....	59
オーディオ信号の記録.....	60
入力ゲインの調整.....	60
録音レベルの調整.....	60
外部入力(外部マイクまたはライン入力)での記録時.....	60
内蔵マイクでの記録時.....	61
記録の開始.....	62
CUEポイントの記録.....	63
任意の位置にCUEを記録.....	63
記録したCUEポイントの確認.....	64
CUEポイントをリアルタイムに削除.....	64
オーディオ・ファイルの再生.....	65
通常の再生.....	65
キューイング・モードによる再生.....	66
ロケート機能.....	66
ファイル単位のロケート.....	66
CUEポイントのロケート.....	66
ファイル先頭(ABS 0)へのロケート.....	67
ファイルの最終記録位置(REC END)へのロケート.....	67

記録方式について

本機の記録方式は、FAT32 (File Allocation Table 32) のファイル・システムに準拠し、ファイル・フォーマットは最も一般的な BWF (Broadcast Wave File) と、MP3 (MPEG-1 Audio Layer3) を採用しています。

トラック・モードはステレオ(L/R)での記録が可能で、L、R 2つのオーディオ・データが1つのBWFファイル(またはMP3ファイル)として保存されます。

そして、記録したBWFファイルはCFC上に作成される“BWFF”フォルダー内に格納され、MP3ファイルは“MP3F”フォルダー内に格納されます(下図を参照)。なお、本機は「1テイク・1ファイル」方式で、記録を開始するごとに新たなオーディオ・ファイルがカード上に作成され、上書きは行えません。



本機で記録したオーディオ・ファイルは、本機とPCを接続して相互間でファイルのやり取りができます。そのため、記録したオーディオ・ファイルをPCのハードディスクへコピーしたり、Digidesign Pro Toolsなどのコンピュータ・ソフトへインポートすることが可能になります。

下記表は、記録容量1GBのメモリー・カードを使用した場合の記録可能な時間をまとめたものです。この時間はメーカーなどによって異なる場合がありますので、あくまでもおおよその「目安」としてご利用ください。

記録フォーマット FS/BIT	最大記録時間
44.1kHz / 16bit の BWF ファイル・モード	約 96 分
44.1kHz / 24bit の BWF ファイル・モード	約 64 分
48kHz / 16bit の BWF ファイル・モード	約 90 分
48kHz / 24bit の BWF ファイル・モード	約 60 分
88.2kHz / 24bit の BWF ファイル・モード	約 32 分
96kHz / 24bit の BWF ファイル・モード	約 30 分
PM3 / 192kbps の圧縮ファイル・モード	約 670 分

記録開始前の設定について

オーディオ信号を記録する前に、用途に合わせた動作環境を設定します。記録時に必要な「動作環境の設定」には下記の項目があり、必要に応じて初期設定を変更してご使用いただけます。これらの設定は、MENUモードの“Setup”メニューで行うことができますが、下記1～4はクイックセットアップ・モードで設定することが可能です。

設定内容	選択可能な設定項目	初期設定
1 Auto Level Control/Limiter 機能	OFF、ON、LIMIT	OFF
2 High Pass Filter 機能	OFF、ON	OFF
3 ファンタム電源	OFF、ON	OFF
4 記録ソース	INPUT、I. MIC L、I. MIC H	INPUT
5 ファイル・ネーム・モード	Take、Date、Reel	Date
6 Pre Record 機能	OFF、ON	OFF
7 ファイルの最大記録容量	2G、4G	2G
8 モニターの出力モード	L/R (stereo)、MONO	L/R
9 エラー・トーンの出力モード	OFF、ON	OFF
10 内蔵スピーカの出力モード	OFF、ON	ON
11 ディスプレイの表示モード	ABS、PGM、24H	ABS

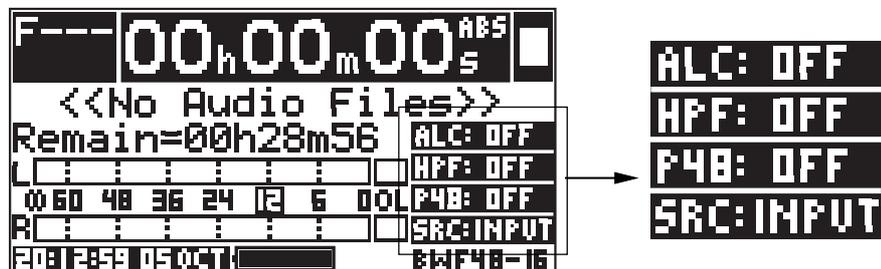
クイックセットアップ・モードでの設定

上記表の1～4は、MENUモードのSetupメニュー以外に、クイックセットアップ・モードで設定することができます。具体的な設定方法については次ページを参照してください。

クイックセットアップ・モード：

クイックセットアップ・モードとは、記録に必要な設定をHome画面上で行うためのモードで、MENUモードへ入るための操作を省いて、速やかに設定を行なうモードです。

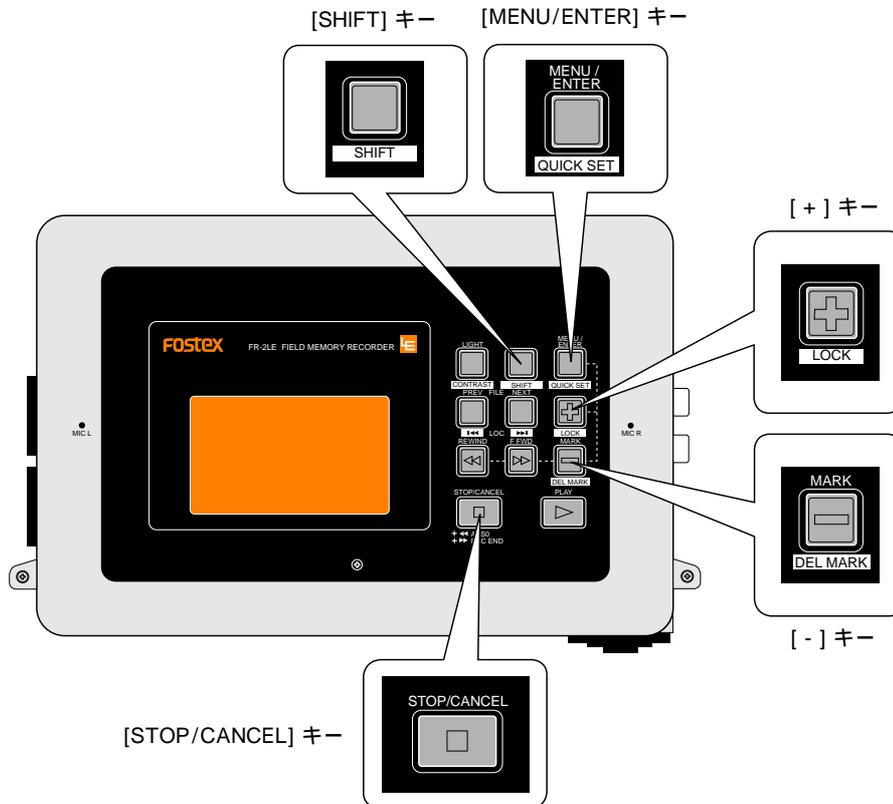
具体的な設定は、下記Home画面に表示されている4つのアイコンを使います。次ページの「設定手順」を参照してください。



<注意>：クイックセットアップ・モードで設定した内容は、リアルタイムにMENUモードの“Setup”メニューにある各メニューにも反映されます。逆に、MENUモードで設定した内容はHome画面上のアイコンに表示されます。

クイックセットアップ・モードの設定手順

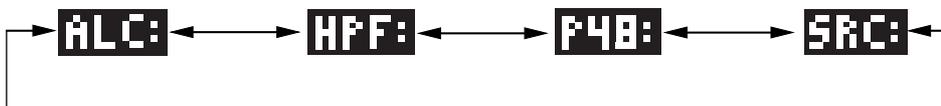
クイックセットアップ・モードの設定は、下記の操作キーを使用します。



- 1) 停止している状態で、[SHIFT] キーを押しながら [MENU/ENTER] / [QUICK SET] キーを押します。

Home 画面上にある “ALC: OFF” アイコンの “ALC” のみが点滅します。

これは、現在設定可能なメニューが “ALC (Auto Level Control)” になっていることを示し、[+] キー / [-] キーを押すことで点滅するアイコンが下記順で移動します。



- 2) [+] キー / [-] キーで希望のメニューを選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。
 選択したメニューの現在の設定が点滅して、変更可能な状態になります。
 例として、“ALC” を選択して [MENU/ENTER] キーを押すと、初期設定の “OFF” が点滅します。
- 3) [+] キー / [-] キーで希望の設定を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。
 選択した項目に設定され、メニュー・アイコンの点滅に変わります。
 他のメニューを設定するには、同じ要領で操作 2 と 3 を繰り返します。
- 4) 設定後 [STOP/CANCEL] キーを押して、クイックセットアップ・モードから抜け出します。
 各メニューの詳細については、次ページからの説明を参照してください。

ALC (Auto Level Control) 機能の設定 (必要に応じて設定)

記録時のオート・レベル・コントロールのON/OFFまたはリミッター機能を有効にします。特にマイクで記録するときは、リミッター機能を使うことで、安定した信号レベルを確保することができます (L、R 両チャンネルに有効です)。

OFF (初期設定)	ALC 機能はすべて無効になります。
ON	オート・レベル・コントロール機能が有効になります。
LIMIT	リミッター機能が有効になります。

<覚えておきましょう> : ALC (Auto Level Control) 機能の設定は、MENU モードの “ Setup ” メニューにある “ ALC ” でも設定できます (91 ページ参照)。

HPF (High Pass Filter) 機能の設定 (必要に応じて設定)

フィルター機能のON/OFFを設定します (初期設定は “ OFF ” になっています)。本機のフィルター回路は、カットオフ周波数 100Hz のハイパス・フィルターで、-12dB/oct に調整できます。外部マイクを使って屋外で記録するときなど、風のノイズや不要な低周波ノイズを除去するのに効果を発揮します (L、R 両チャンネルに有効です)。

<覚えておきましょう> : HPF (High Pass Filter) 機能の設定は、MENU モードの “ Setup ” メニューにある “ HPF ” でも設定できます (92 ページ参照)。

ファンタム電源の供給 (必要に応じて設定)

ファンタム電源のON/OFFを設定します (初期設定は “ OFF ” になっています)。ファンタム電源を必要とするコンデンサ・タイプの外部マイクで記録するときは、必ず “ ON ” に設定してご使用ください。ファンタム電源は、[ANALOG IN] の XLR コネクタに供給されます (L、R 両チャンネルに有効です)。

<覚えておきましょう> : ファンタム電源の設定は、MENU モードの “ Setup ” メニューにある “ Phantom ” でも設定できます (95 ページ参照)。

記録ソースの設定 (記録時は必ず設定)

記録する音源を外部入力 (外部マイクまたはライン入力) にするか、内蔵マイクにするかを設定します (初期設定は外部入力になっています)。なお、内蔵マイクを使うときは、記録する音の大きさや距離に応じて、高感度マイクまたは低感度マイクのいずれかに選択できます。

INPUT (初期設定)	[ANALOG IN] に接続する外部入力 (マイクまたはライン入力) が有効になります。
I MIC L	低感度 (16dB) での内蔵マイクが有効になります。
I MIC H	高感度 (32dB) での内蔵マイクが有効になります。

<覚えておきましょう> : 記録ソースの設定は、MENU モードの “ Setup ” メニューにある “ Source Sel ” でも設定できます (94 ページ参照)。

<注意> : 内蔵マイクでの記録時は、[MIC TRIM] つまみや録音レベルつまみは機能しません。

MENUモードでの設定

前述のクイックセットアップ・モード以外に、MENUモードの“Setup”メニューで用途に応じた動作環境を設定します。

デフォルト・ファイル・ネーム (必要に応じて設定)

記録を開始すると、メモリー・カード上にオーディオ・ファイルが作成され、自動的にファイル・ネームが付加されます。ファイル・ネームは、MENUモードの“Setup”メニューにある“File Name Mode”と“Def. File Name”で設定します。

初期設定の状態では“File Name Mode”が“Date”に設定されているため、下記例のように記録開始時のタイム情報がフォルト・ファイル・ネームとして付加されます。

BWFで記録した場合：B15h20m35s20jun2006.wav

MP3で記録した場合：B15h20m35s20jun2006.mp3

必要に応じて“File Name Mode”を“Take”または“Reel”に設定することで、下記ファイル・ネームに変更することができます。

“Take”設定時：

BWFで記録した場合：Scene Name + Take Number.wav

MP3で記録した場合：Scene Name + Take Number.mp3

* Scene NameとTake Numberは、“Setup”メニューの“Def. File Name”で設定します。

“Reel”設定時：

BWFで記録した場合：Reel Number + File Number.wav

MP3で記録した場合：Reel Number + File Number.mp3

<覚えておきましょう>：作成されたオーディオ・ファイルのファイル・ネームは、記録後でもMENUモードの“File”メニューにある“Rename”で変更できます（詳細は81ページ参照）。

プリ・レコーディング機能 (必要に応じて設定)

プリ・レコーディング機能とは、記録を開始する前にバッファに貯えられていたオーディオ・データ（約2秒間）も含めて記録していく機能で、記録開始時の記録漏れを防止することができます。

プリ・レコーディング機能を“ON”（初期設定は“OFF”）に設定して記録を開始すると、バッファに貯えられているオーディオ・データも含めて記録し、記録の終了時には記録開始時の遅延分Post Recordingを実行してから停止します。

使用上の都合で、プリ・レコーディング機能を“ON”に設定するには、MENUモードの“Setup”メニューにある“Pre Rec”で設定を変更してご使用ください（102ページ参照）。

ファイルの最大記録容量 (必要に応じて設定)

本機では、記録するオーディオ・ファイルの最大記録容量に制限があり、初期設定では“2GB”に設定されています。これは、FR-2LEで記録したオーディオ・ファイルをパソコンへインポートする際、使用するパソコン側のインポート可能な容量に合わせるための設定です。

ファイルの最大記録容量は、初期設定の“2GB”以外に“4GB”が選択できます。用途に合わせて変更するときは、MENUモードの“Setup”メニューにある“Max File Size”で変更してください(105ページ参照)。

<注意> : 設定されている最大記録容量まで記録すると、自動的に記録を終了して停止します。なお、最大記録容量以下のメモリー・カードを使用している場合は、設定に関わらずカードの残容量が無くなった時点で記録を終了します。

モニターの出力モード (必要に応じて設定)

ヘッドホン、および [MONITOR OUT] 端子からは、記録/再生中のオーディオ信号がモニターできます。なお、記録時は内蔵スピーカの出力はOFFになります。出力するモニター音は、MENUモードの“Setup”メニューにある“Monitor Mode”で、ステレオ出力またはモノラル出力の選択ができます。初期設定ではステレオ出力になっています(96ページ参照)。

<注意> : 本機を電池で駆動しているときは、電池の消耗を抑えるため、必要以上にモニターの音量を上げないようにしてください。

エラー・トーンの出力モード (必要に応じて設定)

メモリー・カードの記録可能な容量が少なくなったとき、および電池の残量が少なくなったとき、エラー・トーンを出力して警告します。

エラー・トーンの出力モードはMENUモードの“Setup”メニューにある“Error Tone”でON/OFFが設定できます。初期設定は“Off”に設定されていますので、エラー・トーンを出力したい場合は、“Error Tone”を“On”に設定し直してご使用ください(後述107ページを参照)。

ディスプレイのタイム表示 (必要に応じて設定)

初期設定の状態では、本機ディスプレイのタイム表示モードはABSになっています。このモードは、一番最初に記録するオーディオ・ファイルの先頭を0 (ABS 0) としてカウントアップしていき、つぎに記録するオーディオ・ファイルも連続してカウントする表示になっています。

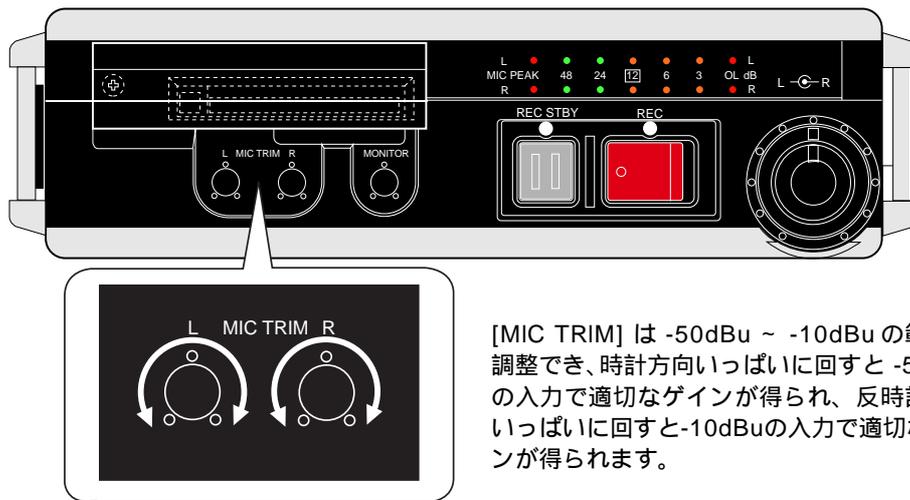
このタイム表示は、ABSモード以外に“PRG”または“24H”モードに切り換えてご使用いただけますので、用途に応じて設定してください(103ページを参照)。

オーディオ信号の記録

下記操作は、前述のクイックセットアップ・モードやMENUモードにおいて、記録に必要な動作環境の設定が行われ、メモリー・カードには何も記録されていない状態 (“ <<No Audio Files>> ” を表示) を前提にしています。

入力ゲインの調整

[ANALOG IN] のXLRコネクタに外部マイクを接続して記録するときは、[MIC TRIM] つまみで最適な入力ゲインを調整します(ライン入力、および内蔵マイクでの記録時は、[MIC TRIM] は機能しません)。



[MIC TRIM] は -50dBu ~ -10dBu の範囲で調整でき、時計方向いっぱいに戻すと -50dBu の入力で適切なゲインが得られ、反時計方向いっぱいに戻すと -10dBu の入力で適切なゲインが得られます。

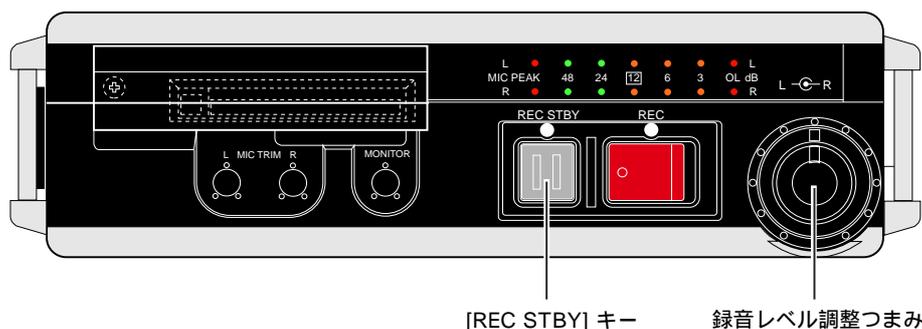
録音レベルの調整

記録する音源に合わせて、最適な録音レベルを調整します。

外部入力(マイクまたはライン入力)での記録時

[REC STBY] キーを押して本機をインプットモニター状態にして、フロント・パネル部のLEDレベル・メータおよびディスプレイのレベル・メータを監視しながら、録音レベル調整つまみで最適な録音レベルを調整します。

特にマイク入力時では、レベル・メータの[MIC PEAK] インジケータが点灯しないよう、[MIC TRIM] を調整します(次ページ参照)。



[REC STBY] キー

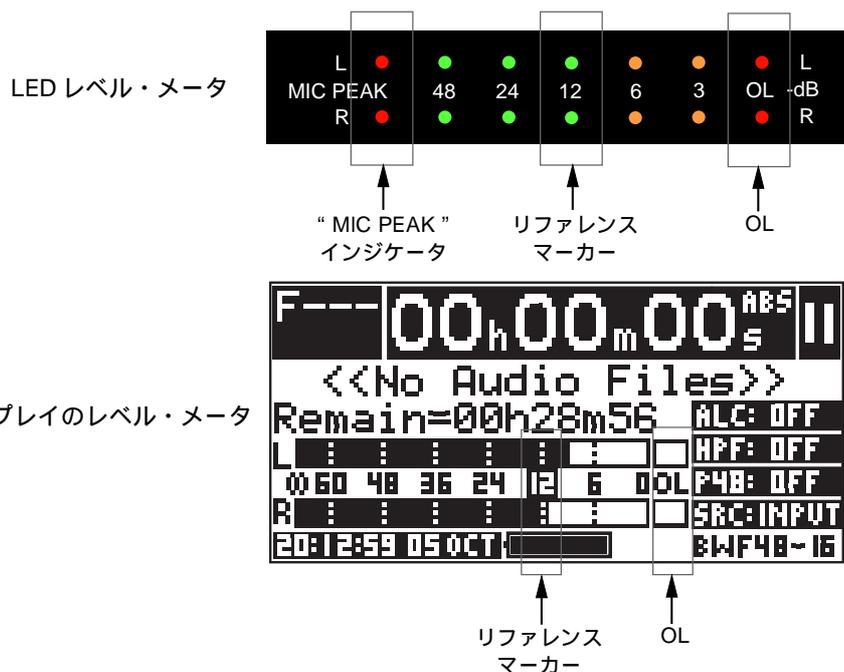
録音レベル調整つまみ

内蔵マイクでの記録時

[REC STBY] キーを押して本機をインプットモニター状態にして、フロント・パネル部のLEDレベル・メータおよびディスプレイのレベル・メータを監視しながら、内蔵マイクの向きや音源との距離を調整しながら、最適な録音レベルを決定します（注意：内蔵マイク使用時は、レベル調整つまみは機能しません）。



<注意>： 録音レベルは、ディスプレイのレベル・メータ、およびフロントパネル部のLEDレベル・メータが、“0dB”を越えないように設定してください。
 最適なS/Nを実現するためには、“0dB”に近かつ“0dB”を越えないように設定することをお勧めします。各レベル・メータの“OL (Over Level)”部が頻りに点滅する場合は、音に歪みを生じてしまいます。また、LEDレベル・メータの“MIC PEAK”インジケータは、マイク・アンプ部のピークを表示します。マイク入力時ではこの“MIC PEAK”インジケータが点灯しないよう、[MIC TRIM]を調整してください。なお、本機のリファレンス・レベルは“-12dBFS”になっており、24bitフル・スケール・レベル(0dB)から“-12dB”のポイントが、リファレンス・マーカーになっています。

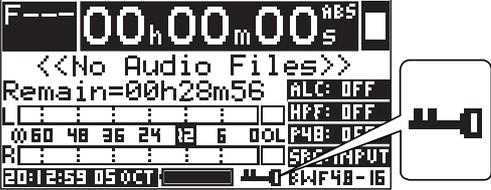


記録の開始

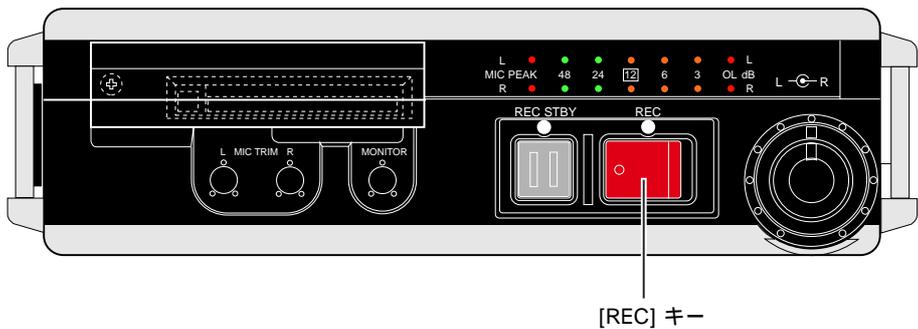
最適な録音レベルが調整できたら、記録を開始します。

本機では、記録を繰り返すごとに新たなオーディオ・ファイルがメモリー・カード上に作成されます。なお、本機では同一のオーディオ・ファイルに追記録することはできません。

<覚えておきましょう> : 本機では、[SHIFT] キーを押しながら [+]/[LOCK] キーを押すと、操作パネルをロックすることができます。パネル・ロックされると、[REC] キーと [REC STBY] キーの操作キー以外はすべてロックされるため、誤操作を防ぐことができます。なお、パネル・ロックされるとディスプレイには“鍵”アイコンが点灯します。



<覚えておきましょう> : 本機では、記録時1分ごとにファイルをクローズ処理する機能を搭載しています。そのため、ACアダプタを使用している記録時など、予期せぬ停電や不測の事故が発生しても、事故が発生するまでの記録データは消滅することはありません。



- 1) **インプットモニターの状態から、[REC] キーを横へスライドさせます。**
メモリー・カード上に新たなオーディオ・ファイルを作成して、記録を開始します。前述の「Pre Rec」モードを“On”に設定して記録したときは、バッファに貯えられているオーディオ・データも含めて記録することができます。

作成されるオーディオ・ファイルのファイル・ネームは、前述 58 ページに記載した「デフォルト・ファイル・ネームの設定」に準じて付加されます。

<注意> : インプットモニターを解除した状態から [REC] キーを押して記録を開始すると、記録開始まで約 1 秒程度の遅延が生じます。記録漏れを防ぐには、本機をインプットモニターにしてから記録を開始することをお勧めします。

- 2) **記録を終了するときは、[REC STBY] キー(または [STOP/CANCEL] キー)を押します。**
[REC STBY] キーで終了したときはインプットモニターの状態を継続しますが、[STOP/CANCEL] キーで終了したときはインプットモニターは解除されます。

<覚えておきましょう> : 本機で記録したオーディオ・ファイルは、記録する順番で自動的に ADL (Audio Decision List) に組み込まれ、再生時は記録した順番に連続再生が可能です。また、この ADL から任意のオーディオ・ファイルを外したり、一旦外したオーディオ・ファイルを任意の順番位置に戻すことが可能です。詳細は 83/84 ページを参照してください。

<覚えておきましょう> : 記録したオーディオ・ファイル (BWF および MP3) は、FR-2LE にパソコンを接続してパソコンへインポートすることが可能です (69 ページを参照)。

CUE ポイントの記録

本機では“CUE ポイント”を記録する機能を搭載していて、登録したCUEはマーカーとして利用できます。CUE ポイントは、オーディオ信号の記録中(または停止)任意の位置に手動で記録します。

任意の位置にCUEを記録

記録/再生/停止中に [MARK/DEL MARK] キーを押すことで、押したポイントに“CUE”が記録できます(CUEは1つのオーディオ・ファイルに最大99個記録できます)。

<注意> : MP3の記録フォーマットで記録したファイルでは、実行できません。

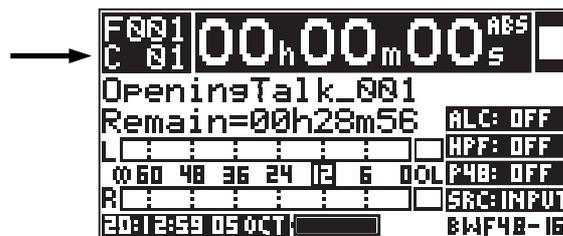


連続してCUEを記録すると、CUEナンバーはカウント・アップして登録されていきます。

記録したCUEはロケート動作に利用され、不要なCUEはリアルタイムに削除することができます。CUEの削除についてはこの後64ページを参照し、CUEを利用したロケート動作についてはこの後66ページの「ロケート機能」をお読みください。

記録したCUEの確認

ファイル上に記録されたCUEポイントは、Home画面の矢印部分に表示されます。下記例は、レコーダーの現在位置がファイルの先頭(ABS 0)にある状態で、最も近い位置にCUE01が記録されていることを示しています。

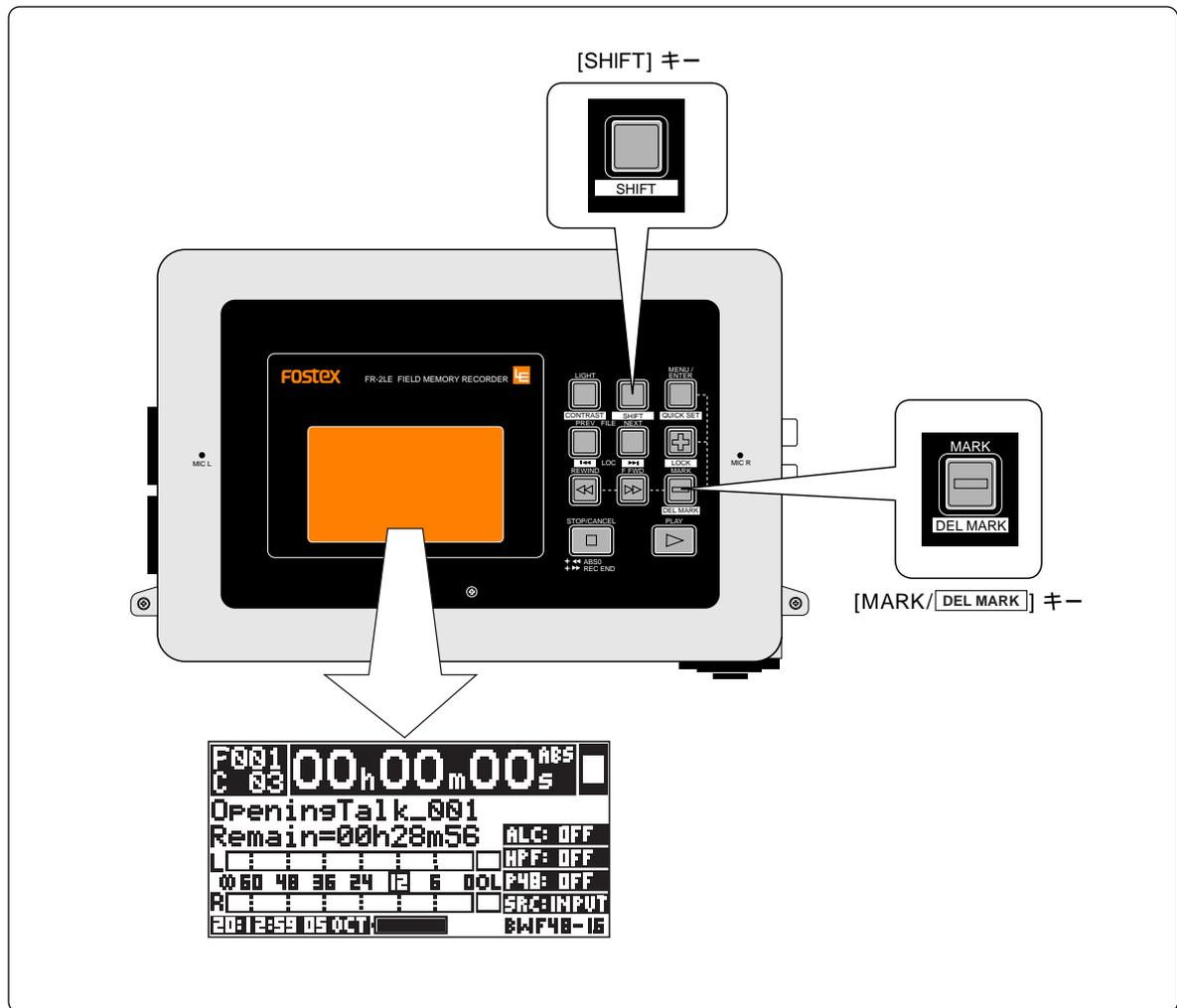


<注意> : 表示するCUEナンバーは、レコーダーの現在位置の後に最も近いCUEが表示されます。

リアルタイムに不要な CUE を削除

再生中（または停止中）に、[SHIFT] キーを押しながら [MARK/DEL MARK] キーを押すと、現在ディスプレイに表示されている CUE をリアルタイムに削除します。

例として、下の図のように CUE ナンバー表示部に“C 03”が表示されているとき操作すると、CUE03 が削除されます。



オーディオ・ファイルの再生

下記操作は、カードに複数のオーディオ・ファイルが記録され、一番最初に記録したオーディオ・ファイルの先頭で立ち上がっていることを前提にしています。

通常の再生

1) [PLAY] キーを押して、再生を開始します (PLAY インジケータが点灯します)

<覚えておきましょう>：本機で記録した複数のオーディオ・ファイルは、記録する順番で自動的に ADL (Audio Decision List) ファイル・リストに組み込まれるため、再生時はファイル・リストの順番に連続再生することが可能です。なお、再生の開始するオーディオ・ファイルを選択するには、下記「オーディオ・ファイルの選択方法」をお読みください。

2) 再生音は、ヘッドホン (または内蔵スピーカ) でモニターします。

モニターの音量は [MONITOR] つまみで調整してください。

3) 再生を停止するには、[STOP/CANCEL] キーを押します。

<覚えておきましょう>：ADL ファイル・リストに組み込まれているファイルの連続再生が終了すると、本機は自動的に停止します。

<オーディオ・ファイルの選択方法>

再生を開始するオーディオ・ファイルを選択するには、下記いずれかの方法で行なえます。

[PREV] / ◀◀ キーまたは [NEXT] / ▶▶ キーでの選択

停止状態で [PREV] / ◀◀ キーまたは [NEXT] / ▶▶ キーを押すと、現在立ち上がっているファイルの前後にエントリーされているオーディオ・ファイルの先頭にロケートして、再生を開始するオーディオ・ファイルが選択できます。

[MENU] モードでの選択

- (1) 停止状態で [MENU/ENTER] キーを押して、MENU モードへ入ります。
- (2) “File >” が反転している状態で [MENU/ENTER] キーを押します。
メモリー・カードに記録されているオーディオ・ファイルのリスト画面に変わります。
- (3) [+] / [-] キーを押して希望のファイルを選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。
File メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。
- (4) “Locate >” が反転している状態で [MENU/ENTER] キーを押します。
選択したオーディオ・ファイルの先頭を示す Home 画面に変わります。

ファイル・セレクトの詳細は 80 ページにも記載してありますので、参照してください。

```
MENU▶File
▼File ▶
Disk ▶
Setup ▶
USB Mode ▶
```

```
MENU▶File ABS 0h00m00
▼001:File Name_1.wav
002:File Name_2.wav
003:File Name_3.wav
004:File Name_4.wav
005:File Name_5.wav
```

```
MENU▶File▶F002
▼Locate ▶
Rename ▶
Remove ▶
Prev.Insert ▶
Next.Insert ▶
```

キューイング・モードによる再生

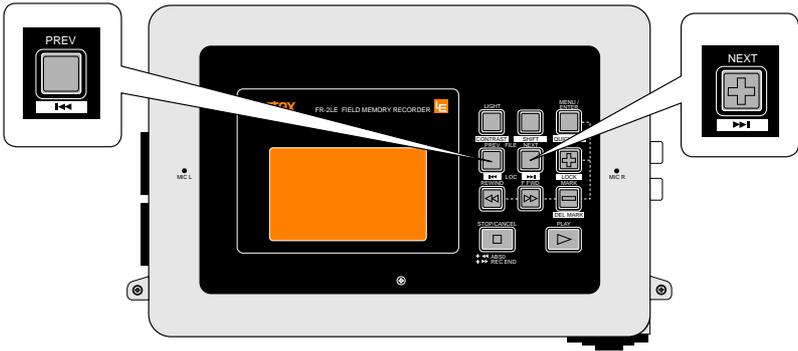
再生中、[F FWD] キー（または [REW] キー）を押すとキューイング・モードに入り、フォワード方向またはリワインド方向へは、最大2倍速のキューイング（モニターしながら早送り/逆戻し）ができます。

ロケート機能

本機には多彩なロケート機能を搭載しており、用途に応じて使い分けることができます。

ファイル単位のロケート

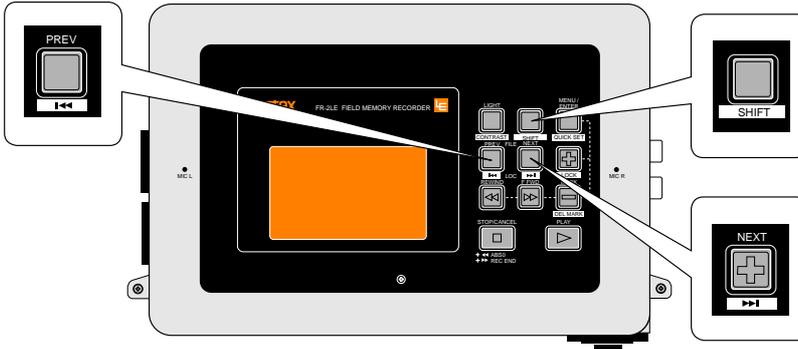
メモリー・カードに複数のオーディオ・ファイルが作成されているとき、速やかに希望のオーディオ・ファイルの先頭（PGM 0）にロケートすることができます。
停止状態で、[PREV] / ◀◀ キーまたは [NEXT] / ▶▶ キーを押すと、現在立ち上がっているオーディオ・ファイルの前後にあるオーディオ・ファイルへロケートします。
前述「再生」で記載した「オーディオ・ファイルの選択」などに便利で、キーを押した回数前（または後）にエントリーされているオーディオ・ファイルの先頭にロケートします。



CUE ポイントのロケート

現在立ち上がっているオーディオ・ファイルに記録されている“CUE”を対象に、CUEの記録されているポジションへ速やかにロケートします。
停止状態で [SHIFT] キーを押しながら [PREV] / ◀◀ キーまたは [NEXT] / ▶▶ キーを押すと、現在のポジションから前後に記録されているCUEへロケートします。

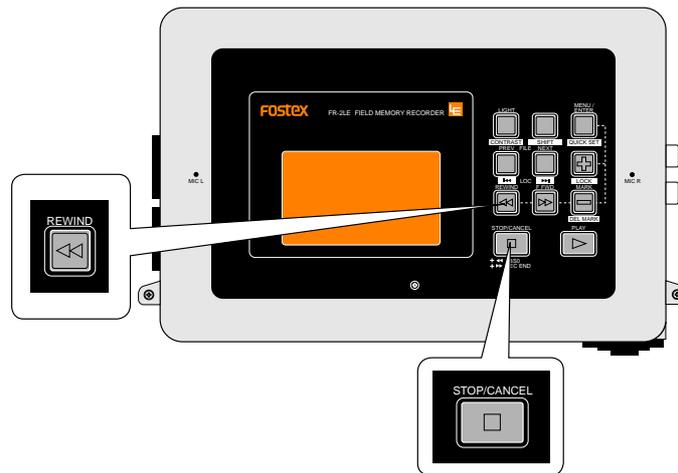
<注意> : MP3の記録フォーマットで記録したファイルでは、実行できません。



ファイルの先頭 (ABS 0) へのロケート

停止状態で [STOP/CANCEL] キーを押しながら [REWIND] キーを押すと、オーディオ・ファイルの先頭 (ABS 0) へ速やかにロケートします。

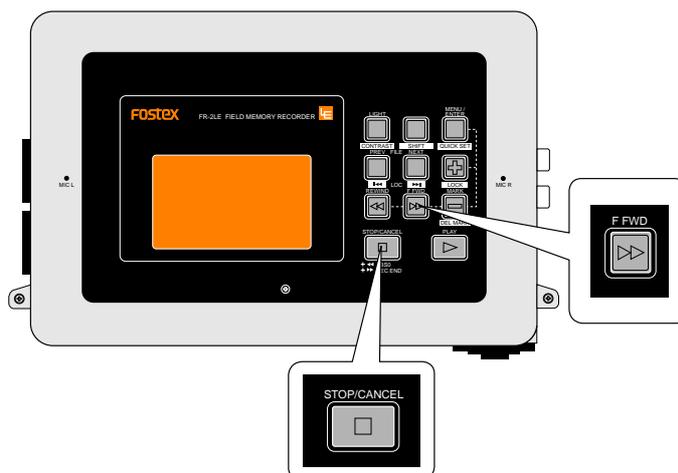
<注意>：複数のオーディオ・ファイルが記録されている場合は、一番最初に記録したオーディオ・ファイルの先頭 (ABS 0) へロケートします。



ファイルの最終記録位置 (REC END) へのロケート

停止状態で [STOP/CANCEL] キーを押しながら [F FWD] キーを押すと、最終記録位置 (REC END) へ速やかにロケートします。

<注意>：複数のオーディオ・ファイルが記録されている場合は、一番最後に記録したオーディオ・ファイルの最終記録位置へロケートします。



第6章 PCへのインポート

ここでは本機とPCを接続して、FR-2LEで記録したオーディオ・ファイルをPCへ取り込む方法を記載しています。

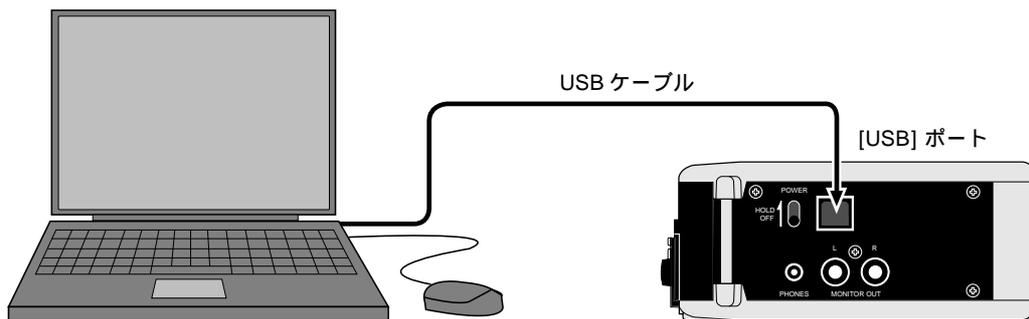
<目次>

パソコンとの接続	70
USB Modeの接続手順.....	71
ハードディスクへのコピー.....	72
メモリー・カードへのコピー.....	72
コンピュータ・ソフトへのインポート例.....	73
カードのプロテクト設定 / 解除	76

パソコンとの接続

USBポートを使用してパソコンに接続することで、FR-2LEとパソコン間でメモリー・カードに記録したオーディオ・ファイル（BWFファイル/PM3ファイル）の転送が可能になります。FR-2LEで記録したオーディオ・データをパソコンのハードディスクへコピーしたり、Digidesign Pro Toolsなどのコンピュータ・ソフトへインポートすることができます。

パソコンとの接続は、下図のようにFR-2LEのPC専用[USB]ポートとPCの[USB]ポートをUSBケーブルで接続（注意：USBケーブルは付属していません）し、MENUモードの“USB Mode”メニューで接続設定を行います（次ページの「接続手順」を参照してください）。



<接続時のご注意>

本機とパソコンを接続してご使用になる場合は、FR-2LEの安定した動作を確保するため、ACアダプタで本機を駆動してください。

オーディオ・ファイルの取り込みに使用できるPCは、Windows ME、2000、XPのOSを搭載した、USB対応のPCのみに限られます。これ以外のOSおよびMacintoshのPCでは使用できません。あらかじめ、お使いになるPCをご確認の上操作を行ってください。

USB端子を搭載していないPC（Windowsのみ）であっても、市販のWindows対応CFC専用カード・リーダー等を使うことで、メモリー・カードに記録されているデータをバックアップできます。

* 本書に記載されている会社名および製品名などは、一般的に各社の商標または登録商標となっております。

<メモリー・カードのプロテクトについて>

本機MENUモードの“USB Mode”メニューには、メモリー・カードのプロテクトを設定/解除する“Card Protect”を搭載しています。パソコンと接続してオーディオ・ファイルのやり取りを行う際には、FR-2LE側のメモリー・カードに記録されているオーディオ・ファイルを保護するため、プロテクトを設定してご使用いただくことをお勧めします（詳細は、この後76ページを参照してください）。

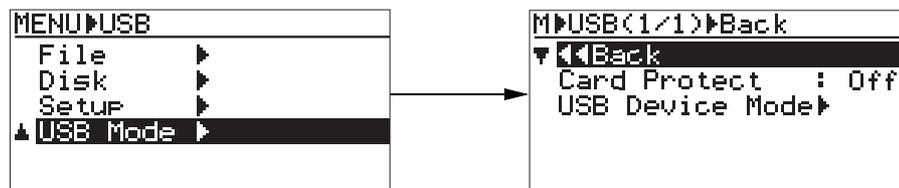
USB Mode の接続手順

ここでは、例として Windows ME を搭載したパソコンに接続することを前提にしています。

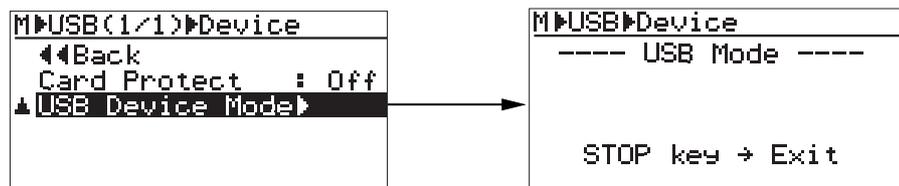
- 1) PC および本機の電源をオンします
- 2) FR-2LE の [MENU/ENTER] キーを押して、MENU モードへ切り換えます。
MENU モードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。



- 3) [-] キーを押して、画面下にある “USB Mode >” を選択して [MENU/ENTER] キーを押します。
USB Mode メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 4) [-] キーを押して、“USB Device Mode >” を選択して [MENU/ENTER] キーを押します。
FR-2LE が USB Mode に設定され、下記画面に変わります。この画面が表示されている状態で、FR-2LE とパソコン間でデータのやり取りが可能になります。



<注意> : FR-2LE が “USB Mode” に設定されているときは、本体の [STOP/CANCEL] キーのみを除く他の操作キー / スイッチなどは機能しなくなります。

- 5) USB ケーブルで FR-2LE と PC を接続します。

ハードディスクへのコピー

- 1) **PCの「マイ・コンピュータ」を開くと、PC上に「リムーバブル・ディスク」というドライブが追加されます。**
PCに初めてFR-2LEを接続した場合は、デバイス・ドライバーのインストールが行われます。
- 2) **追加されたリムーバブル・ディスク・ドライブを開き、目的のフォルダーからオーディオ・ファイルを選択してPCへコピーします。**
追加されたリムーバブル・ディスク・ドライブを開くと、FR-2LEにセットされているカレント・ドライブのカード内容が表示され、現在記録されているオーディオ・ファイルの一覧が確認できます。

<注意> : 「フォルダーへコピー」ではなく「フォルダーへ移動」を実行したときは、カード上の元ファイルはなくなりますので、ご注意ください。
- 3) **ファイル・データの取り込みが終わったら、PCからUSBケーブルの接続を外します。**

<注意> : 取り込み終了後、PCからFR-2LEを取り外すには、Windowsの「ハードウェア取り外し」を実行してから、指示に従ってUSBケーブルを外してください。
- 4) **[STOP/CANCEL] キーを押してUSB Modeを解除します。**
USB Modeが解除されると同時にMENUモードから抜け出します。

メモリー・カードへのコピー

パソコンからFR-2LEのメモリー・カードへファイル・データをコピーします。
特に、FR-2LEをバージョンアップする際、当社ホームページからダウンロードしたバージョンアップ用のファイル・データをメモリー・カードにコピーするときにご利用ください(バージョンアップの方法は111ページを参照)。下記操作は、バージョンアップ用のファイルがパソコンのデスクトップ上にダウンロードされていることを前提にしています。

<注意> : パソコンからメモリー・カードへデータをコピーするときは、お使いいただいているメモリー・カードにプロテクトがかかっていないことを確認してください。プロテクトがかかっていると、コピーすることができません。

- 1) **PCの「マイ・コンピュータ」を開くと、PC上に「リムーバブル・ディスク」というドライブが追加されます。**
PCに初めてFR-2LEを接続した場合は、デバイス・ドライバーのインストールが行われます。
- 2) **追加されたリムーバブル・ディスク・ドライブの「ルート・フォルダー」に、ダウンロードしたバージョンアップのファイルをコピーします。**

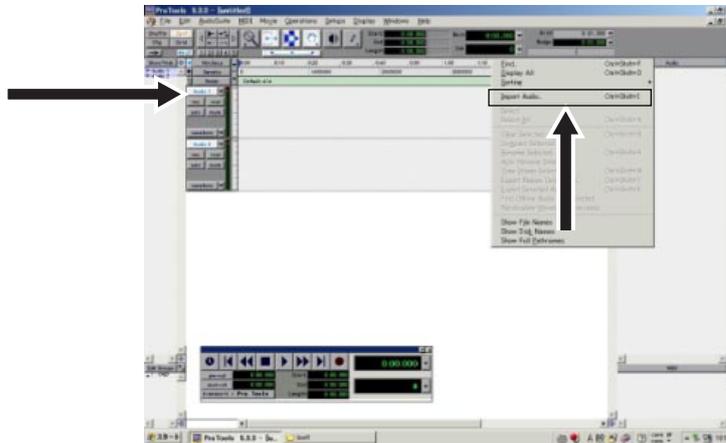
<注意> : 「フォルダーへコピー」ではなく「フォルダーへ移動」を実行したときは、PC上の元ファイルはなくなりますので、ご注意ください。
- 3) **ファイル・データのコピーが終わったら、PCからUSBケーブルの接続を外します。**

<注意> : 取り込み終了後、PCからFR-2LEを取り外すには、Windowsの「ハードウェア取り外し」を実行してから、指示に従ってUSBケーブルを外してください。
- 4) **[STOP/CANCEL] キーを押してUSB Modeを解除します。**
USB Modeが解除されると同時にMENUモードから抜け出します。

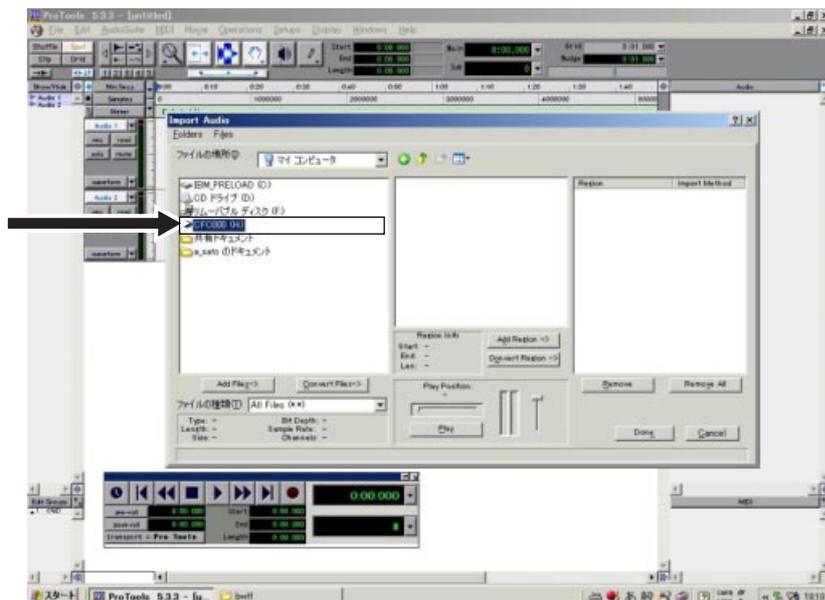
コンピュータ・ソフトへのインポート例

ここでは例として、コンピュータ・ソフトのDigidesign Pro Toolsへ、オーディオ・データをインポートする方法を記載しており、Windows版のPro Toolsを使うことを前提にしています。Pro Toolsの詳しい操作については、ソフト・ウェアに付属されている説明書を参照してください(ここに記載の画面表示などは一例として記載しているため、実際と異なる場合があります)。

- 1) PC側のコンピュータ・ソフト(Pro Tools)を立ち上げます。
- 2) Pro Toolsの画面内にある“Audio”部分を選択して、オーディオ・リージョン・リストのポップアップ・メニューを表示させます(矢印1)。
- 3) ポップアップ・メニューから“Import Audio”メニューを選択して、クリックします(矢印2)。



- 4) デスクトップ上にある“CFC000”を選択して、クリックします(矢印3)。
下記例のディスク・ボリューム・ラベルは、初期設定における「仮ラベル」を表示しています。メモリー・カードのボリューム・ラベルを、MENUモードの“Disk”メニューにある“Reel No”において任意にエディットしている場合には、そのボリューム・ラベルが表示されます。

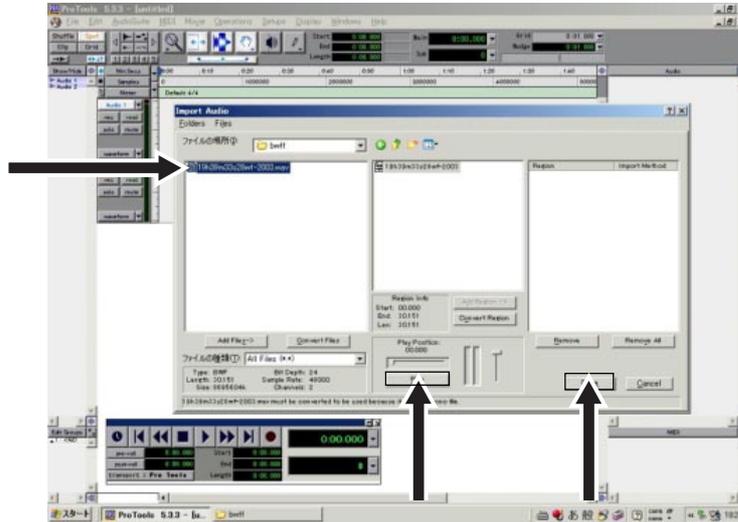


5) カード内の "bwff" ディレクトリにあるオーディオ・ファイルを選択して、クリックします (矢印4)

"Region in current file" に、選択したオーディオ・ファイルが表示されます。

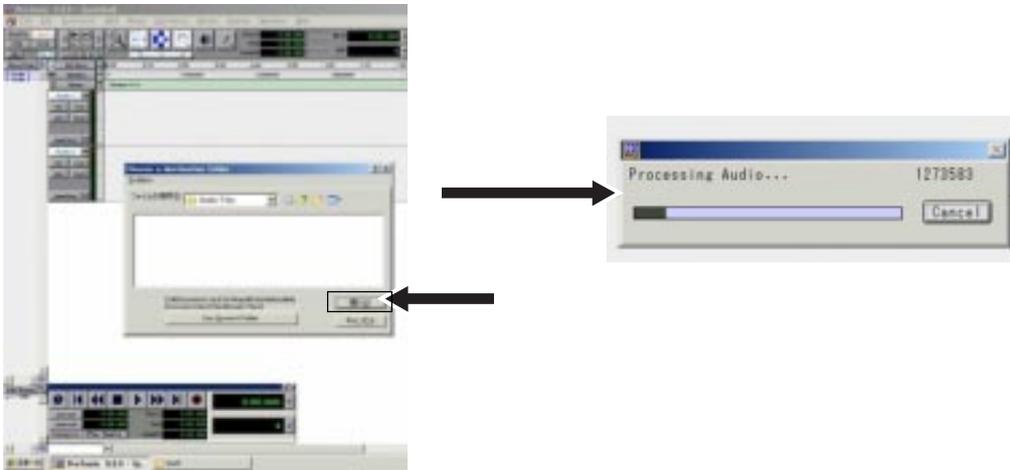
6) "Convert ->" をクリックした後、"Done" をクリックします (矢印5)

保存ファイルを選択する画面に変わります。

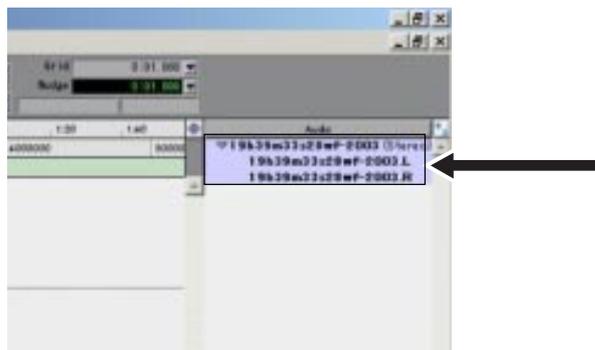


7) 保存ファイルを選択して、"開く" をクリックします (矢印6)

選択したファイルへの保存が始まります。



保存したファイルは、オーディオ・リージョン・リストに表示されます (矢印7)。



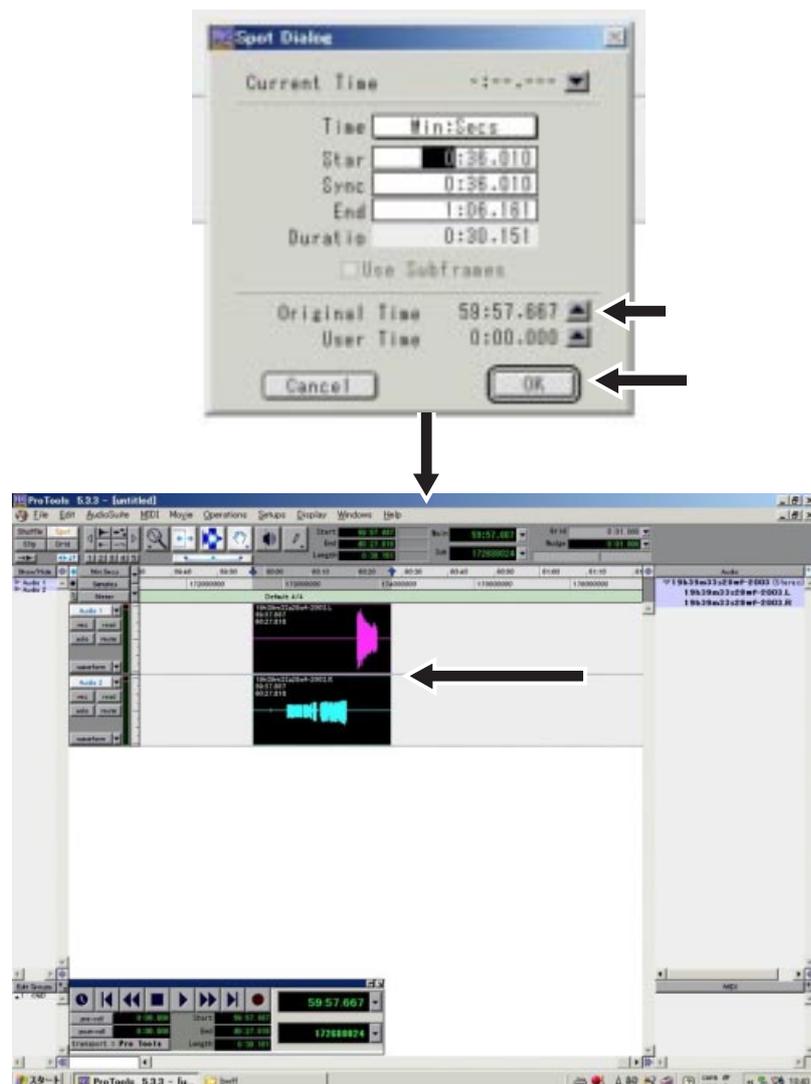
- 8) “Spot” を有効にした後、オーディオ・リージョン・リストをトラック・エリアにドラッグ&ダウンします(矢印8)

RTC を元に記録して TIME STAMP に従って張り付ける場合は、“Spot” を有効にします。ドラッグ&ダウンすると、スポット・ダイアログ設定画面が表示されます。



- 9) スポット・ダイアログの“ ”をクリックして、“OK” をクリックします(矢印9)

“ ”をクリックすると、現在表示されている Original Time Stamp の時間が“Start”時間に設定されます。その後、“OK”をクリックすることで、指定した位置からオーディオ・データがインポートされます。

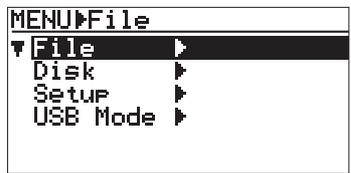


カードのプロテクト設定 / 解除

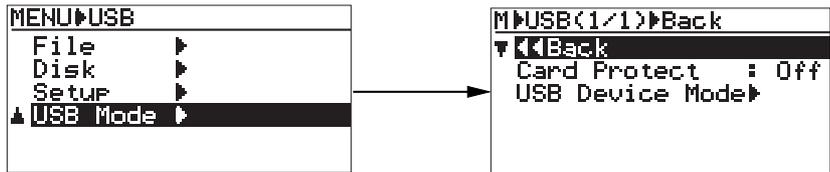
カードのプロテクトは、FR-2LEとパソコンを接続する“USB Mode”においてのみ有効で、現在FR-2LEにセットされているメモリー・カードを“Read/Write”可能にするか、“Read”のみを可能にすることができます。

誤った操作でパソコンからFR-2LEへファイル・データを取り込んだりすると、FR-2LEのオーディオ・ファイルが破壊される恐れがあります。そのため、オーディオ・ファイルの破壊を防止するためにも、メモリー・カードにプロテクトをかけてご使用になることをお勧めします。

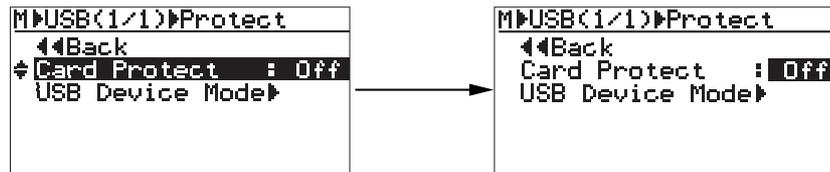
- 1) PCおよび本機の電源をオンします
- 2) FR-2LEの[MENU/ENTER]キーを押して、MENUモードへ切り換えます。
MENUモードのメイン・メニューを選択する画面に変わります。



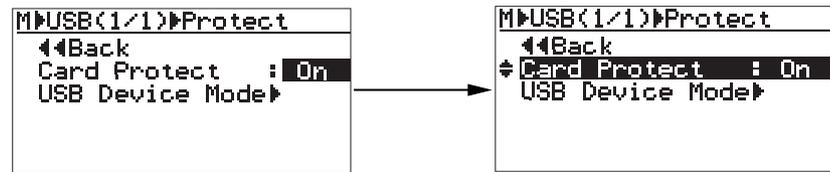
- 3) [-]キーを押して、画面下にある“USB Mode >”を選択して[MENU/ENTER]キーを押します。
USB Modeメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 4) [-]キーを押して“Card Protect”を選択して、[MENU/ENTER]キーを押します。
現在の設定が点滅して、変更可能な画面に変わります（初期設定では“Off”が点滅します）。



- 5) [+] / [-]キーで“On”を選択して、[MENU/ENTER]キーを押します。
プロテクトがONに設定され、一つ前の画面に変わります。プロテクトを解除する場合も、同じ要領で設定してください。



On	Readのみ可能（FR-2LEからパソコンへデータのインポートのみが可能）
Off（初期設定）	Read/Writeが可能（パソコンとFR-2LE間の双方でデータのやり取りが可能）

- 6) [STOP/CANCEL]キーを押して、MENUモードから抜け出します。

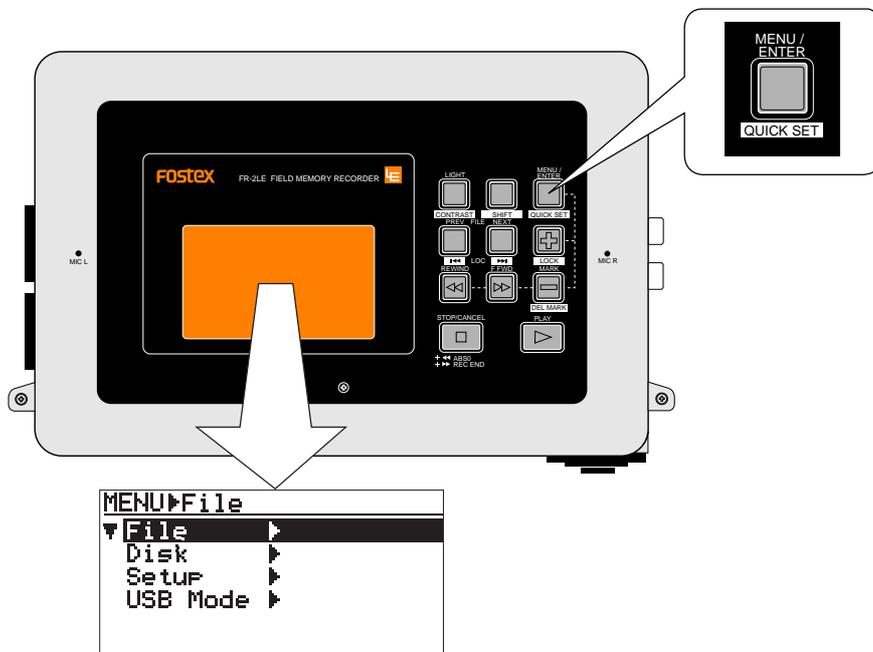
第7章 MENUモード

<目次>

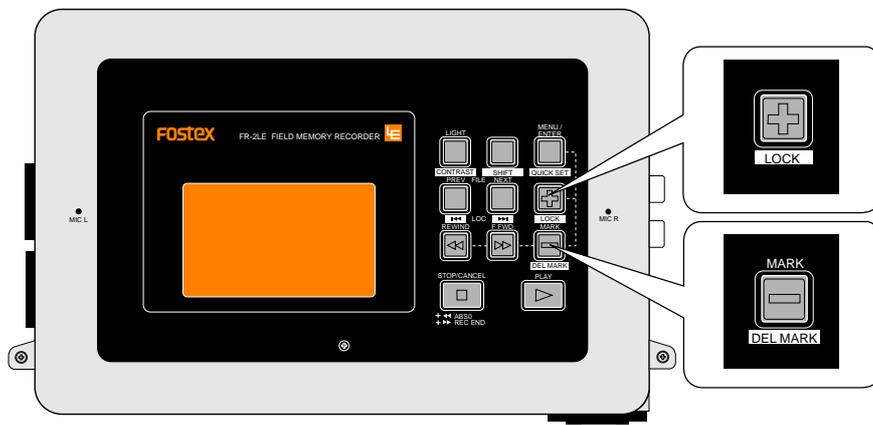
MENUモードの操作方法	78
サブ・メニューの詳細.....	79
Fileメニュー	80
選択したオーディオ・ファイルの先頭にロケート.....	80
ファイル・ネームをリネームして再登録.....	81
任意のオーディオ・ファイルをADLから外す.....	83
ADLから外したフリー・ファイルを再度ADLへ組み込む.....	84
Diskメニュー	86
メモリー・カードのフォーマット.....	86
メモリー・カードのReel Numberをリネームして再登録.....	89
レジューム機能のON/OFF設定.....	90
Setupメニュー	91
ALC (Auto Level Control) 、Limiter機能のON/OFF設定.....	91
HPF (High Pass Filter) のON/OFF設定.....	92
デフォルトFS/BIT(記録フォーマット)の設定.....	93
入力ソース(内蔵マイク / 外部入力)の設定.....	94
ファンタム電源供給のON/OFF設定.....	95
モニターの出力モード設定.....	96
内蔵スピーカのON/OFF設定.....	97
記録時作成されるファイルの、ファイル・ネーム・モードを設定.....	98
デフォルト・ファイル・ネームを設定.....	99
PRE RECモードのON/OFF設定.....	102
タイム表示部の表示モード設定.....	103
リメインの表示モードを設定.....	104
ファイルの最大記録容量を設定.....	105
本機を駆動するバッテリー・タイプの設定.....	106
エラー・トーン出力のON/OFF設定.....	107
リアルタイム・クロック(内蔵時計)の設定.....	108
本体ROMのバージョン確認.....	109
Setupメニューのイニシャライズ.....	110
ソフトウェアのバージョンアップ.....	111

MENUモードの操作方法

MENUモードを操作するには、本機が停止状態で [MENU/ENTER] キーを押します。本機が MENUモードへ入り、メイン・メニューを選択する画面に変わります。



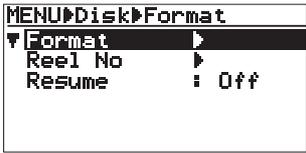
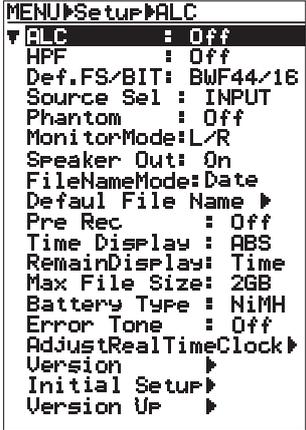
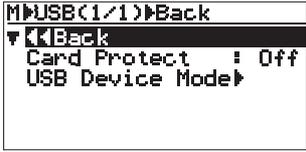
希望のメイン・メニューは、[+] キー / [-] キーを押して選択します。[+] キーを押すとカーソルが上に移動し、[-] キーを押すとカーソルは下に移動します。



希望のメイン・メニューを選択した後 [MENU/ENTER] キーを押すと、選択したメイン・メニューに用意されているサブ・メニューを選択する画面に変わります (下記<注意>を参照)。用途に応じて希望のサブ・メニューを選択して実行します。

<注意> : メイン・メニューを選択して [MENU/ENTER] キーを押したとき、サブ・メニューが表示されるのは Disk メニュー / Setup メニューおよび USB Mode メニューで、File メニューではサブ・メニューの前に設定 / 編集などを対象とするオーディオ・ファイルを選択する画面が表示されます。詳細は File メニューの項をお読みください。

サブ・メニューの詳細

サブ・メニュー	サブ・メニューの機能
Fileメニューのサブ・メニュー 	Locate : 選択したオーディオ・ファイルの先頭にロケート Rename : 選択したオーディオ・ファイルのファイル・ネームをリネーム Remove : 任意のオーディオ・ファイルを ADL (Audio Decision List) から外す Prev. Insert/Next Insert : ADL (Audio Decision List) から外したオーディオ・ファイルを、再度復活
Diskメニューのサブ・メニュー 	Format : メモリー・カードのフォーマット (初期化) Reel No. : メモリー・カードの Reel Number をエディット Resume : レジューム機能の ON/OFF を設定
Setupメニューのサブ・メニュー 	ALC : ALC / Limiter 機能の設定 / 解除 HPF : HPF 機能の設定 / 解除 Def, FS/BIT : フォーマット時のデフォルト記録フォーマット (FS/BIT) を設定 Source Sel : 入力ソースの選択 Phantom : ファンタム電源の設定 / 解除 Monitor Mode : モニターの出力モードを設定 Speaker Out : 内蔵スピーカの ON/OFF 設定 File Name Mode : 記録時に作成されるファイル・ネーム・モードを選択 Default File Name : FileNameModeをTake設定時の、デフォルト・ファイル・ネームを設定 Pre Rec : Pre Rec モードの ON/OFF を設定 Time Display : タイム表示モードの設定 Remain Display : リメインの表示モードを設定 Max File Size : ファイルの最大記録容量を設定 Battery Type : 電源に使用する電池の設定 Error Tone : エラー・トーン出力の設定 / 解除 Adjust Real Time Clock : リアルタイム・クロックの設定 Version : 本機搭載の ROM バージョンを確認 Initial Setup : Setup メニューのイニシャライズ Version Up : ソフトウェアのバージョンアップ
USB modeメニューのサブ・メニュー 	Card Protect : メモリー・カードのプロテクト設定 / 解除 USB Device Mode : USB 接続モードの設定 / 解除

Fileメニュー

Fileメニューでは、記録済みのオーディオ・ファイルに関する、以下4項目の編集や設定が行なえます。

1. 選択したオーディオ・ファイルの先頭にロケート
2. 選択したオーディオ・ファイルのファイル・ネームをリネームして再登録
3. 任意のオーディオ・ファイルをADL (Audio Decision List) から外す
4. ADLから外したフリー・ファイルを、再度ADLへ組み込む

<注意> : Fileメニューを実行するには、メモリー・カードにオーディオ・ファイルが記録されている必要があります。何も記録されていない状態でFileメニューを実行しようとしても“<No Entries>”が表示されます。

<覚えておきましょう> : 本機で記録したオーディオ・ファイルは、記録する順番で自動的にADL (Audio Decision List) に組み込まれます。ADLに組み込まれたオーディオ・ファイルは、記録した順番で連続再生したり、任意に選択したオーディオ・ファイルの先頭にロケートしたり、ファイル・ネームの編集が可能です。また、任意のオーディオ・ファイルをADLから外したり、一旦外したオーディオ・ファイルを再度ADLに加えることができます。本機では、ADLに組み込まれたオーディオ・ファイルを「再生可能なオーディオ・ファイル」と呼び、ADLから外したオーディオ・ファイルを「フリー・ファイル」と呼んでいます。

選択したオーディオ・ファイルの先頭にロケート

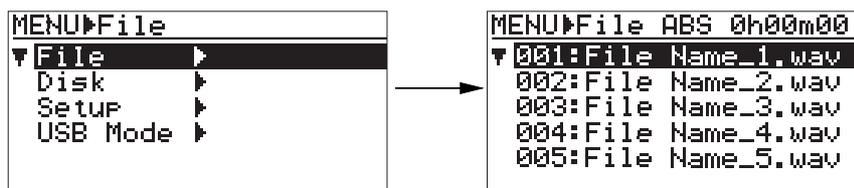
ADLに組み込まれたオーディオ・ファイルのリストから任意のオーディオ・ファイルを選択して、そのファイルの先頭へロケートします。下記操作は、本機がMENUモードに入り、メイン・メニューの選択画面（メイン・メニューの“File>”が反転）が表示されていることを前提にしています。

<注意> : 希望のオーディオ・ファイルの先頭にロケートできるのは、ADLに組み込まれたオーディオ・ファイルのみが対象で、後述の“Remove”でADLから外されたフリー・ファイルは対象になりません。

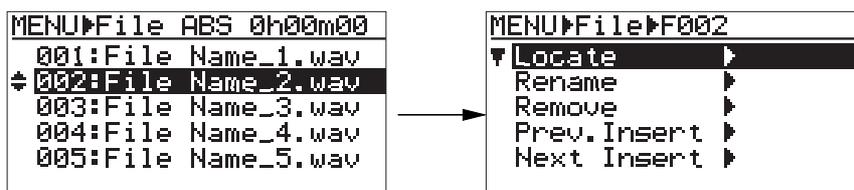
<覚えておきましょう> : オーディオ・ファイルの先頭にロケートするには、上記操作以外に[PREV]キーまたは[NEXT]キーでも操作できます（65ページ参照）。

- 1) “File>”が反転している状態で、[MENU/ENTER]キーを押します。

ADLに組み込まれているオーディオ・ファイルのリストが表示されます。

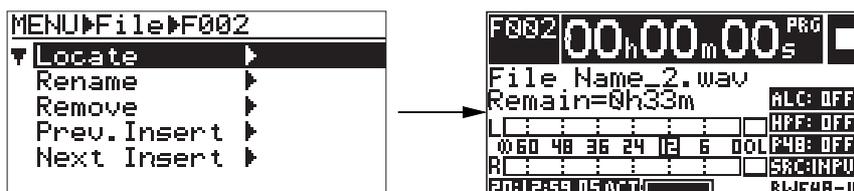


- 2) [+]/[-]キーでロケートしたいファイルを選択して、[MENU/ENTER]キーを押します。
Fileメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。下記画面は、ファイル・ナンバー002を選択した場合の例です。



- 3) “Locate >” が反転している状態で、[MENU/ENTER] キーを押します。

“Please Wait” のポップアップ表示が点灯した後、選択したオーディオ・ファイルの Home 画面に変わります。下記 Home 画面は、タイム表示部が “PRG (Program)” になっている場合の例です。



ファイル・ネームをリネームして再登録

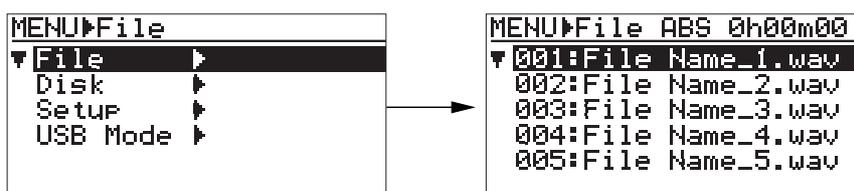
ADLに組み込まれたオーディオ・ファイルのリストから任意のオーディオ・ファイルを選択し、そのファイルのファイル・ネームを編集して再登録します。

下記操作は、本機が MENUモードに入り、メイン・メニューの選択画面(メイン・メニューの “File >” が反転)が表示されていることを前提にしています。

<注意> : ファイル・ネームを編集できるのは、ADLに組み込まれたオーディオ・ファイルのみが対象で、後述の “Remove” で ADL から外されたフリー・ファイルは対象になりません。

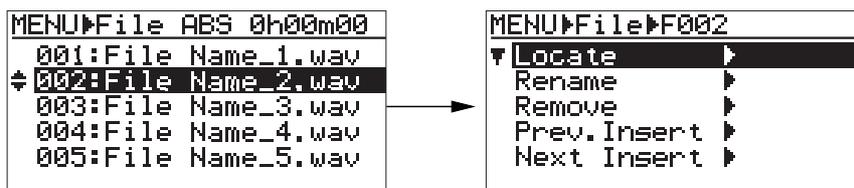
- 1) “File >” が反転している状態で、[MENU/ENTER] キーを押します。

ADLに組み込まれているオーディオ・ファイルのリストが表示されます。



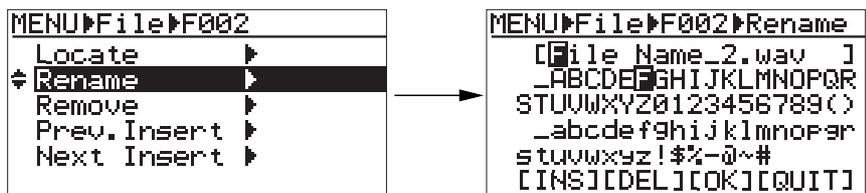
- 2) [+] / [-] キーで編集したいファイルを選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。

Fileメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。下記画面は、ファイル・ナンバー 002 を選択した場合の例です。



- 3) [+] / [-] キーで “Rename >” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。

選択したオーディオ・ファイルの、ファイル・ネームが編集可能な画面に変わります。



<ファイル・ネームの入力方法>

編集画面の [] 内にあるカーソルを「File Name カーソル」と呼び、文字 / 記号候補にあるカーソルを「文字候補カーソル」と呼んでいます。File Nameカーソルは [REWIND] / [F FWD] キーで移動でき、文字候補カーソルは [+] / [-] キーで移動できます ([+] / [-] キーを長押しすると、カーソルを早く移動できます)。



画面下にある [INS] / [DEL] / [OK] / [QUIT] は、それぞれ下記の目的で選択します。

- [INS] : “File Name カーソル” 位置に文字 / 記号を挿入するとき選択。
- [DEL] : “File Name カーソル” 位置の文字 / 記号を削除するとき選択。
- [OK] : 入力した File Name を決定するとき選択。
- [QUIT] : File Name の編集を中止するとき選択。

<ファイル・ネームの入力例>

- 1) [REWIND] / [F FWD] キーで “File Name カーソル” を希望の位置に移動します。
- 2) [+] / [-] キーで “文字候補カーソル” を希望の文字 / 記号へ移動します。
- 3) 操作 1 ~ 2 を繰り返し、希望のファイル・ネームを入力します。
文字は最大 19 文字まで入力できます。

<ファイル・ネームの削除例>

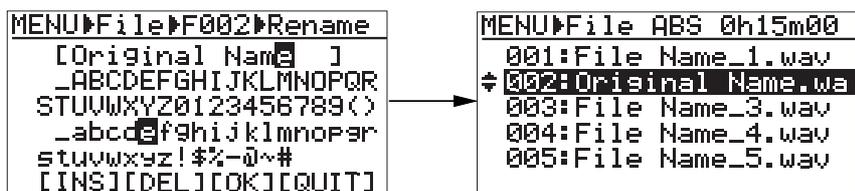
- 1) [REWIND] / [F FWD] キーで削除したい位置に “File Name カーソル” を移動します。
- 2) [+] / [-] キーで “文字候補カーソル” を “[DEL]” へ移動します。
- 3) [MENU/ENTER] キーを押して選択した文字を削除します。

<ファイル・ネームの挿入例>

- 1) [REWIND] / [F FWD] キーで挿入したい位置に “File Name カーソル” を移動します。
- 2) [+] / [-] キーで “文字候補カーソル” を “[INS]” へ移動します。
- 3) [MENU/ENTER] キーを押します。
- 4) [+] / [-] キーで挿入したい文字 / 記号を選択します。

4) 希望のファイル・ネームを入力後、[MENU/ENTER] キーを押します。

入力したネームの再登録処理が始まり、“Completed!” を表示した後再生可能なオーディオ・ファイルのリスト画面に変わります。



<覚えておきましょう>：入力したファイル・ネームを決定するには、右図のように“文字候補カーソル”を画面下の“[OK]”に移動した後、[MENU/ENTER]キーを押すことでも実行できます。

```
MENU▶File▶F002▶Rename
[Original Name ]
_ABCDEFGHIJKLMNOPQR
STUVWXYZ0123456789()
_abcdefghijklmnopqrstuvwxyz!
%&~@~#
[INS][DEL][OK][QUIT]
```

<注意>：既に存在するネームを入力して再登録しようとする、ディスプレイに“Same name exist!”が点滅表示して、登録操作はできないことを示します。また、不正なネームを入力して登録しようとしたときも、“Illegal name!”を表示して、操作は無効になります。

5) [STOP/CANCEL]キーを押して、MENUモードから抜け出します。

任意のオーディオ・ファイルをADLから外す

ADLに組み込まれたオーディオ・ファイルのリストから、任意のオーディオ・ファイルを外します。

下記操作は、本機がMENUモードに入り、メイン・メニューの選択画面(メイン・メニューの“File >”が反転)が表示されていることを前提にしています。

<注意>：ADLから外したオーディオ・ファイルは「フリー・ファイル」となってメモリー・カード上に残っていますが、再生したりファイル・ネームの編集は行なえません。再生 / 編集を可能にするには、後述の“Prev. Insert”または“Next Insert”を使い、再度ADLに組み込んでください。

<注意>：“Disk”メニューの“Format”を実行すると、メモリー・カード上に存在するすべてのオーディオ・ファイルが削除されます。

1) “File >”が反転している状態で、[MENU/ENTER]キーを押します。

ADLに組み込まれているオーディオ・ファイルのリストが表示されます。

```
MENU▶File
▼File ▶
Disk ▶
Setup ▶
USB Mode ▶

MENU▶File ABS 0h00m00
▼001:File Name_1.wav
002:File Name_2.wav
003:File Name_3.wav
004:File Name_4.wav
005:File Name_5.wav
```

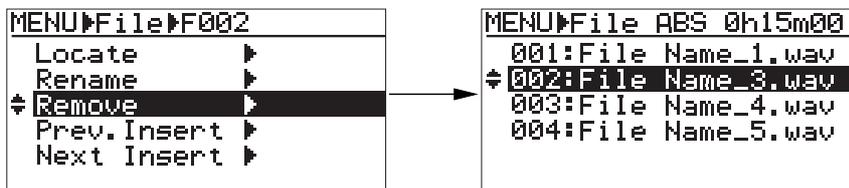
2) [+]/[-]キーで外したいファイルを選択して、[MENU/ENTER]キーを押します。

Fileメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。下記画面は、ファイル・ナンバー002を選択した場合の例です。

```
MENU▶File ABS 0h00m00
001:File Name_1.wav
◄002:File Name_2.wav
003:File Name_3.wav
004:File Name_4.wav
005:File Name_5.wav

MENU▶File▶F002
▼Locate ▶
Rename ▶
Remove ▶
Prev. Insert ▶
Next Insert ▶
```

- 3) [+] / [-] キーで “ Remove > ” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。
 選択したオーディオ・ファイルが速やかにADLから外され、下記例のように後にエントリーされていたオーディオ・ファイルが繰り上がります。



- 4) [STOP/CANCEL] キーを押して、MENUモードから抜け出します。

ADL から外したフリー・ファイルを再度 ADL に組み込む

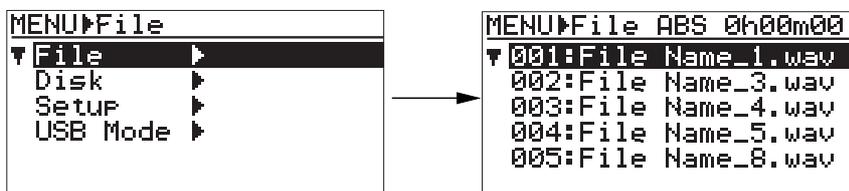
ADL から外したフリー・ファイルを、再度 ADL に組み込みます。
 フリー・ファイルは、現在 ADL に組み込まれているオーディオ・ファイルの前(または後)に
 インサートできます。再生 ADL に再度組み込まれたオーディオ・ファイルは、再生したりファ
 イル・ネームの編集が可能になります。

下記操作は、本機が MENU モードに入り、メイン・メニューの選択画面(メイン・メニューの
 “ File > ” が反転)が表示されていることを前提にしています。

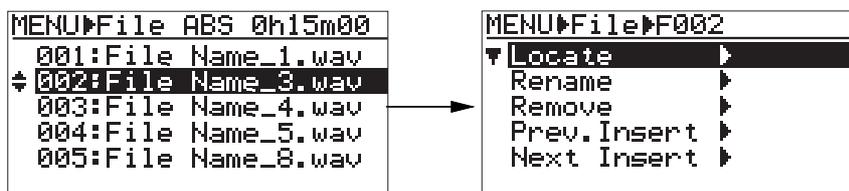
ここでは例として、現在 ADL には5つのオーディオ・ファイルが組み込まれており、ADL
 から外したフリー・ファイルが3つあることを前提にして記載しています。

<p>< 現在 ADL に組み込まれているファイル ></p> <p>001:File Name_1.wav 002:File Name_3.wav 003:File Name_4.wav 004:File Name_5.wav 005:File Name_8.wav</p>	<p>< リストから外されたフリー・ファイル ></p> <p>File Name_2.wav File Name_6.wav File Name_7.wav</p>
--	---

- 1) “ File > ” が反転している状態で、[MENU/ENTER] キーを押します。
 ADL に組み込まれているオーディオ・ファイルのリストが表示されます。



- 2) [+] / [-] キーで挿入位置のファイルを選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。
 Fileメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。下記画面は、ファイル・ナンバー 002
 を選択した場合の例です。

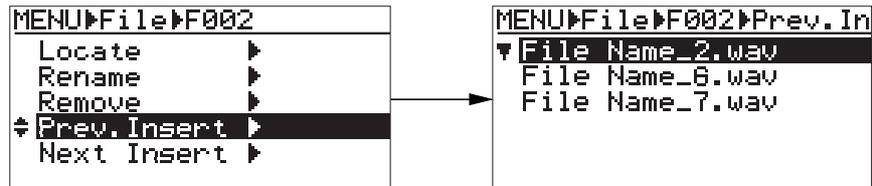


- 3) [+] / [-] キーで “ Prev. Insert > ” または “ Next Insert ” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。

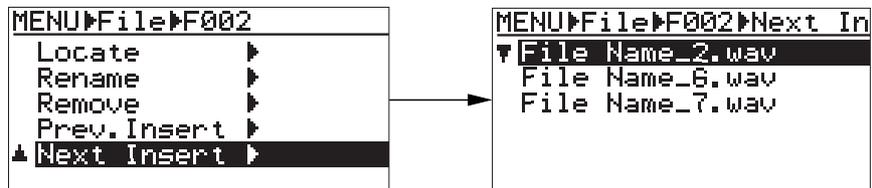
選択したオーディオ・ファイルの前にフリー・ファイルを挿入するときは “ Prev. Insert ” を選択し、後ろに挿入するときは “ Next Insert ” を選択します。

“ Prev. Insert ” または “ Next Insert ” を選択して [MENU/ENTER] キーを押すと、フリー・ファイルのリスト画面に変わります。

選択したオーディオ・ファイルの前に挿入する場合 (“ Prev.Insert ” 選択時)



選択したオーディオ・ファイルの後に挿入する場合 (“ Next Insert ” 選択時)

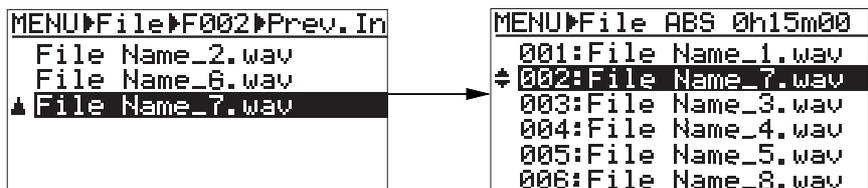


<注意> : カード上にフリー・ファイルが無い場合は、“ No free files ” が点灯して、フリー・ファイルのリスト画面は表示されません。

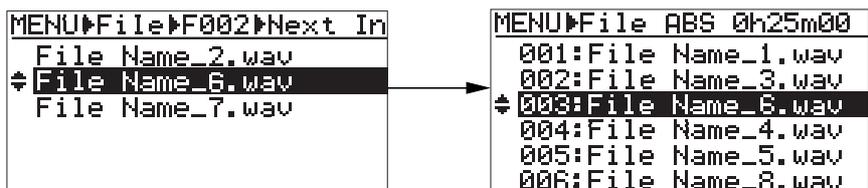
- 4) [+] / [-] キーで挿入したいフリー・ファイルを選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。

選択したフリー・ファイルが、前述の操作-2で選択したオーディオ・ファイルの前または後ろに挿入され、ADLへの組み込みが完了したリスト画面に変わります。

ファイル002の前に “ File Name_7.wav ” を挿入した例



ファイル002の後に “ File Name_6.wav ” を挿入した例



- 5) [STOP/CANCEL] キーを押して MENU モードから抜け出します。

MENU モードに入る前に立ち上がっていた、オーディオ・ファイルの Home 画面に変わります。

Diskメニュー

Diskメニューでは、メモリー・カードに関する以下3項目の編集や設定が行なえます。

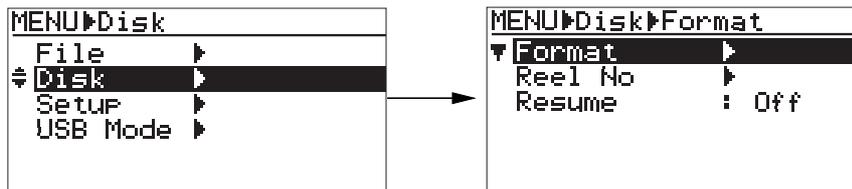
1. メモリー・カードのフォーマット
2. メモリー・カードの Reel Number (ボリューム・ラベル) を設定
3. レジューム機能の ON/OFF 設定

<注意> : Diskメニューは、本機にメモリー・カードがセットされていないと実行できません。

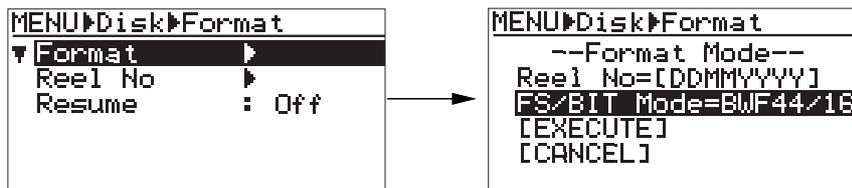
メモリー・カードのフォーマット

メモリー・カードを FAT32 (File Allocation Table 32) でフォーマットします。
 下記操作は、本機が MENUモードに入り、メイン・メニューの選択画面 (“File >” が反転) になっていることを前提にしています。

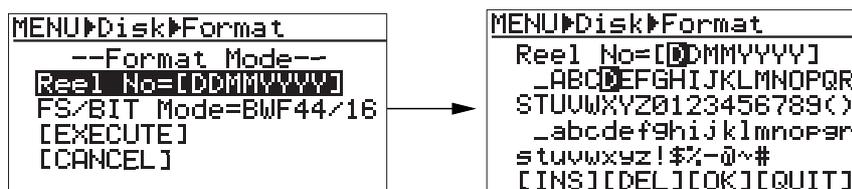
- 1) **[+] / [-] キーで “Disk >” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
 Diskメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) **“Format >” が反転している状態で、[MENU/ENTER] キーを押します。**
 フォーマット・モードを設定する画面に変わり、Reel Number や FS/BIT Mode の設定が可能になります。



- 3) **[+] キーを押して “Reel No” を反転させて、[MENU/ENTER] キーを押します。**
 現在の Reel Number 先頭が点滅し、編集が可能になります。入力方法は次ページを参照してください。



< Reel Number の入力方法 >

編集画面の [] 内にあるカーソルを「Reel Number カーソル」と呼び、文字 / 記号候補にあるカーソルを「文字候補カーソル」と呼んでいます。Reel Number カーソルは [REWIND] / [F FWD] キーで移動でき、文字候補カーソルは [+] / [-] キーで移動できます([+] / [-] キーを長押しすると、カーソルを早く移動できます)。



画面下にある [INS] / [DEL] / [OK] / [QUIT] は、それぞれ下記の目的で選択します。

- [INS] : “Reel Number カーソル” 位置に文字 / 記号を挿入するとき選択。
- [DEL] : “Reel Number カーソル” 位置の文字 / 記号を削除するとき選択。
- [OK] : 入力した Reel Number を決定するとき選択。
- [QUIT] : Reel Number の編集を中止するとき選択。

< Reel Number の入力例 >

- 1) [REWIND] / [F FWD] キーで “Reel Number カーソル” を希望の位置に移動します。
- 2) [+] / [-] キーで “文字候補カーソル” を希望の文字 / 記号へ移動します。
- 3) 操作 1 ~ 2 を繰り返し、希望の Reel Number を入力します。
Reel Number は最大 8 文字まで入力できます。

< Reel Number の削除例 >

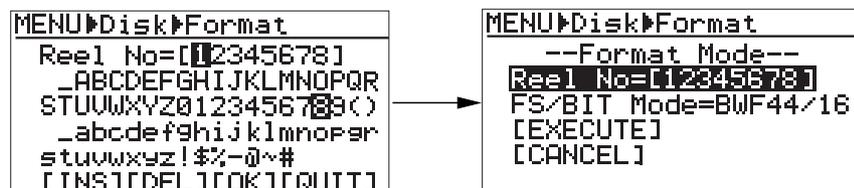
- 1) [REWIND] / [F FWD] キーで削除したい位置に “Reel Number カーソル” を移動します。
- 2) [+] / [-] キーで “文字候補カーソル” を “[DEL]” へ移動します。
- 3) [MENU/ENTER] キーを押して選択した Reel Number を削除します。

< Reel Number の挿入例 >

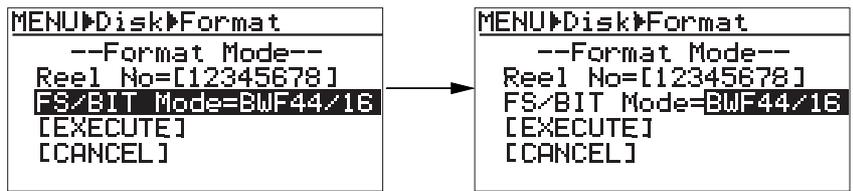
- 1) [REWIND] / [F FWD] キーで挿入したい位置に “Reel Number カーソル” を移動します。
- 2) [+] / [-] キーで “文字候補カーソル” を “[INS]” へ移動します。
- 3) [MENU/ENTER] キーを押します。
- 4) [+] / [-] キーで挿入したい Reel Number を選択します。

4) Reel Number の入力後、[MENU/ENTER] キーを押して決定します。

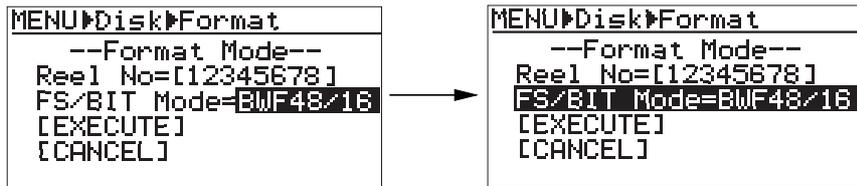
入力した Reel Number が設定され、下記例の画面に変わります。

**5) [-] キーを押して “FS/BIT Mode” を反転させて、[MENU/ENTER] キーを押します。**

FS/BIT Mode の設定が可能になります。



- 6) **[+] / [-] キーで“ FS/BIT Mode ”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
 選択した“ FS/BIT Mode ”が決定され、下記例の画面に変わります。

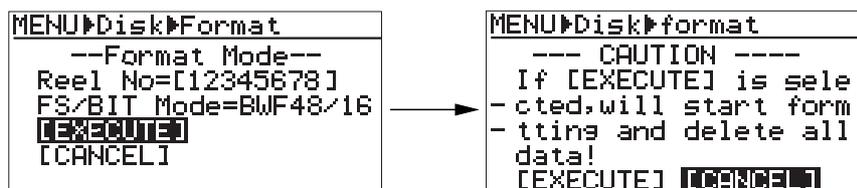


FS/BIT Modeは、[+] / [-] キーを押すことで下記モードが選択できます。

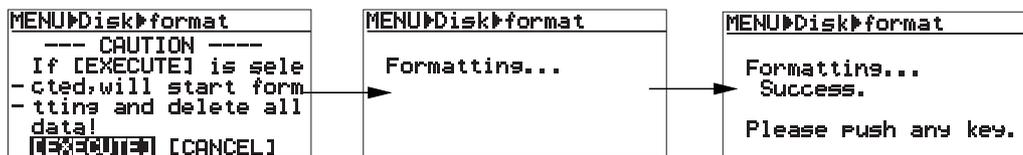
- BWF44/16 (44.1kHz/16Bit の BWF ファイル・モード)
- BWF48/16 (48kHz/16Bit の BWF ファイル・モード)
- BWF44/24 (44.1kHz/24Bit の BWF ファイル・モード)
- BWF48/24 (48kHz/24Bit の BWF ファイル・モード)
- BWF88/24 (88.2kHz/24Bit の BWF ファイル・モード)
- BWF96/24 (96kHz/24Bit の BWF ファイル・モード)
- MP3-192 (MP3-192kbps の MP3 圧縮ファイル・モード)

なお、ここで設定する FS/BIT Mode は、Setup メニューにある “ Default FS/BIT ” にリアルタイムに反映され、フォーマット後の Home 画面にも表示されます。

- 7) **[-] キーを押して“ [EXECUTE] ”を反転させて、[MENU/ENTER] キーを押します。**
 下記警告画面に変わり、“ Are you sure? ” が点滅します。



- 8) **[REWIND] キーを押して“ [EXECUTE] ”を反転させて、[MENU/ENTER] キーを押します。**
 フォーマットを開始して、終了すると “ Success. ” が点灯してカードのアクセスが停止します。

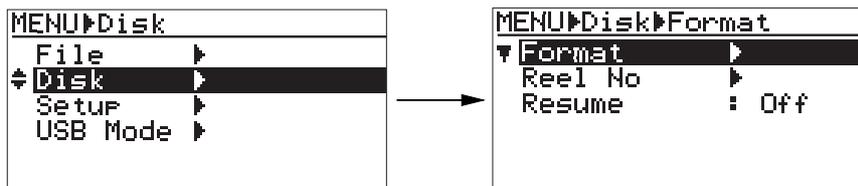


- 9) **画面の指示に従って、いずれかの操作キーを押します。**
 フォーマット後の Home 画面に変わり、“ <<No Audio Files>> ” を表示します。

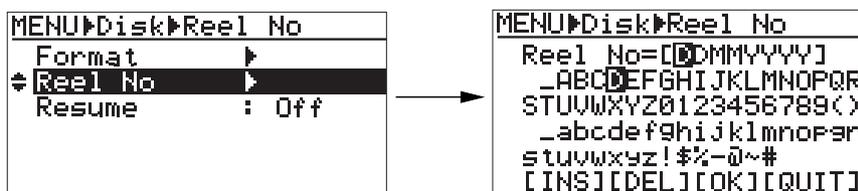
メモリー・カードの Reel Number をリネームして再登録

フォーマット時に設定した Reel Number を、エディットして再登録します。
下記操作は、本機が MENU モードに入り、メイン・メニューの選択画面 (“File >” が反転) になっていることを前提にしています。

- 1) **[+] / [-] キーで “Disk >” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
Disk メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) **[+] / [-] キーで “Reel No >” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
現在セットされているメモリー・カードの Reel Number が、エディット可能な画面に変わります。



- 3) **希望の Reel Number を入力します。**
前述 87 ページの入力方法を参照して、新たな Reel Number を入力します。
- 4) **希望の Reel Number を入力した後、[MENU/ENTER] キーを押して再登録します。**

<注意> : 不正な Reel Number を入力して登録しようとしたときは、“Illegal name!” を表示して操作は無効になります。

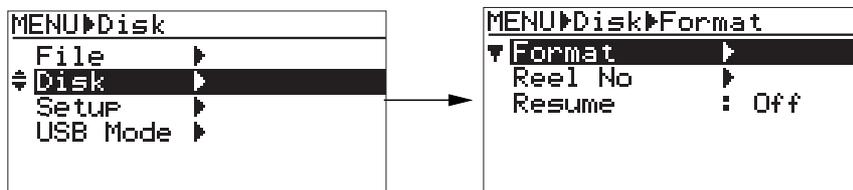
- 5) **[STOP/CANCEL] キーを押して、MENUモードから抜け出します。**

レジューム機能のON/OFF設定

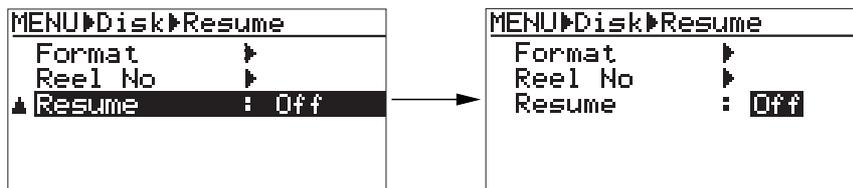
レジューム機能とは、FR-2LEの電源をOFFにする、または現在使用しているメモリー・カードを取り出す際、現在の再生ポイント位置をレジューム・ファイルに記憶させる機能です。このレジューム機能を“On”にしておくと、改めて電源を投入したり、レジューム・ファイルに記憶させたメモリー・カードをロードすると、自動的に前回停止していた位置で立ち上げることが可能になります（初期設定ではOffになっています）。

下記操作は、本機がMENUモードに入り、メイン・メニューの選択画面（“File >”が反転）になっていることを前提にしています。

- 1) **[+] / [-] キーで“Disk >”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
Diskメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) **[+] / [-] キーで“Resume >”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
現在の設定（OnまたはOff）が点滅し、エディット可能な画面に変わります。
初期設定では“Off”が点滅します。



- 3) **[+] / [-] キーで“On”または“Off”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
選択した項目（OnまたはOff）に設定され、一つ前の画面に変わります。
- 4) **[STOP/CANCEL] キーを押して、MENUモードから抜け出します。**

Setup メニュー

Setup メニューでは、FR-2LE の動作に関する下記 19 のサブ・メニューが用意されています。

1. Auto Level Control、Limiter 機能の ON/OFF 設定
2. HPF (High Pass Filter) 機能の ON/OFF 設定
3. 記録オーディオ・フォーマットの設定
4. 入力ソース (外部入力 / 内蔵マイク) の設定
5. ファンタム電源の ON/OFF 設定
6. モニターの出力モードを設定
7. 内蔵スピーカーの ON/OFF を設定
8. 記録時作成されるファイルの、ファイル・ネーム・モードを設定
9. デフォルト・ファイル・ネームを設定
10. Pre Rec (プリ・レコーディング) 機能の ON/OFF 設定
11. タイム表の表示モード設定
12. リメインの表示モードを設定
13. ファイルの最大記録容量を設定
14. 内蔵バッテリーのタイプ設定
15. エラー・トーン出力の ON/OFF 設定
16. リアルタイム・クロックの設定
17. 本機搭載 ROM のバージョン確認
18. Setup メニューのイニシャライズ
19. ソフトウェアのバージョンアップ

Auto Level Control、Limiter 機能の ON/OFF 設定

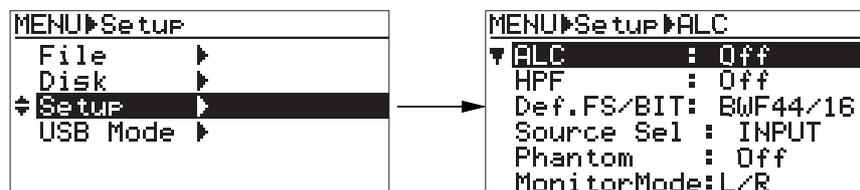
Auto Level Control 機能の ON/OFF および Limiter 機能を設定します。

下記操作は、本機が MENU モードに入りメイン・メニューの選択画面 (“File >” が反転) が表示されていることを前提にしています。

<注意> : この設定メニューは、クイックセットアップ・モードでも設定できます (55 ページ参照)。

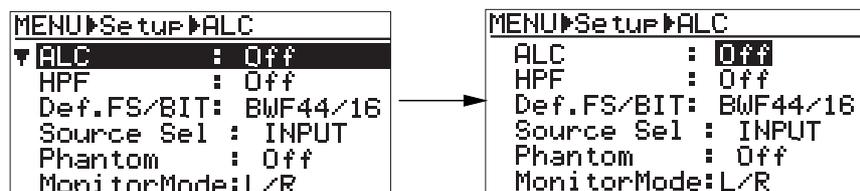
- 1) **[+] / [-] キーで “Setup >” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**

Setup メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) **“ALC : Off” が反転している状態で、[MENU/ENTER] キーを押します。**

現在の設定が点滅し、任意に設定が可能になります (初期設定では “Off” が点滅します)。



初期設定の “ Off ” 以外に、下記項目が選択できます。

Off (初期設定)	ALC (Auto Level Control) / Limiter とともに機能しません。
On	ALC (Auto Level Control) が機能します。
Limit	ATAACK 最小、Release 最大に設定されたリミッターとして機能します。

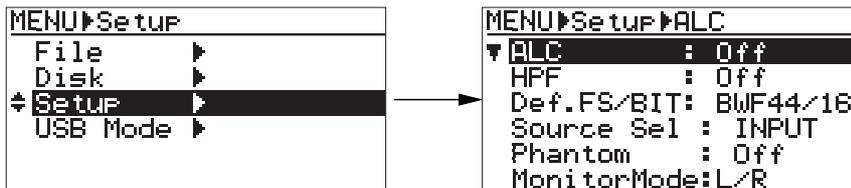
- 3) **[+] / [-] キーで希望の設定項目を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
 選択した項目に設定され、一つ前の画面に戻ります。
- 4) **[STOP/CANCEL] キーを押して、MENUモードから抜け出します。**

HPF (High Pass Filter) 機能の ON/OFF 設定

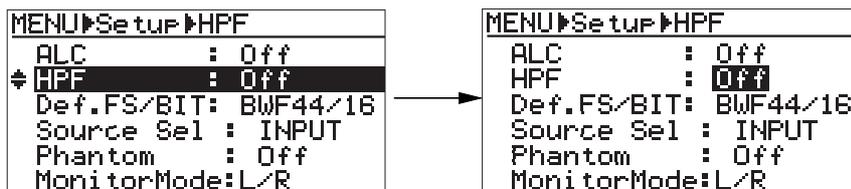
ハイ・パス・フィルターの ON/OFF を設定します。
 下記操作は、本機が MENUモードに入りメイン・メニューの選択画面 (“ File > ” が反転) が表示されていることを前提にしています。

<注意> : この設定メニューは、クイックセットアップ・モードでも設定できます (55 ページ参照)

- 1) **[+] / [-] キーで “ Setup ” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
 Setupメニューのサブ・メニューを選択する画面に戻ります。



- 2) **[+] / [-] キーで “ HPF : Off ” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
 現在の設定が点滅し、任意に設定が可能になります (初期設定では Off が点滅します)



ここでは、初期設定の “ Off ” または “ On ” が選択できます。

Off (初期設定)	HPF は機能しません。
On	Fc: 100Hz -12dB/oct. の HPF が機能します。

- 3) **[+] / [-] キーで “ On ” または “ Off ” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
 選択した項目に設定され、一つ前の画面に戻ります。
- 4) **[STOP/CANCEL] キーを押して、MENUモードから抜け出します。**

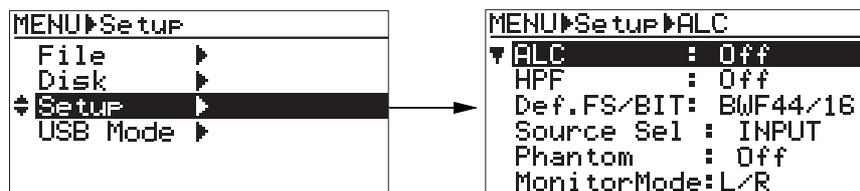
デフォルト記録フォーマットの設定

フォーマット時のデフォルト記録フォーマットを設定します。
下記操作は、本機がMENUモードに入りメイン・メニューの選択画面(“File >”が反転)が表示されていることを前提にしています。

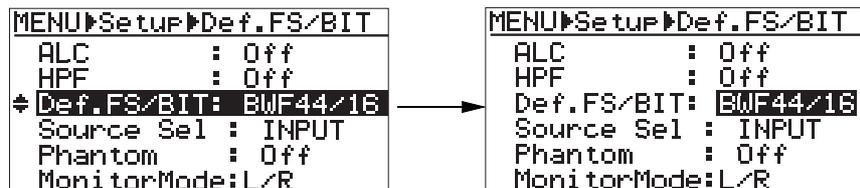
<注意> : ここで設定するデフォルト記録フォーマットは、“Disk”メニューの“Format”における設定画面上に表示されますが、設定画面上で任意に変更することが可能です。詳細は92ページを参照してください。

- 1) [+] / [-] キーで“Setup >”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。

Setupメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) [+] / [-] キーで“Def. FS/BIT: ***”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。
フォーマット時の記録フォーマット・タイプが点滅し、任意に設定が可能になります(下記例は、フォーマット時の記録フォーマット・タイプがBWF44/16であることを示しています)。



記録フォーマット・タイプは、フォーマット時と同様以下のタイプから選択できます。

BWF44/16	44.1kHz/16bitのBWFフォーマット
BWF48/16	48kHz/16bitのBWFフォーマット
BWF44/24	44.1kHz/24bitのBWFフォーマット
BWF48/24	48kHz/24bitのBWFフォーマット
BWF88/24	88.2kHz/24bitのBWFフォーマット
BWF96/24	96kHz/24bitのBWFフォーマット
MP3-192	MP3-192kbpsの圧縮フォーマット

* MP3 (MPEG Layer-3): MPEG Layer-3 オーディオ・レコーディング技術は、Fraunhofer IIS および Thomson から実施許諾されています。

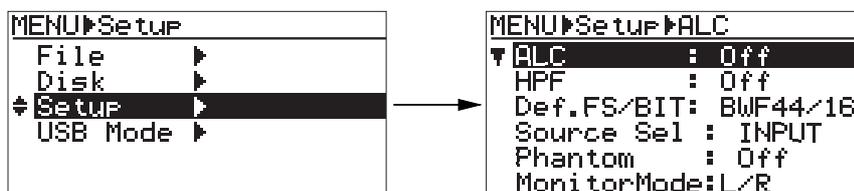
- 3) [+] / [-] キーで希望の記録フォーマットを選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。
選択した項目に設定され、一つ前の画面に変わります。
- 4) [STOP/CANCEL] キーを押して、MENUモードから抜け出します。

入力ソースの設定

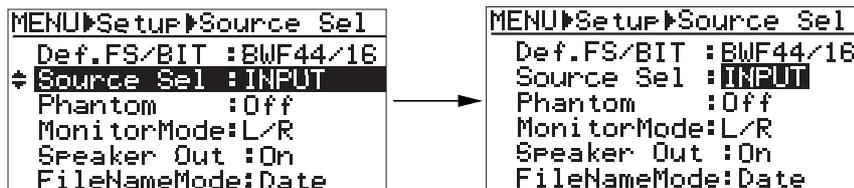
記録ソースを内蔵マイク入力にするか、外部入力ソースにするかを設定します。
下記操作は、本機がMENUモードに入りメイン・メニューの選択画面(“File >”が反転)が表示されていることを前提にしています。

<注意> : この設定メニューは、クイックセットアップ・モードでも設定できます(55ページ参照)。

- 1) **[+] / [-] キーで“Setup”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
Setupメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) **[+] / [-] キーで“Source Sel”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
現在の設定が点滅し、任意に設定が可能になります(初期設定ではINPUTが点滅)。



ここでは、初期設定の“INPUT”以外に下記入力ソースが選択できます。

INPUT (初期設定)	[ANALOG IN] 端子に入力する音源(外部マイクまたはライン)が優先となり、内蔵マイクは機能しません。
I. MIC H	高感度(32dB)での内蔵マイクが優先となり、[ANALOG IN]からの入力は無効になります。
I. MIC L	低感度(16dB)での内蔵マイクが優先となり、[ANALOG IN]からの入力は無効になります。

<注意> : 入力ソースを内蔵マイクに設定したときは、本体トリムや入力つまみは機能しません。

- 3) **[+] / [-] キーで希望の入力ソースを選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
選択した項目に設定され、一つ前の画面に戻ります。
- 4) **[STOP/CANCEL] キーを押して、MENUモードから抜け出します。**

ファンタム電源のON/OFF 設定

外部入力ソースにコンデンサ・マイクを使用する場合、ファンタム電源を供給するかしないかを設定します。

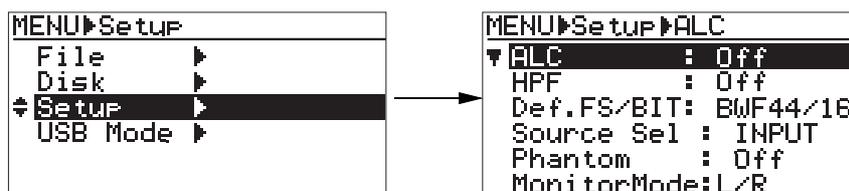
下記操作は、本機がMENUモードに入りメイン・メニューの選択画面(“File >”が反転)が表示されていることを前提にしています。

<注意> : この設定メニューは、クイックセットアップ・モードでも設定できます(55ページ参照)。

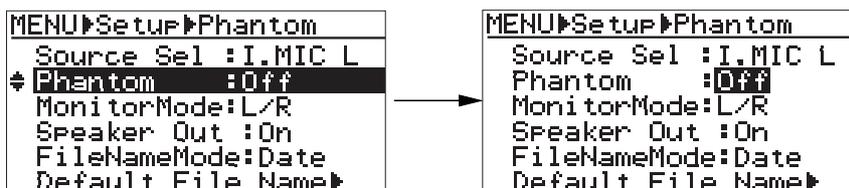
<ファンタム電源使用時のご注意>

ファンタム電源は、[ANALOG IN] のXLRコネクタにのみ供給されます。
 コンデンサ・マイクを [ANALOG INPUT] のXLRコネクタに接続するときは、ファンタム電源が使える機種であることを確認してください。
 ファンタム電源は、[ANALOG INPUT] のXLRコネクタにマイクを接続してから供給してください。
 ファンタム電源のOn/Off、およびマイクを抜き差しする場合は、事前に本機入力つまみや [MONITOR] つまみを最小に絞ってください。

- 1) **[+] / [-] キーで“Setup >”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
 Setupメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) **[+] / [-] キーで“Phantom >”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
 現在の設定が点滅し、任意に設定が可能になります(初期設定ではOffが点滅)。



ここでは、初期設定の“Off”以外に“On”が選択できます。

Off (初期設定)	ファンタム電源は供給されません。
On	[ANALOG IN] のXLRコネクタにファンタム電源が供給されます。

<注意> : ファンタム電源は、[ANALOG INPUT] のL/R同時にON/OFFします。

- 3) **[+] / [-] キーで“On”または“Off”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
 選択した項目に設定され、一つ前の画面に変わります。
- 4) **[STOP/CANCEL] キーを押して、MENUモードから抜け出します。**

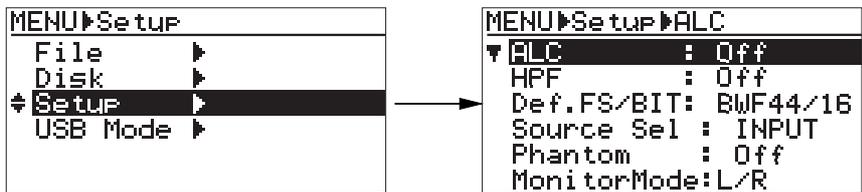
モニター出力モード設定

[MONITOR OUT]、[PHONES] および内蔵スピーカからの出力モード(ステレオまたはモノ)を設定します。

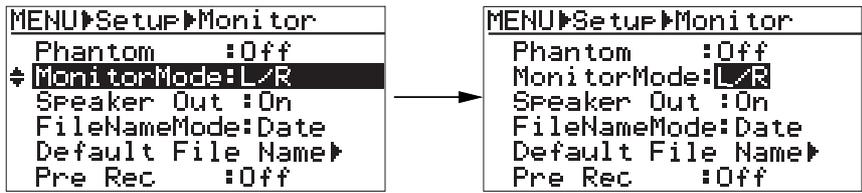
下記操作は、本機がMENUモードに入りメイン・メニューの選択画面(“File >”が反転)が表示されていることを前提にしています。

<注意> : [PHONES] ジャックにヘッドホンを接続した場合、内蔵スピーカは遮断されます。

- 1) **[+] / [-] キーで“ Setup > ”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
 Setupメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) **[+] / [-] キーで“ Monitor Mode: ** ”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
 現在の設定が点滅し、任意に設定が可能になります(初期設定では“ L/R ”が点滅)



ここでは、初期設定の“ L/R ”以外に“ MONO ”が選択できます。

L/R (初期設定)	モニター音がステレオ(L/R)で出力されます。
MONO	モニター音がモノラルで出力されます。

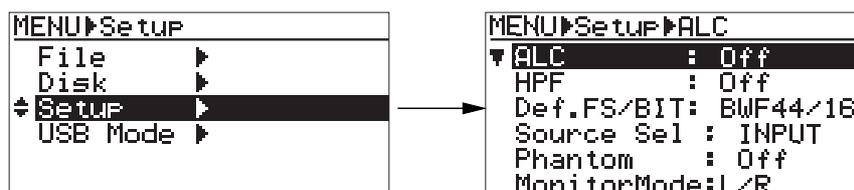
- 3) **[+] / [-] キーで希望の出力モードを選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
 選択した出力モードに設定され、一つ前の画面に戻ります。
- 4) **[STOP/CANCEL] キーを押して、MENUモードから抜け出します。**

内蔵スピーカのON/OFF設定

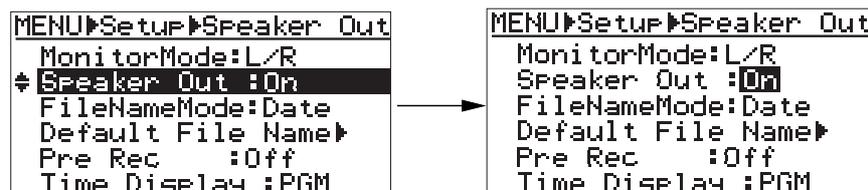
再生時内蔵スピーカからモニター音を出力するか、しないかを設定します。初期設定はONに設定されていて、再生時にモニター音が内蔵スピーカから出力するようになっています。

下記操作は、本機がMENUモードに入りメイン・メニューの選択画面(“File >”が反転)が表示されていることを前提にしています。

- 1) [+] / [-] キーで“Setup >”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。
Setupメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) [+] / [-] キーで“Speaker Out”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。
現在の設定が点滅し、任意に設定が可能になります(初期設定では“On”が点滅)。



ここでは、初期設定の“On”または“Off”が選択できます。

On (初期設定)	再生時のみ、内蔵スピーカからモニター音を出力します。
Off	内蔵スピーカからモニター音を出力しません。

<注意> : 設定が“On”になっていても、[PHONES] ジャックにヘッドホンを接続すると内蔵スピーカからの出力は遮断されます。なお、記録スタンバイおよび記録時も内蔵スピーカは遮断されます。

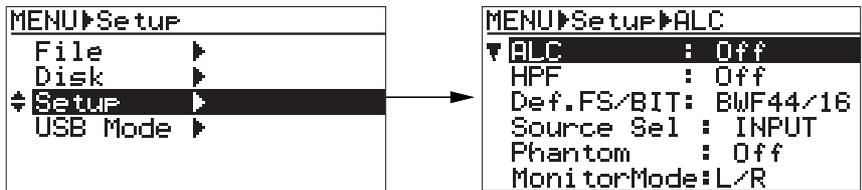
- 3) [+] / [-] キーで“On”または“Off”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。
選択したモードに設定され、一つ前の画面に変わります。
- 4) [STOP/CANCEL] キーを押して、MENUモードから抜け出します。

記録時作成されるファイルの、ファイル・ネーム・モードを設定

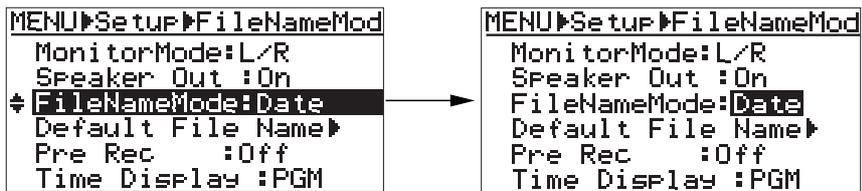
記録時新規に作成されるオーディオ・ファイルのファイル・ネームを日付けにするか、Scene name + Take No.にするか、あるいは Reel No. + File No.にするかの、ファイル・ネーム・モードを設定します。

下記操作は、本機がMENUモードに入りメイン・メニューの選択画面(“File >”が反転)が表示されていることを前提にしています。

- 1) **[+] / [-] キーで“Setup >”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
Setupメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) **[+] / [-] キーで“FileNameMode: **”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
現在の設定が点滅し、任意に設定が可能になります(初期設定では“Date”が点滅)



ここでは、初期設定の“Date”以外に“Take”または“Reel”が選択できます。

Date (初期設定)	リアルタイム・クロックのタイム・データを基にしたファイル・ネームが記録されます。例としてBWFファイルでは“B12h30m25s25jan2007y.wav”、MP3ファイルでは“B12h30m25s25jan2007y.mp3”となり、15文字まで表示されます。
Take	後述の“DefaultSceneName”で設定したScene Name + Take No. がファイル・ネームとして記録されます。例えば、Scene Nameが“Original Name”でTake Noが“001”に設定されている場合、BWFファイルのファイル・ネームは“Original Name_001.wav”、MP3ファイルのファイル・ネームは“Original Name_001.mp3”が記録されます。
Reel	コンパクトフラッシュ・カードのボリューム・ラベル(Reel Number) + File No. がファイル・ネームとして記録されます。例えば、Reel Numberが“*****”でFile Noが“001”の場合、BWFファイルのファイル・ネームは“*****_001.wav”、MP3ファイルのファイル・ネームは“*****_001.mp3”が記録されます。

- 3) **[+] / [-] キーでファイルネーム・モードを選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
“Date”または“Reel”に設定した場合は一つ前の画面に戻りますので、つぎの操作4)でMENUモードから抜け出します。また、“Take”に設定した場合は自動的に“Default File Name”を設定する画面へ進みますので、次ページ「デフォルト・ファイル・ネームの設定」を参照して、任意のシーン・ネームとTake Numberを設定します。
- 4) **[STOP/CANCEL] キーを押して、MENUモードから抜け出します。**

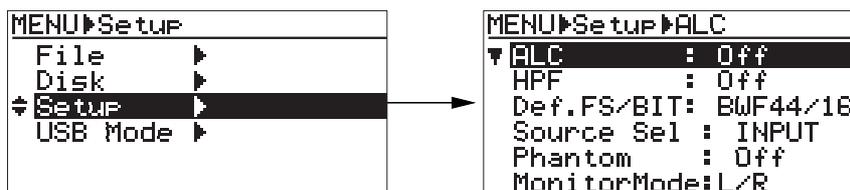
デフォルト・ファイル・ネームを設定

ファイル・ネームに使用する Scene Name と Take No. を設定します。
ここで設定した Scene Name+Take No. は、前述のファイルネーム・モードを“Take”に設定することで反映されます。

下記操作は、本機が MENU モードに入りメイン・メニューの選択画面(“File >”が反転)が表示されていることを前提にしています。

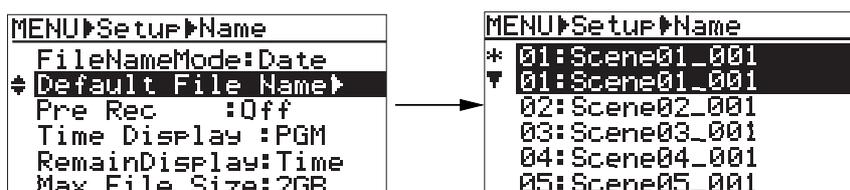
- 1) **[+]/[-]** キーで“Setup”を選択して、**[MENU/ENTER]** キーを押します。

Setup メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



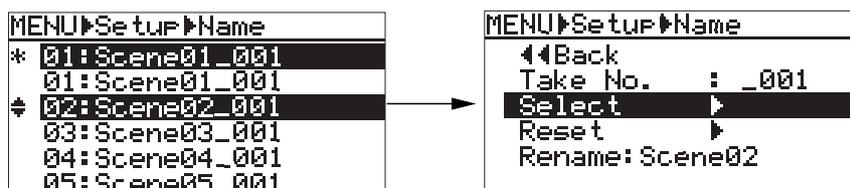
- 2) **[+]/[-]** キーで“Default File Name”を選択して、**[MENU/ENTER]** キーを押します。

デフォルト・ファイル・ネームを選択する画面に変わります。一番上にある“* 01: Scene_001”は、現在選択されているデフォルトの Scene Name + Take Number を示しています。



- 3) **[+]/[-]** キーで希望のファイル・ネームを選択して、**[MENU/ENTER]** キーを押します。

ここでは例として“02: Scene02_001”を選択します。



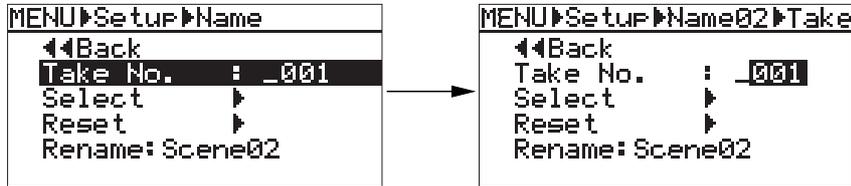
上記画面にある各パラメータは、以下の用途に使用します。

Take No.	希望の Take No を設定します (001 ~ 999)
Select	選択した Scene Name+Take No をデフォルト・ファイル・ネームに設定します。
Reset	選択した Scene Name+Take No をデフォルト (Scene01-001 など) に設定します。
Rename	新たな Scene Name を設定し直します。

次ページからの設定例は、“02: Scene02_001”を選択して、任意の Scene Name と Take No を設定して、その Scene Name+Take No を有効にするまでの手順を記載しています。

Take No を設定

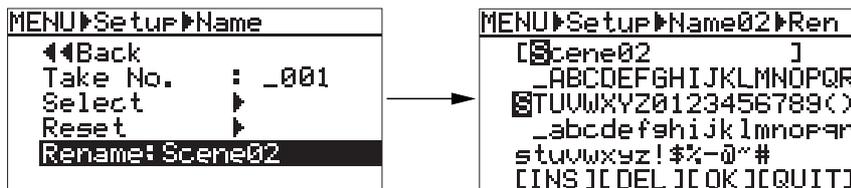
- 1) **[+] / [-] キーで“ Take No.: _001 ”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
 現在設定されている Take No. が点滅します (初期設定では “ 001 ” が点滅します)



- 2) **[+] / [-] キーで希望のナンバーを選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
 Take No. は 001 ~ 999 から任意に選択でき、[MENU/ENTER] キーを押すとナンバーが確定して一つ前の画面に戻ります (ここでは例として、初期値の 001 のままつぎの操作を実行します)

オリジナルの Scene Name を設定

- 1) **[+] / [-] キーで“ Rename > ”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
 選択した Scene Name (Scene02) が編集可能な画面に変わります。



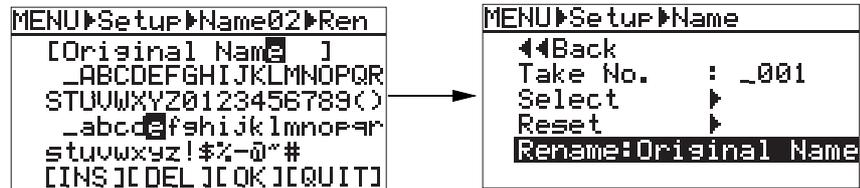
[] 内にあるカーソルは「SceneNameカーソル」と呼び、文字 / 記号候補にあるカーソルを「文字候補カーソル」と呼んでいます。SceneNameカーソルは [REWIND] キー / [F FWD] キーで移動でき、文字候補カーソルは [+] / [-] キーで移動できます。

- 2) **希望のシーン・ネームを入力します。**
 下記操作を参照して、新たなシーン・ネームを入力します。最大 13 文字まで入力可能です。

SceneNameカーソルの移動	[REWIND] キー / [F FWD] キーを押して移動します。
文字候補カーソルの移動	[+] キー / [-] キーを押して移動します。
SceneNameカーソル位置の文字を変更	[+] / [-] キーで選択した文字 / 記号に変更できます。
スペースを作る	スペースは SceneNameカーソルの後ろに作ることができます。希望の位置に SceneNameカーソルを移動した後、文字候補カーソルを一番下にある “ [INS] ” に移動して [MENU/ENTER] キーを押します。
SceneNameカーソル位置の前に文字を挿入	希望の位置に SceneNameカーソルを移動した後、文字候補カーソルを一番下にある “ [INS] ” に移動して [MENU/ENTER] キーを押します。その後、文字候補カーソルから文字を選択して [MENU/ENTER] キーを押します。
SceneNameカーソル位置の文字を削除	削除したい文字に SceneNameカーソルを移動した後、文字候補カーソルを “ [DEL] ” に移動して [MENU/ENTER] キーを押します。

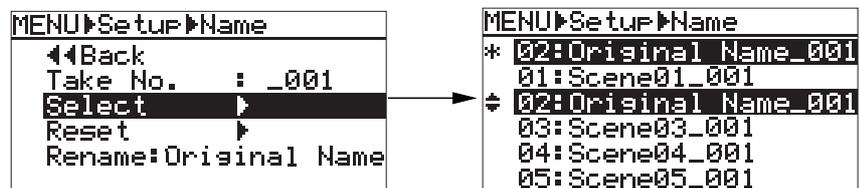
3) 入力後、[MENU/ENTER] キーを押します。

リネーム処理が終了、1つ前の画面に戻ります（例として“Original Name”を入力します）。

**編集したファイル・ネーム (Scene Name+Take Number) を使用可能にする**

1) [+]/[-] キーで“Select >”を選択して[MENU/ENTER]キーを押します。

編集した Scene Name + Take No がデフォルト・ファイル・ネームに設定され、下記例の画面に戻ります（ここでは例として“Original Name_001”が設定されます）。



2) [STOP/CANCEL] キーを押して、MENUモードから抜け出します。

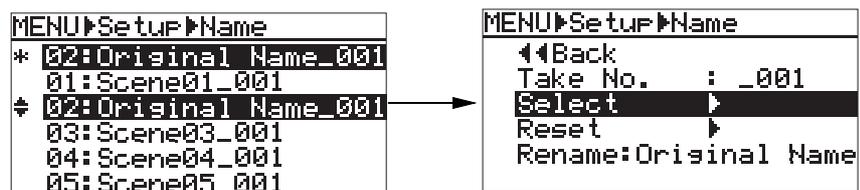
上記のように、シーン・ネームを“Original Name”、Take No.を“001”に設定したファイル・ネームを、デフォルト・ファイル・ネームに選択して記録すると、最初に記録したファイルのファイル・ネームは“Original Name_001”となります。

また、この状態で再度記録を繰り返すと、つぎのファイル・ネームは“Original Name_002”となり、記録を繰り返すごとに Take No. のみがカウント・アップして登録されます。

デフォルト・ファイル・ネームを初期設定値に戻すには

1) 初期設定にしたいファイル・ネームを選択して[MENU/ENTER]キーを押します。

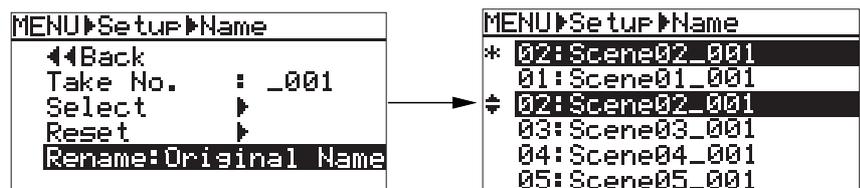
例として、前述の操作で設定した“Original Name_001”を選択します。



2) [+]/[-] キーで“Reset >”を選択して[MENU/ENTER]キーを押します。

選択したファイル・ネームが初期設定のネームにリセットされます。

“Original Name_001”をリセットすると、“Scene02_001”に設定されます。



3) [STOP/CANCEL] キーを押して、MENUモードから抜け出します。

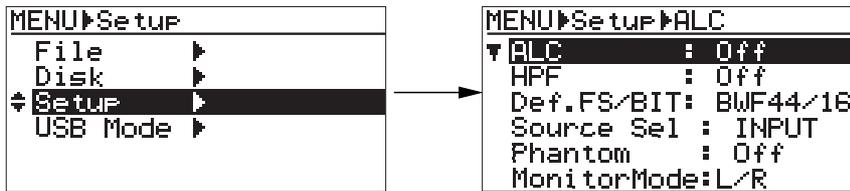
Pre Rec モードの ON/OFF を設定

Pre Rec モードの ON/OFF を設定します (初期設定では Off に設定されています)。
 Pre Rec モードとは、バッファに貯えられたオーディオ・データ (約 2 秒) を含めて記録する機能です。そのため、Pre Rec モードを ON にして記録することで、記録開始時の記録漏れを防止することができます。

下記操作は、本機が MENU モードに入りメイン・メニューの選択画面 (“ File > ” が反転) が表示されていることを前提にしています。

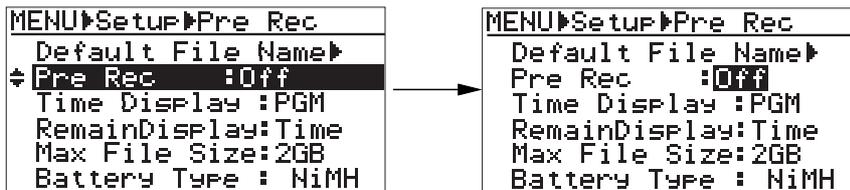
- 1) **[+] / [-] キーで “ Setup ” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**

Setup メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) **[+] / [-] キーで “ Pre Rec: ** ” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**

現在設定されている、Pre Rec モードが点滅します (初期設定では “ Off ” が点滅します)



On	記録を開始すると、バッファに貯えられたオーディオ・データ (約 2 秒) も含めて記録していきます。
Off (初期設定)	記録を開始した時点からのオーディオ・データを記録していきます。

- 3) **[+] / [-] キーで “ On ” または “ Off ” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**

選択したモードに設定され、一つ前の画面に戻ります。

- 4) **[STOP/CANCEL] キーを押して、MENU モードから抜け出します。**

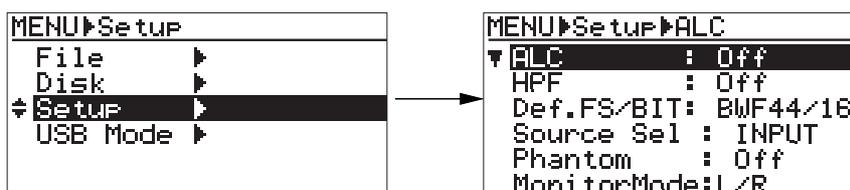
タイム表示の表示モードを設定

ディスプレイのタイム表示を設定します。時間表示は、ABS、プログラム・タイム、またはTIME STAMP (24H) から選択できます (初期設定はABS表示になっています)。

下記操作は、本機がMENUモードに入りメイン・メニューの選択画面 (“File >” が反転) が表示されていることを前提にしています。

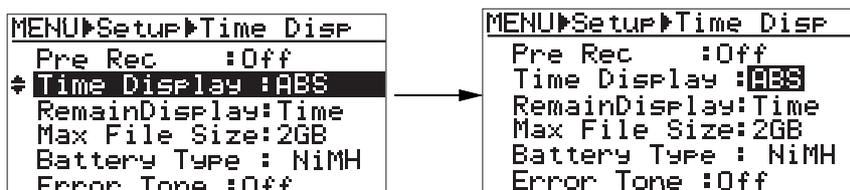
- 1) **[+] / [-] キーで “Setup >” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**

Setupメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) **[+] / [-] キーで “Time Display: **” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**

現在設定されている表示モードが点滅します (初期設定では “ABS” が点滅します)



表示モードは、初期設定の “ABS” 以外に “PGM” または “24H” が選択できます。

ABS (初期設定)	一番最初にエントリーされているオーディオ・ファイルの先頭を0としてカウントアップしていき、エントリーされている全てのオーディオ・ファイルを通して、連続してカウントします。
PGM	オーディオ・ファイルごとに0からカウント・アップし、次のファイル先頭から0に戻ってカウント・アップします。
24H	内蔵RTCを記録するBWFのTime Stampの値を基準にして、オーディオ・ファイル単位で表示します。

- 3) **[+] / [-] キーで希望の表示モードを選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**

選択した表示モードが確定して、一つ前の画面に変わります。

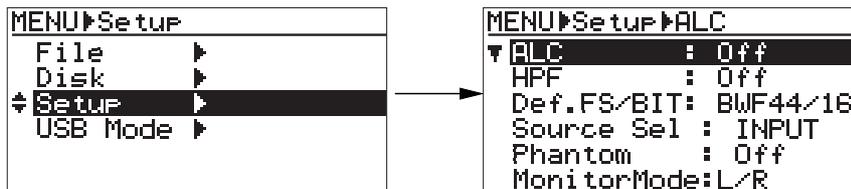
- 4) **[STOP/CANCEL] キーを押して、MENUモードから抜け出します。**

リメインの表示モードを設定

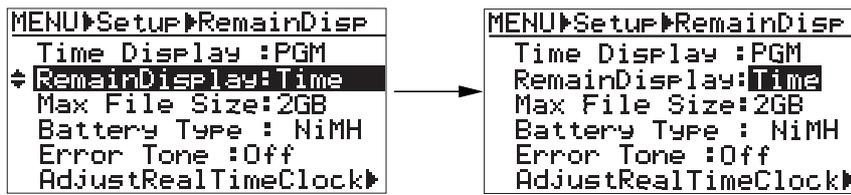
記録時(または再生 / 停止中) ディスプレイに表示されるメモリー・カードの残量(リメイン)を示す表示モードを設定します。

下記操作は、本機がMENUモードに入り、メイン・メニューの選択画面(“File >”が反転)が表示されていることを前提にしています。

- 1) **[+] / [-] キーで“ Setup ”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
Setupメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) **[+] / [-] キーで“ RemainDisplay ”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
現在設定されている、表示モードが点滅します(初期設定ではTimeが点滅します)



表示モードは、初期設定の“Time”の他に“MByte”が選択できます。

MByte	メモリー・カードの残量を、MByteで表示します。
Time (初期設定)	メモリー・カードの残量を、時間で表示します。

- 3) **[+] / [-] キーで希望の表示モードを選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
選択後 [MENU/ENTER] キーを押すと、表示モードが確定して一つ前の画面に戻ります。
- 4) **[STOP/CANCEL] キーを押して、MENUモードから抜け出します。**

<注意> : リメイン表示の詳細については、前述「第3章 各部の名称と機能」の45ページを参照してください。

設定するリメインの表示モードによって、ディスプレイには下記例のように表示されます。

<表示モード = Time >

<表示モード = MByte >

ファイルの最大記録容量を設定

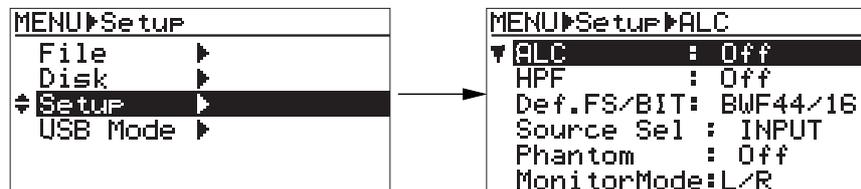
1つのオーディオ・ファイルに記録可能な最大容量(2GBまたは4GB)を設定します(初期設定では2GBになっています)。

下記操作は、本機がMENUモードに入りメイン・メニューの選択画面(“File >”が反転)が表示されていることを前提にしています。

<注意> : 設定されている最大記録容量まで記録すると、自動的に記録を終了して停止します。
 なお、最大記録容量以下のメモリー・カードを使用している場合は、設定に関わらずカードの残容量が無くなった時点で記録を終了します。

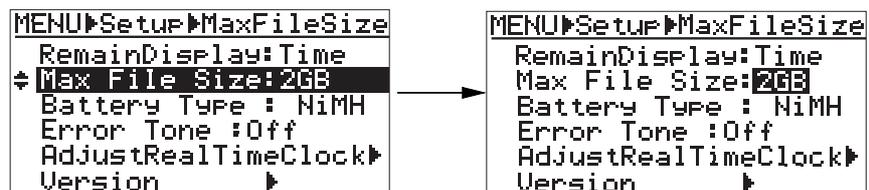
- 1) [+] / [-] キーで “ Setup > ” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。

Setupメニューのサブ・メニューあを選択する画面に変わります。



- 2) [+] / [-] キーで “ Max File Size ” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。

現在設定されている、ファイル・サイズが点滅します(初期設定では“2GB”が点滅します)



ファイル・サイズは、初期設定の“2GB”の他に“4GB”が選択できます。

2GB (初期設定)	ファイル・サイズを最大2GBに設定します。
4GB	ファイル・サイズを最大4GBに設定します。

- 3) [+] / [-] キーで希望のファイル・サイズを選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。

選択したファイル・サイズが確定して、一つ前の画面に変わります。

- 4) [STOP/CANCEL] キーを押して、MENUモードから抜け出します。

本機を駆動するためのバッテリー・タイプを設定

本機をバッテリー(ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、またはタミヤバッテリー)で駆動する場合、使用するバッテリーのタイプを設定します。

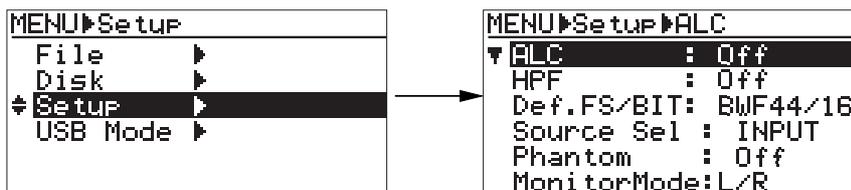
下記操作は、本機がMENUモードに入り、メイン・メニューの選択画面(“File >”が反転)が表示されていることを前提にしています。

<注意> : バッテリーで本機を駆動するときは、必ずバッテリー・タイプを設定してからご使用ください。使用する電池と設定が異なっていると、電源電圧の違いなどによって、エラー・トーンの出機能などが正常に機能しなくなります。そのため、ご使用前には、必ずバッテリー・タイプを合わせるようにしてください。

<注意> : タミヤバッテリーを使用したときは、自動的に“Battery Type”が“RC7.2V”に設定されるようになっています。そのため、タミヤバッテリーを使った後Ni-CdやNi-MHなどの単三電池を使用するときは、必ず手動で“Battery Type”を設定し直してご使用ください。なお、“Battery Type”が“RC7.2V”に設定されたまま単三電池を使用すると、アラーム音を発して警告します。これはバッテリーのダメージを最小限に抑えるための措置で、“Battery Type”を正しく設定することでアラーム音は出なくなります。

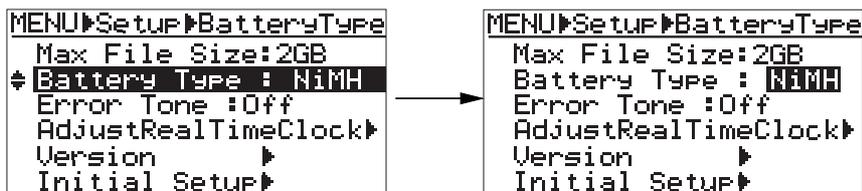
1) [+] / [-] キーで“Setup >”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。

Setupメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



2) [+] / [-] キーで“Battery Type: **”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。

現在設定されている、バッテリー・タイプが点滅します(初期設定では“NiMH”が点滅します)



バッテリー・タイプは、初期設定の“NiMH”の他に“NiCd”、“Alkali”または“RC7.2V”が選択できます。

NiMH (初期設定)	ニッケル水素電池を使うとき選択します。
NiCd	ニッカド電池を使うとき選択します。
Alkali	アルカリ電池を使うとき選択します。
RC7.2V	タミヤバッテリーを使うとき選択します。 タミヤバッテリーを使用したときは、自動的に“Battery Type”が“RC7.2V”に設定されるようになっています。

3) [+] / [-] キーで希望のバッテリー・タイプを選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。

選択したバッテリー・タイプが確定して、一つ前の画面に変わります。

4) [STOP/CANCEL] キーを押して、MENUモードから抜け出します。

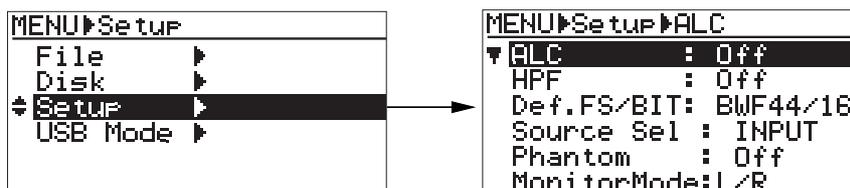
エラー・トーン出力の設定 / 解除

バッテリー電圧が許容以下になったとき、およびメモリー・カードの記録可能な残時間がある一定時間になったとき、内蔵スピーカ(またはヘッドホン)からエラー・トーンを出力するか、しないかを設定します。

下記操作は、本機がMENUモードに入りメイン・メニューの選択画面(“File >”が反転)が表示されていることを前提にしています。

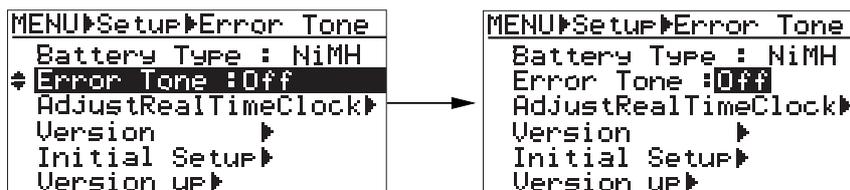
- 1) [+] / [-] キーで“Setup >”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。

Setupメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) [+] / [-] キーで“Error Tone: **”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。

現在設定されているエラー・トーンの出力量が点滅します(初期設定では“Off”が点滅します)



On	エラー・トーンが出力できます。
Off (初期設定)	エラー・トーンは出力しません。

- 3) [+] / [-] キーで“On”または“Off”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。

選択した出力モードが設定され、一つ前の画面に戻ります。

- 4) [STOP/CANCEL] キーを押して、MENUモードから抜け出します。

エラー・トーンは、本機が下記状態に達した時点で出力します。

出力する環境	エラー・トーンの種類
現在本機を駆動している電池が規定電圧以下に達したとき、エラー・トーンを出力します。	— — — —
メモリー・カードのリメインが1分以下になったとき、RECおよびREC STANDBY時にエラー・トーンを出力します。	— — — —

リアルタイム・クロックの設定

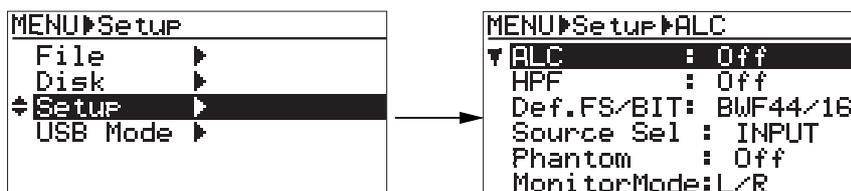
本機内蔵の「リアルタイム・クロック」を設定します。

タイム・データは工場出荷時の日時で動作していますので、正しいタイム・データに設定し直すことができます。タイム・データは、オーディオ・ファイル作成時のファイル・ネーム / ファイル作成日時や、BWFファイルのTIME STAMPに利用されます。

下記操作は、本機がMENUモードに入りメイン・メニューの選択画面(“File >”が反転)が表示されていることを前提にしています。

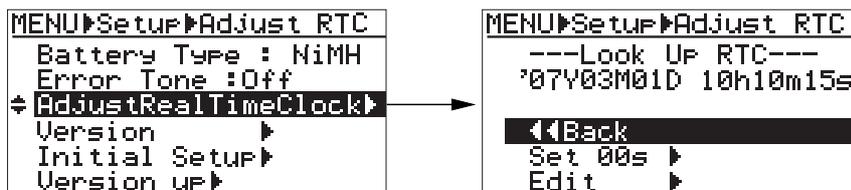
- 1) **[+] / [-]** キーで“Setup >”を選択して、**[MENU/ENTER]** キーを押します。

Setupメニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) **[+] / [-]** キーで“AdjustRealTimeClock >”を選択して、**[MENU/ENTER]** キーを押します。

現在設定されているタイム・データで、年月日 / 時間がリアルタイムに刻まれる画面に変わります。

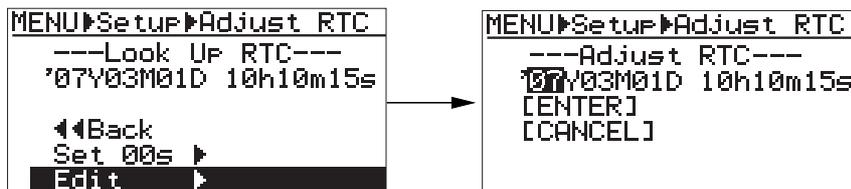


リアルタイムに時刻を刻んでいる状態で、パラメータ“Set 00s >”を選択して **[MENU/ENTER]** キーを押すと、リアルタイム・クロックの秒の値を“00”にリセットできます(29秒以下では秒のみ00にリセットし、30秒以上では分を繰り上げて秒を00にリセットします)

- 3) **[+] / [-]** キーで一番下にある“Edit >”を選択して、**[MENU/ENTER]** キーを押します。

現在表示されているタイム・データがホールドされ、エディット可能になります。

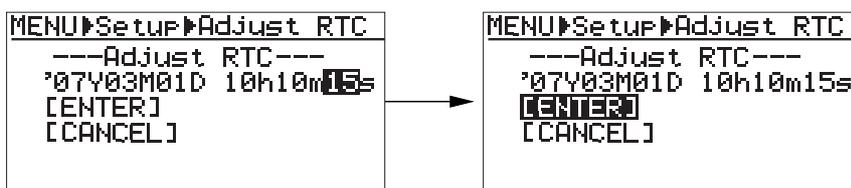
エディットする桁は **[REWIND]** キー / **[F FWD]** キーで移動します。



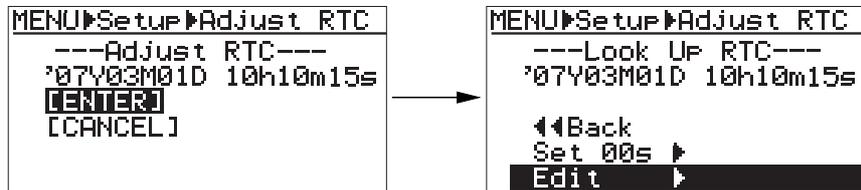
- 4) 希望のタイム・データを入力します。

[+] / [-] キーで数値を入力して **[MENU/ENTER]** キーを押すと、カーソルが自動的に次の値に移動します。同じ要領で希望のタイムデータを設定していきます。

一番右端の秒の値を入力して **[MENU/ENTER]** キーを押すと、カーソルが“[ENTER]”に移動します。カーソルが秒以外の桁にあるときは、**[MENU/ENTER]** キーを押していくか、**[F FWD]** キーを押していくと、カーソルを“[ENTER]”に移動できます。



- 5) “[ENTER]”が反転している状態で、[MENU/ENTER] キーを押します。
 設定したタイム・データが確定し、一つ前の画面に戻ります。
 時報に合わせて [MENU/ENTER] キーを押すことで、正確な時間が設定できます。



- 6) [STOP/CANCEL] キーを押して、MENU モードから抜け出します。

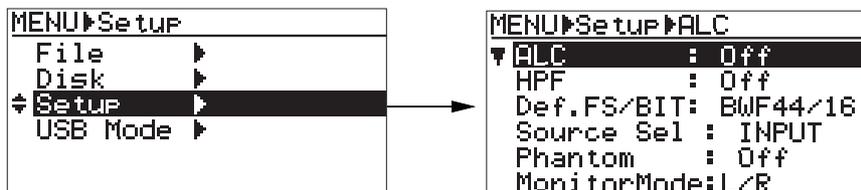
本体 ROM のバージョン確認

本機搭載の ROM バージョンを確認します。

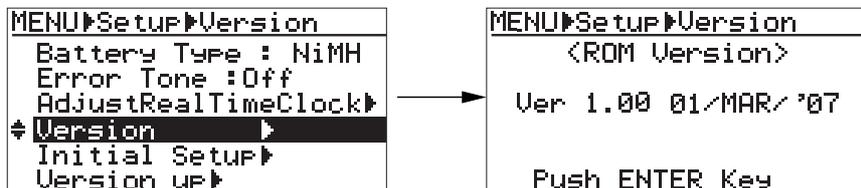
下記操作は、本機が MENU モードに入りメイン・メニューの選択画面 (“ File > ”が反転) が表示されていることを前提にしています。

<注意> :本機ソフトウェアは、性能改善などにより予告無くバージョンアップされることがあります。最新のバージョンについては、当社のホームページ (<http://www.fostex.jp>) で確認するか、当社サービス部門へお問い合わせください。

- 1) [+] / [-] キーで “ Setup > ” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。
 Setup メニューのサブ・メニューを選択する画面に変わります。



- 2) [+] / [-] キーで “ Version > ” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。
 現在搭載されている ROM のバージョン / 日付が表示されます。



- 3) バージョン確認後、[MENU/ENTER] キーを押します。
 一つ前の画面に戻ります。
- 4) [STOP/CANCEL] キーを押して、MENU モードから抜け出します。

Setupメニューのイニシャライズ

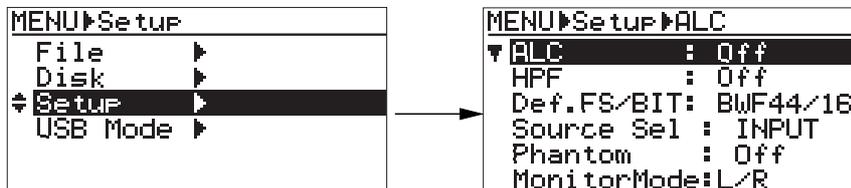
Setupメニューの全ての設定を、工場出荷時の初期設定に戻します。

下記操作は、本機がMENUモードに入りメイン・メニューの選択画面(“File >”が反転)が表示されていることを前提にしています。

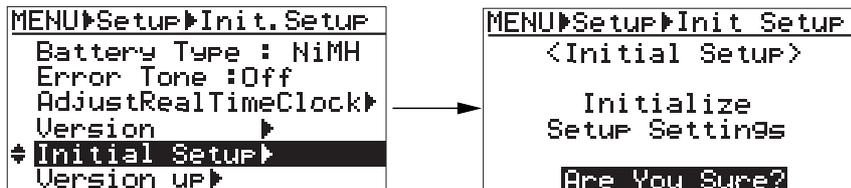
サブ・メニュー	初期設定値	
ALC	Off	
HPF	Off	
Def. FS/BIT	BWF 44/16	
Source Sel	INPUT	
Phantom	Off	
File Name Mode	Date	
Default File Name	Scene Name	Scene01 - Scene20
	Take Number	001
Error Tone	Off	
Pre Rec	Off	
Remain Display	Time	
Battery Type	NiMH	
Max File Size	2GB	
Time Display	ABS	
Monitor Mode	L/R	
Speaker Out	On	

* 上記以外に、コントラスト値も初期値に設定されます。

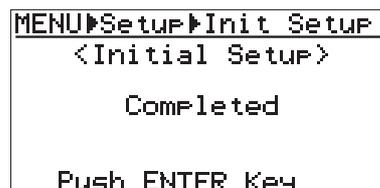
- 1) **[+] / [-] キーで“ Setup > ”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
実行メニューを選択する画面に変わります。



- 2) **[+] / [-] キーで“ Initial Setup > ”を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。**
イニシャライズの実行を確認する画面に変わり、“Are you sure?” が点滅します。



- 3) **イニシャライズを実行するには [MENU/ENTER] キーを押します。**
イニシャライズが実行され、終了と同時に“Completed!” が点灯します。



- 4) **[MENU/ENTER] キーを押した後、[STOP/CANCEL] キーを押してMENUモードから抜け出します。**

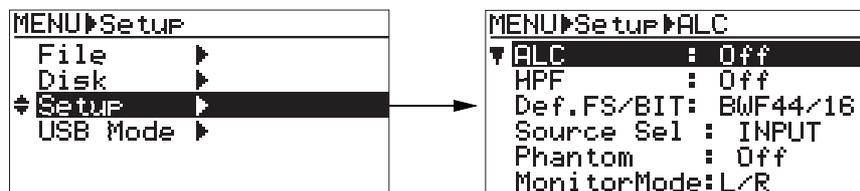
ソフトウェアのバージョンアップ

本機搭載のソフトウェアをバージョンアップします。

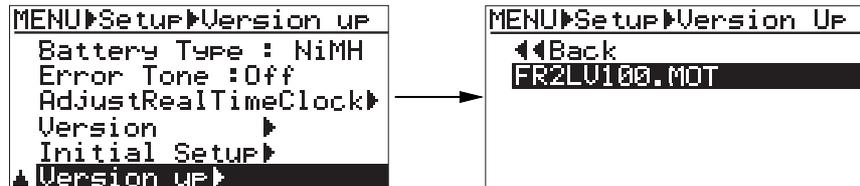
下記操作は、当社ホームページからダウンロード（または当社サービス部門より提供）した最新のソフトウェアを記録したメモリー・カードがスロットにセットされ、MENUモードのメイン・メニュー選択画面（“File >” が反転）が表示されていることを前提にしています。

<注意>：当社のホームページ（<http://www.fostex.jp>）からダウンロードするソフト・ウェアは、72ページ「第6章 PCへのインポート」に記載されている「メモリー・カードへのコピー」を参照して、FR-2LEのメモリー・カードへソフトウェアのファイルをコピーしてください。

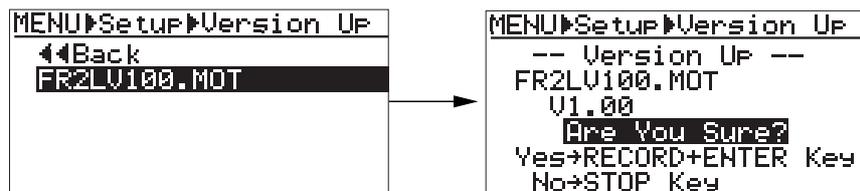
- 1) [+] / [-] キーで “ Setup > ” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。
実行メニューを選択する画面に変わります。



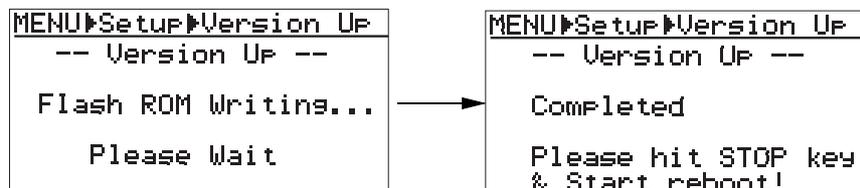
- 2) [+] / [-] キーで “ Version Up > ” を選択して、[MENU/ENTER] キーを押します。
メモリー・カードに記録されているソフトウェア（例 “ FR2LV100.MOT ”）が表示されます。



- 3) 続けて [MENU/ENTER] キーを押します。
バージョンアップの実行を確認する画面に変わり、“ Are You Sure? ” が点滅します。



- 4) [RECORD] キーを押しながら、[MENU/ENTER] キーを押します。
ソフトウェアの書き込みが始まり、終了と同時に “ Completed ” が点灯します。



- 5) [STOP/CANCEL] キーを押して MENU モードから抜け出します。

- 6) FR-2LE の電源を入れ直します。

バージョンアップ後は、必ず電源を入れ直してください。確実にバージョンアップされたかどうかは、前述 109 ページの操作でバージョンを確認してください。

第8章 製品の主な仕様

入出力

* 0dBu = 0.775Vrms、0dBV = 1Vrms

ANALOG IN <L/R>

コネクタ : XLR-PHONE コンボ・タイプ

< LINE 入力 >

コネクタ : 6mm TS PHONE ジャック (アンバランス)

入力インピーダンス : 10k 以上

基準入力レベル : -10dBV

最大入力レベル : +2dBV

< MIC 入力 >

コネクタ : XLR-3-31 タイプ (バランス、2番ホット)

入力インピーダンス : 6k 以上

基準入力レベル : -50dBu ~ -10dBu

最大入力レベル : +2dBu

ファントム : P48

MONITOR OUT <L, R>

コネクタ : RCA ピンジャック (アンバランス)

適合負荷インピーダンス : 10k 以上

基準出力レベル : -10dBV

PHONES

コネクタ : ステレオ・ミニフォン・ジャック

適合負荷インピーダンス : 32 以上

最大出力レベル : 15mW + 15mW (32)

USB 2.0 (PC 接続用)

コネクタ : Series " B " Receptacle

内蔵スピーカ

最大出力 : 300mW

記録 / 再生

記録メディア : コンパクトフラッシュ™・カード

ファイル・フォーマット : BWF (Broadcast Wave Format)、MP3 (MPEG Layer-3)

FS / 量子化 : 44.1kHz / 48kHz 16bit
: 44.1kHz / 48kHz / 88.2kHz / 96kHz 24bit
: MP3-192kbps

* MPEG Layer-3 オーディオ・コーディング技術は、Fraunhofer IIS および Thomson から実施許諾されています。

記録トラック	: ステレオ
記録 / 再生周波数	: 20Hz ~ 20kHz \pm 2dB (FS 44.1/48kHz) : 20Hz ~ 40kHz \pm 3dB (FS 88.2/96kHz)
S/N (ADC DAC間、24bit、Fs: 48kHz)	
LINE	: 95dB (Typical)
MIC (MIC TRIM: Max)	: 85dB (Typical)
ダイナミック・レンジ (ADC-DAC間、24bit、Fs: 48kHz)	: 95dB (Typical)
T.H.D. (ADC-DAC間、24bit、Fs: 48kHz)	
LINE	: 0.008%以下 (at 1kHz -1dB, Typical)
MIC (MIC TRIM: Max)	: 0.01%以下 (at 1kHz -1dB, Typical)
チャンネル・セパレーション	: 90dB以上 at 1kHz 0dB (24bit, Fs: 48kHz)
リファレンス・レベル	: -12dBFS
ロケート・メモリー	: CUE ポイント 99個 / ファイル

— 一般

外形寸法	: 57 (H) × 206 (W) × 132 (D) mm
本体質量	: 約 800g (バッテリー除く)
電源	: DC12V ACアダプタ (本機付属)
	
	: アルカリ / ニッカド / ニッケル水素電池 (単三 × 4本) 別売
	: タミヤバッテリー (7.2V) 別売
消費電力	: 約 3W

- * 製品の外観や規格は、改良のため将来予告なく変更することがあります。
- * 付属品の詳細については 17 ページを参照してください。

Fostex[®]

フォステクスカンパニー

宮沢オフィス

☎ 196-0024 東京都昭島市宮沢町512

☎ 042-545-6111 FAX. 042-546-6067

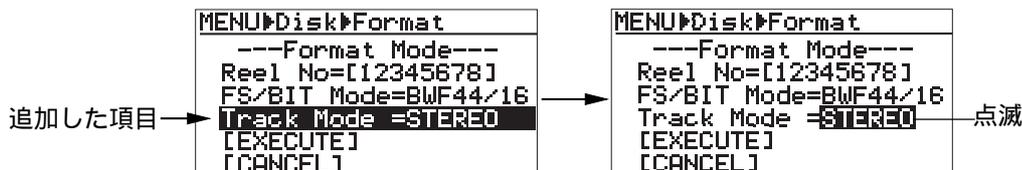
© PRINTED IN CHINA JANUARY 2007 8588 081 000 FX
(445481)

FR-2LE V1.10 対応 追補版

FR-2LEのソフトウェアをV1.10にバージョンアップして、MENUモードのDiskメニューとSetupメニューに下記の機能を追加しました。取扱説明書・本文のMENUモード解説と併せてお読みください。

(1) DiskメニューのFormatメニューに、記録するトラックのモード(ステレオ/モノ)を選択する項目を追加 (Formatメニューの詳細は取扱説明書・本文の93ページをお読みください)

追加した“Track Mode”を選択して[MENU/ENTER]キーを押すと、初期設定の“STEREO”が点滅して、[+]キー / [-]キーで“STEREO”または“MONO”が選択できます (MONO設定は保存されません)



<注意> : FS/BIT Modeを“MP3-192”に選択したときは、Track Modeは“MONO”に設定できません。“MONO”を選択してフォーマットを実行しようとしても上記ポップアップ画面が表示され、Track Modeは“STEREO”に再設定されます。

Cannot supported!
Mono File

<注意> : Track Modeを“MONO”に設定してフォーマットした場合、LCDのレベル・メータおよび本体フロント・パネル部にあるLEDメータはLチャンネルのみが機能し、内蔵マイクおよび外部入力端子もLチャンネルのみが使用可能になります (LCDのレベル・メータは右図のように変わります)。なお、モニター出力 (L/R) はLチャンネルの音声が出力されます。



(2) Diskメニューにメモリー・カードの情報を表示する“Disk Info.”メニューを追加

追加した“Disk Info.”を選択して[MENU/ENTER]キーを押すと、現在使用しているメモリー・カードのメーカー / 機種名などが表示されます (下記例を参照)



(3) SetupメニューにLEDレベル・メータの機能を選択する“Level LED mode”メニューを追加

追加した“Level LED mode”を選択して[MENU/ENTER]キーを押すと、現在の設定が点滅して [+] キー / [-] キーで“Peak”または“Level”が選択できます (設定は保存されます)



Peak (初期設定)	フロント・パネル部にあるLEDレベル・メータが、ピーク表示として機能します。
Level	フロント・パネル部にあるLEDレベル・メータが、レベル表示として機能します。

* LCD内のレベル・メータは設定に影響されません。

FR-2LE V1.20 対応 追補版

FR-2LE のソフトウェアを V1.20 にバージョンアップし、以下の機能を追加しました。
本書ではバージョンアップにより追加された機能についてのみ記載しておりますので、取扱説明書・本文および他の追補版と併せてお読みください。

(1) V1.10で追加したFormatメニューのトラック・モードにおいて、“圧縮モード(MP3)”でフォーマットする際のモノ・トラックが選択可能になりました。

トラック・モードの詳細については、同梱されている「V1.10 対応 追補版」をお読みください。

<注意> : Track Mode を “ MONO ” に選択すると、FS/BIT Mode は自動的に “ MP3-96 ” (MP3-96kbps の圧縮モード) に設定され、“ STEREO ” を選択したときは “ MP3-192 ” (MP3-192kbps の圧縮モード) に設定されます (下記図を参照)

```
MENU▶Disk▶Format
---Format Mode---
Reel No=[12345678]
FS/BIT Mode=MP3-192
Track Mode =STEREO
[EXECUTE]
[CANCEL]
```

< “ STEREO ” 選択時 >

```
MENU▶Disk▶Format
---Format Mode---
Reel No=[12345678]
FS/BIT Mode=MP3-96
Track Mode =MONO
[EXECUTE]
[CANCEL]
```

< “ MONO ” 選択時 >

< ご注意 ! >

< MP3 (圧縮モード) 記録時における変調ノイズについて >

圧縮モード (MP3-192 または MP3-96) で記録したソースを比較的静かな状況下で再生した場合、[PHONES] ボリュームを大きくすると背景音に変調されたような「ノイズ音」が聞こえることがあります。

これは、MP3 特有の変調ノイズであり、記録信号レベルおよび背景ノイズの周波数スペクトルに依存しています。そのため、このような変調ノイズが問題となる場合は「圧縮モード (MP3)」での記録は避け、「非圧縮モード (BWF)」で記録することをお勧めします。

(2) BWFのTime referenceに、内蔵RTC (Real Time Clock) から求めた記録時間のサンプル・ワードを記録するようにしました。

これにより、FR-2LE で記録した BWF フォーマットのファイルを BWF に対応した TC (出力) 表示可能なシステムで再生すると、24H RUN の時間情報が表示されるようになります。

Model FR-2LE 取扱説明書 ＜バージョン 1.30 対応 追補版＞

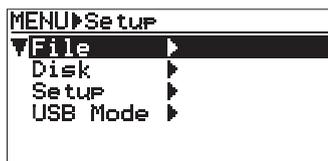
V1.30のFR-2LEでは、本機搭載のALC (Auto Level Control) 機能を拡張し、さらにはリモート・コントロールのキー機能を設定するための“Remote”メニューを新たに“Setup”メニューに追加しました。

本書ではバージョンアップにより追加された機能についてのみ記載しておりますので、ご使用の際は取扱説明書・本文および他の追補版と併せてお読みください。

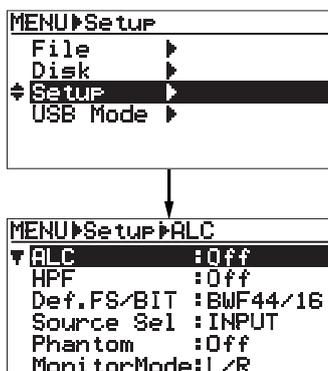
“ALC (Auto Level Control)” 機能を拡張

MENU モードの“Setup”メニューにある“ALC (Auto Level Control)”メニューにおいて、録音レベルを最大限利用するために入力信号を制御するモードを追加しました。マイクでの記録時など、マイクの過大入力信号を制御して安定した記録が可能になります。バージョンアップ以前の“ALC”メニューの設定方法については取扱説明書・本文の91ページに記載されていますが、バージョンアップ後の設定は下記手順で行ってください。

- (1) 停止状態で [MENU/ENTER] キーを押して、MENU モードの画面を表示させます。

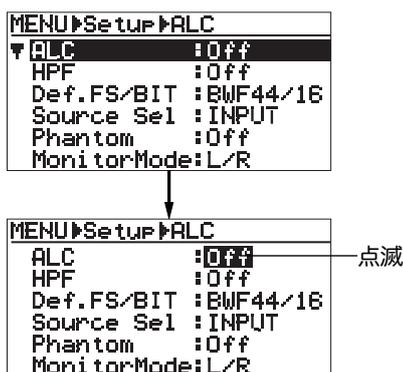


- (2) [-] キーを押していき、“Setup”メニューを反転させた後 [MENU/ENTER] キーを押します。



- (3) “ALC”メニューが反転している状態で [MENU/ENTER] キーを押します。

現在設定されているモードが点滅します。



- (4) [+] キーまたは [-] キーを押して希望のモードを選択した後、[MENU/ENTER] キーを押して確定します。

モードは、初期設定の“Off”以外に次表に記載したモードが選択可能です。“Off+12dB”および“LIM+12dB”モードを新たに追加しました。

なお、確定後は [STOP/CANCEL] キーを押して MENU モードから抜け出します。

<Memo> :FR-2LE本体の [REWIND] キーを押すと、現在表示されている画面の一つ前の画面に戻り、[REWIND] キーを押していくと最終的にはMENUモードから抜け出すことができます。

モード	動作の詳細
Off (初期設定)	ALC/Limiter とともに機能しません。
On	ALC が機能します。
Limit	ATACK 最小、Release 最大に設定された、リミッターとして機能します。
Off+12dB	デフォルト・ゲイン+12dB 固定に設定します。
LIM+12dB	デフォルト・ゲイン+12dB にリミッターを加えて機能します。

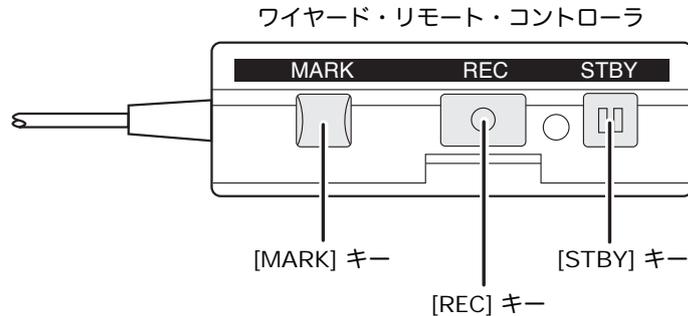
<Memo> : “ALC”メニューの設定は、MENU モードで設定する以外にクイックセットアップ・モードでも行えます。クイックセットアップ・モードの操作手順については、取扱説明書・本文の55ページを参照してください。

<注意> : MENUモードとクイックセットアップ・モードにおけるモード表示は、以下のように異なりますのであらかじめご承知置きください。

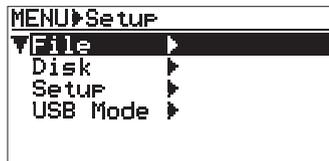
選択するモード	クイックセットアップ・モードでの表示	MENUモードでの表示
Off	OFF	Off
On	ON	On
Limit	LIMIT	Limit
Off+12dB	+12dB	Off+12dB
LIM+12dB	LIM12	LIM+12dB

“Remote” メニューを新たに追加

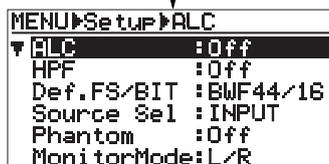
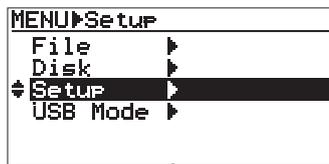
本機に付属しているワイヤード・リモート・コントローラのキー機能を変更する“Remote”メニューをMENUモードの“Setup”メニューに追加しました。工場出荷時は初期設定のモード(“MRK:REC:STB”)になっていますので、用途に応じて設定を変更するには下記手順で行ってください。



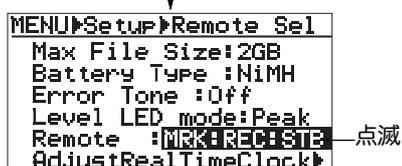
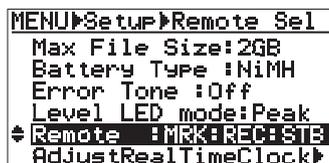
- (1) 停止状態で [MENU/ENTER] キーを押して、MENUモードの画面を表示させます。



- (2) [-] キーを押していき、“Setup”メニューを反転させた後 [MENU/ENTER] キーを押します。



- (3) [-] キーを押していき、“Remote”メニューを反転させた後 [MENU/ENTER] キーを押します。現在設定されているモードが点滅します。



- (4) [+] キーまたは [-] キーを押して希望のモードを選択した後、[MENU/ENTER] キーを押して確定します。

モードは初期設定の“MRK:REC:STB”の他に“STP:PLY:STB”が選択でき、設定するモードによってコントローラの各キーが下記表の機能を果たします。

なお、確定後は [STOP/CANCEL] キーを押してMENUモードから抜け出します。

< Memo > : FR-2LE 本体の [REWIND] キーを押すと、現在表示されている画面の一つ前の画面に戻り、[REWIND] キーを押していくと最終的にはMENUモードから抜け出すことができます。

	設定するモード	
	MRK:REC:STB (初期設定)	STP:PLY:STB
[MARK] キー	[MARK]キーとして機能します	[STOP]キーとして機能します
[REC] キー	[REC]キーとして機能します	[PLAY]キーとして機能します
[STBY] キー	[REC STBY]キーとして機能します	[REC STBY]キーとして機能します

- * MRK: MARK
- * REC: RECORD
- * STB: STANDBY
- * STP: STOP
- * PLY: PLAY

Fostex

フォステクスカンパニー

宮沢オフィス

〒196-0024 東京都昭島市宮沢町512

☎ 042-545-6111 FAX. 042-546-6067